

O R I G A M I

T A N T E I D A N

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 **635円**
(本体605円)

クローズアップ Close-up

4OSME

—折り紙学術研究の最前線—

The 4th International Conference on
Origami Science Math & Education

川崎英文

Kawasaki Hidefumi

折り図 Diagrams

アジアゾウ

Asiatic Elephant

神谷哲史

Kamiya Satoshi



展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

佐々木禎子像

A Statue of Sasaki Sadako

堀口直人

Horiguchi Naoto

つまみおり Information

国際交流基金派遣レポート

Yamaguchi Makoto Delegated to
Post-Soviet Central Asian Nations

通巻 **100** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

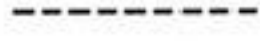
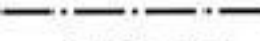
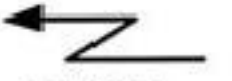
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

 谷折り線 Line indicating valley fold	 山折り線 Line indicating mountain fold	 手前に折る Fold paper forwards	 後ろへ折る Fold paper backwards	 折り筋をつける Making a crease line	 段折り Pleat fold
 裏返す Turn paper over	 引き出す Pull out	 図の見る位置が変わる Rotation	 図が大きくなる A magnified view	 見えないところ A hidden line	 押す、押しつぶす Push paper in
					 切る Cut

表紙解説

アジアゾウ

作: 神谷哲史 (P.22)

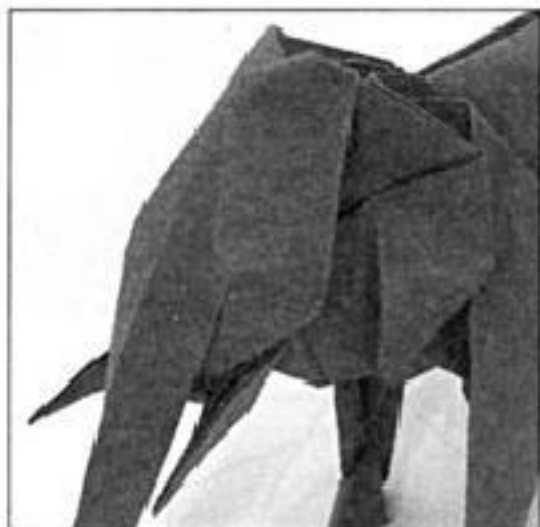
Asiatic Elephant

by Kamiya Satoshi (P.22)

■新世代組を総動員して折り上げた、あの巨大折り紙アジアゾウがついに折り図化。夏のコンベンション会場で見ても、圧倒されたというかたも多いことでしょう。重量感のある完成デザインだけでなく、大きな作品となっても折りやすいように工夫された構造・工程を、じっくりとすみずみまで味わってみてください。

(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi

No. **100**



Asiatic Elephant : Kamiya Satoshi

クローズアップ／Close-up

P.11 **4OSME**
-折り紙学術研究の最前線-

**第4回 折り紙の科学・
 数学・教育国際会議**

The 4th International Conference on
 Origami Science Math & Education

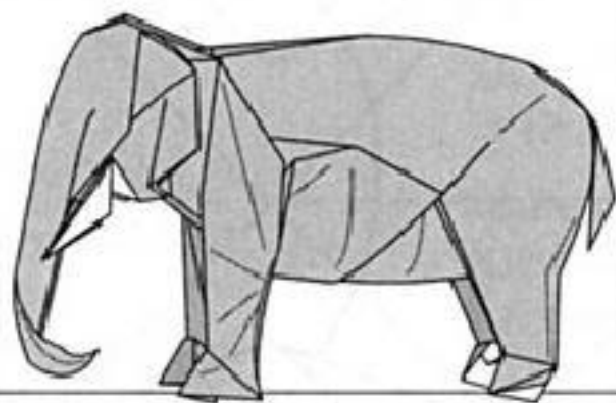
川崎英文
 Kawasaki Hidefumi

折り図／Diagrams and Crease Pattern

P.22 **アジアゾウ**

Asiatic Elephant

神谷哲史 Kamiya Satoshi



P.34 **展開図折りに挑戦!**
 Crease Pattern Challenge!

佐々木禎子像

A Statue of Sasaki Sadako

堀口直人 Horiguchi Naoto

カラーページ／Color

P.20 **オリガミ・フォトギャラリー**
 Origami Photo Gallery

解説・北條高史
 Comments : Hojyo Takashi

折り図／Thematic Series with Diagrams

P.4 **やわらかユニット物語**

The Stories of Mellow Units

たまにはオシャレに

Make Modules Up!

川村みゆき

Kawamura Miyuki

P.8 **おりがみ我楽多市**

Origami Odds and Ends

サンタクロース

Santa Claus

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

読み物／Articles

P.14 **アフタヌーン・オリガミ**

Afternoon Origami

升マトリョーシカ

Masu Matrioshki

デビッド・ブリル

David Brill

翻訳：羽鳥公士郎
 Translator : Hatori Koshiro

P.16 **藤本修三研究**

Fujimoto Shuzo's Asymptotic

蛇腹円筒作品群

Pleat-Based Cylindrical Works

北條高史

Hojyo Takashi

P.18 **しつこく折紙散歩**

Origami Sampo Doggedly Determined

堀内正和氏の彫刻に折り紙を思う

Sculptures by Horiuchi Masakazu: Reminiscing of Origami

前川 淳

Maekawa Jun

P.35 **ペーパーフォルダーの横顔**

Paper Folders on File

木村良寿 Kimura Yoshihisa

取材：西川誠司

Nishikawa Seiji

コラム／Columns

P.7 **折り紙の周辺**

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

P.32 **おりすじ**

Orisuzi ("Fold-Creases")

池上牛雄

Ikegami Ushio

情報／Information

P.33 **第1回「折り紙の科学・数学・教育研究集会」開催**

Notice of a Local Meeting: The 1st Symposium on
 Origami in Science, Math and Education

P.36 **つまみおり** Rabbit Ear

国際交流基金派遣レポート

Yamaguchi Makoto Delegated to
 Post-Soviet Central Asian Nations



川村みゆき
Kawamura Miyuki

第 21 話 たまにはオシャレに Make Modules Up!

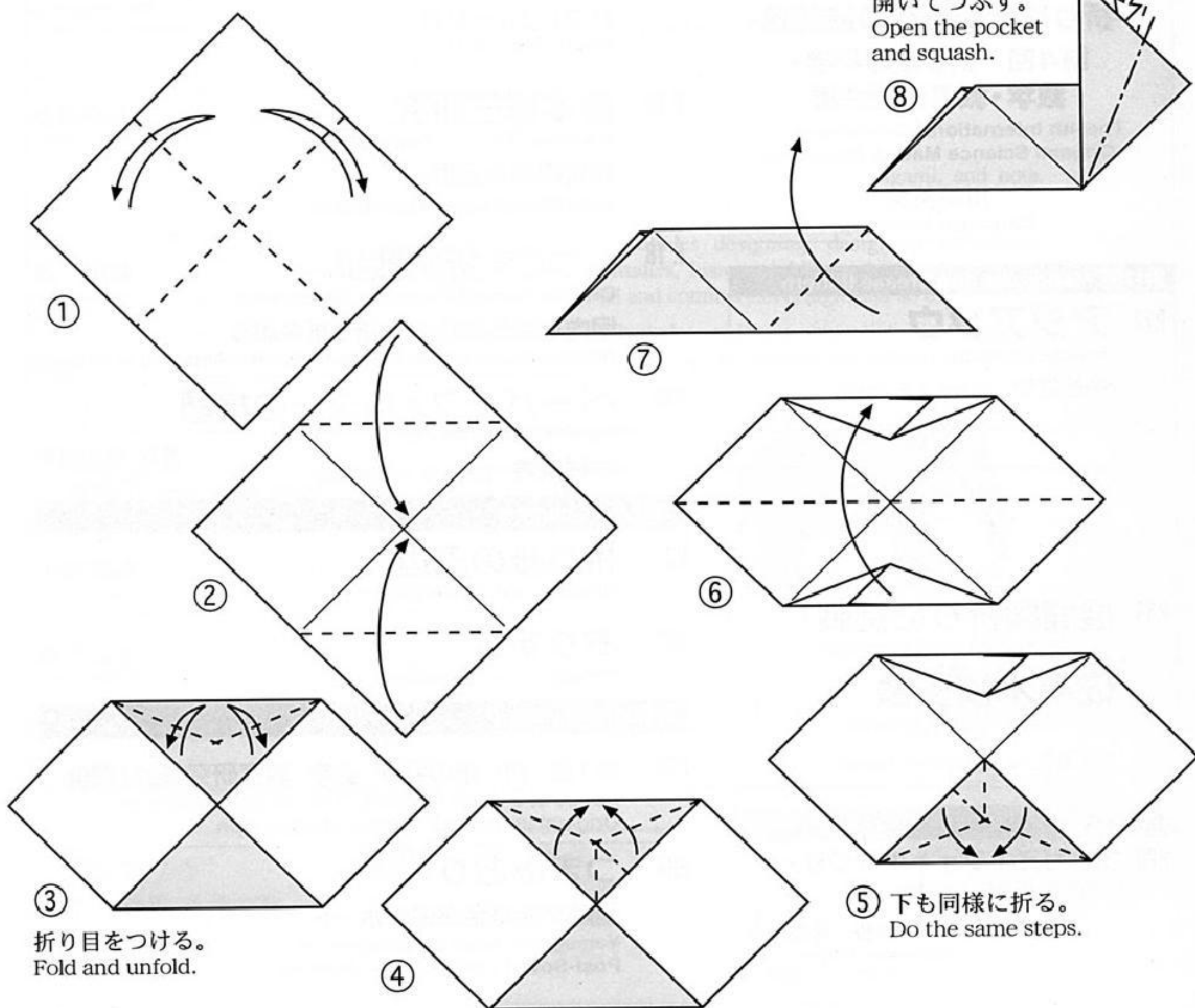
ユニットにちょっとしたアクセントをつけると作品の表情がガラリと変わります。数が多くて手間ですが、綺麗な曲線で飾って下さい。

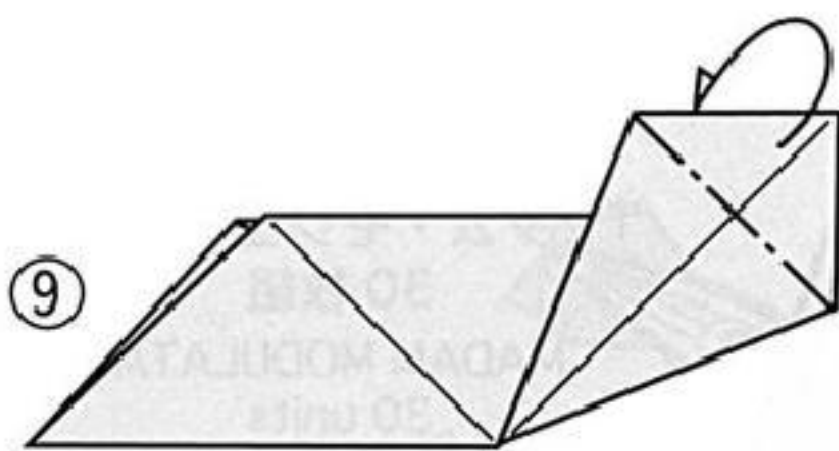
Impressions of a model drastically change by adding a little "accent" to modules. Although time and efforts are taken since you need to do numerous extra folds, why not decorate your model with beautiful curves?



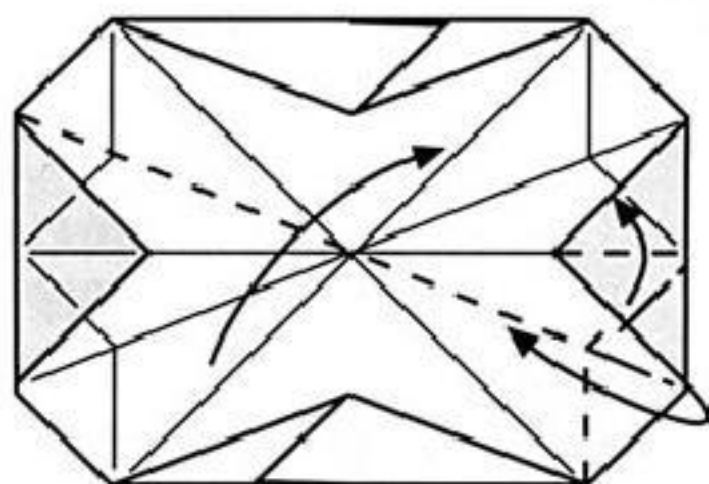
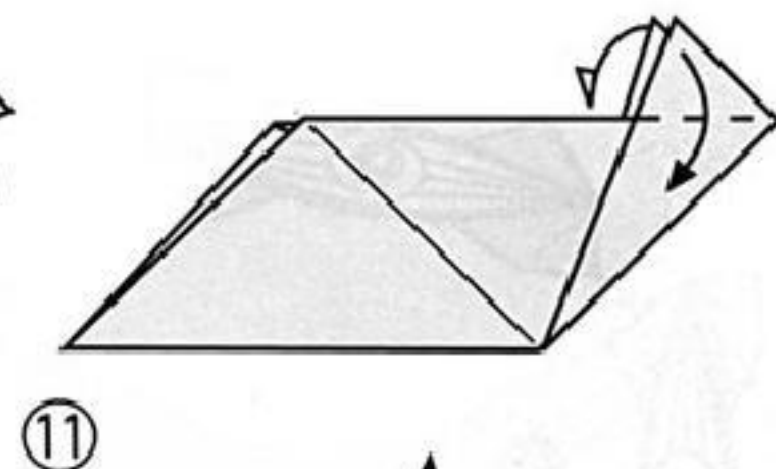
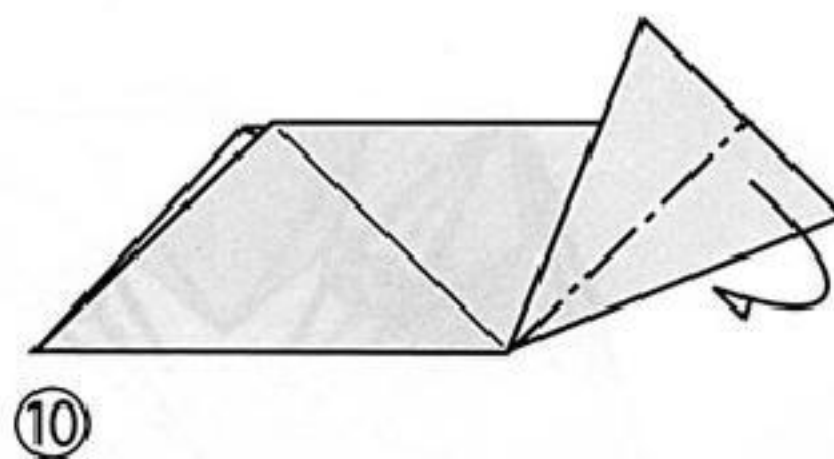
【マダム・モジュラータ】 MADAM MODULATA

©2006 Miyuki Kawamura
Created 20060823

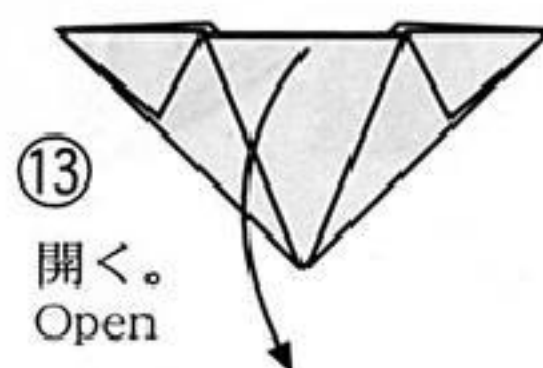




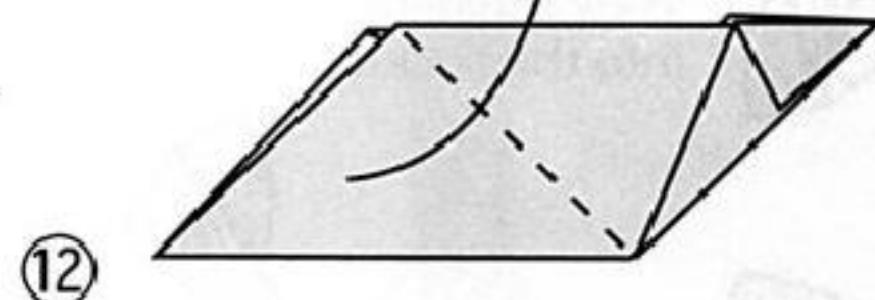
⑨ カドの先をポケットに差し込む。
Tuck the flap into the pocket.



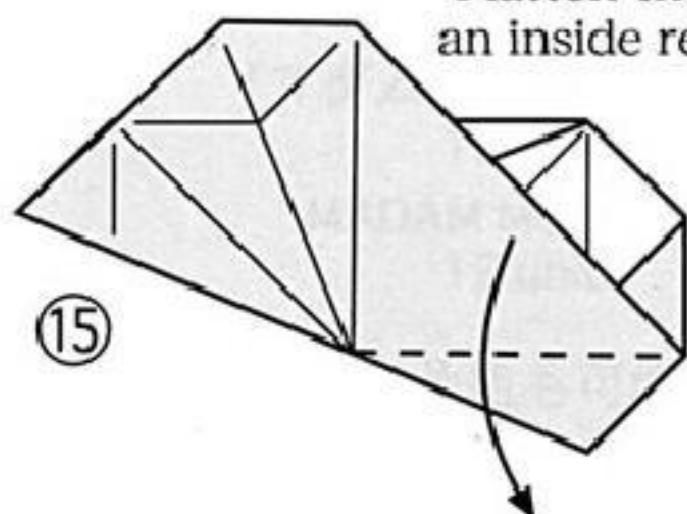
⑭ 中割り折りしてたたむ。
Flatten the model while adding
an inside reverse fold.



⑬ 開く。
Open



⑫ 左側も⑦～⑪と同様に折る。
Do the same steps as ⑦ to ⑪.

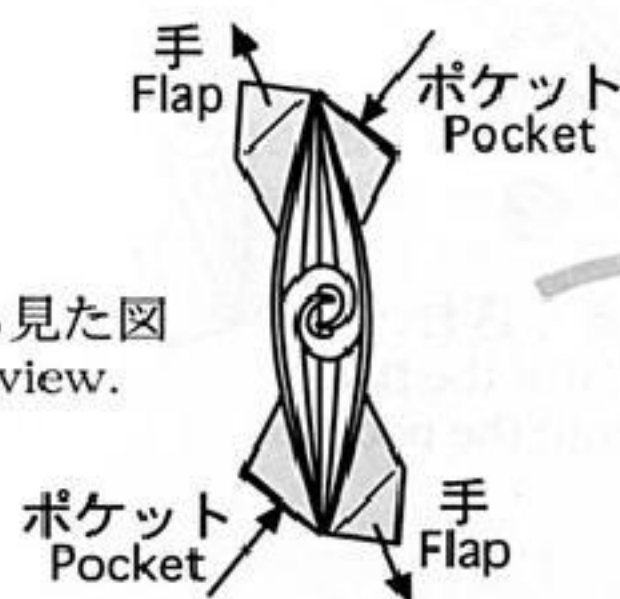


⑮

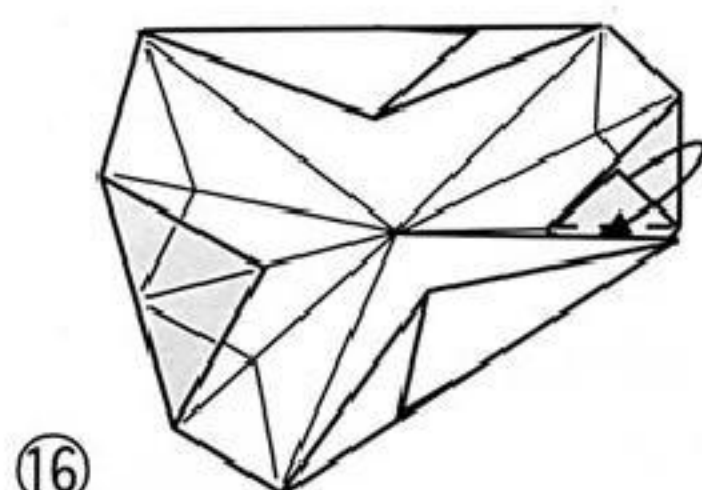


⑳ 互い違いに
噛み合わせる。
Tuck the flaps
into each other.

上から見た図
Top view.



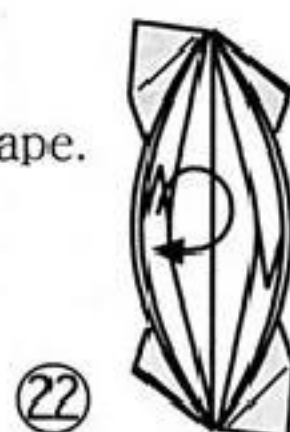
「マダム・モジュラータ」のユニット
The MADAM MODULATA unit
同じものを30枚作ります。
You need 30 units.



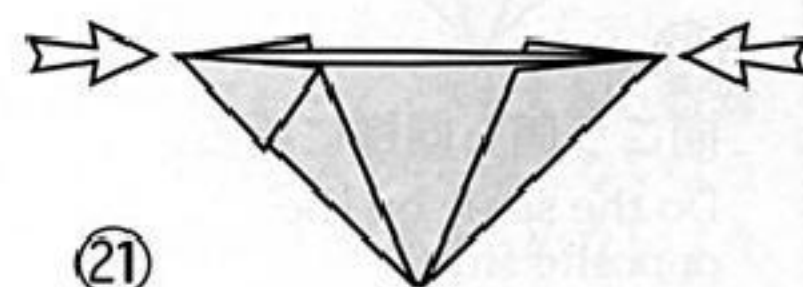
⑯ カドをポケットに差し込む。
Tuck the flap into the pocket.



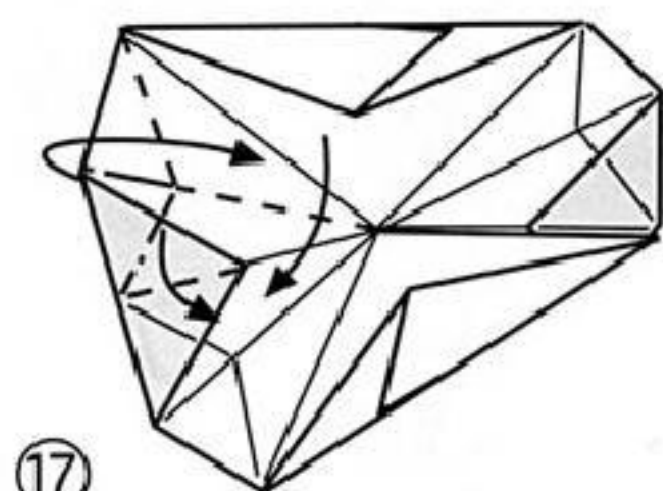
㉓ カドをカーブ
させる。
Make a flap
curved into
a rounded shape.



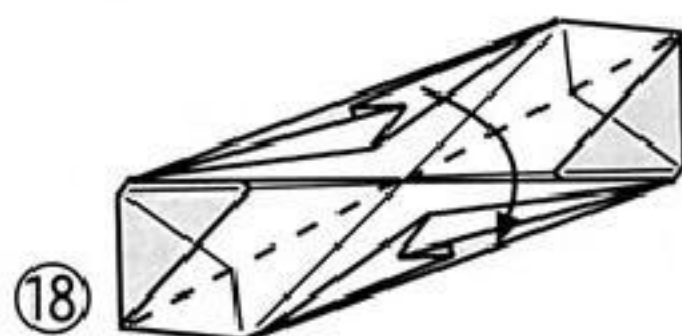
㉒ カドをカーブ
させる。
Make a flap curved
into a rounded shape.



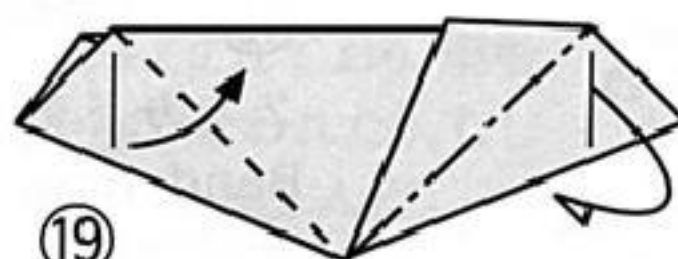
㉑ 円錐状に立体化する。
Make a cone shape and
the model becomes 3-D.



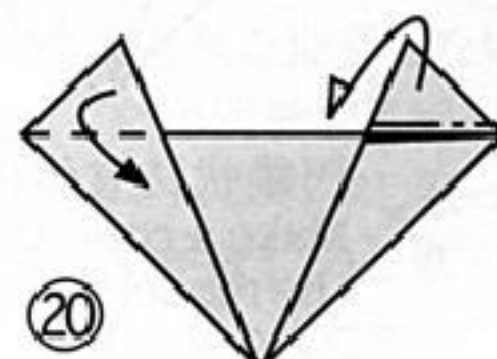
㉑ 左側も⑭～⑯と同様に折る。
Do the same steps as ⑭ to ⑯.



⑮



⑮



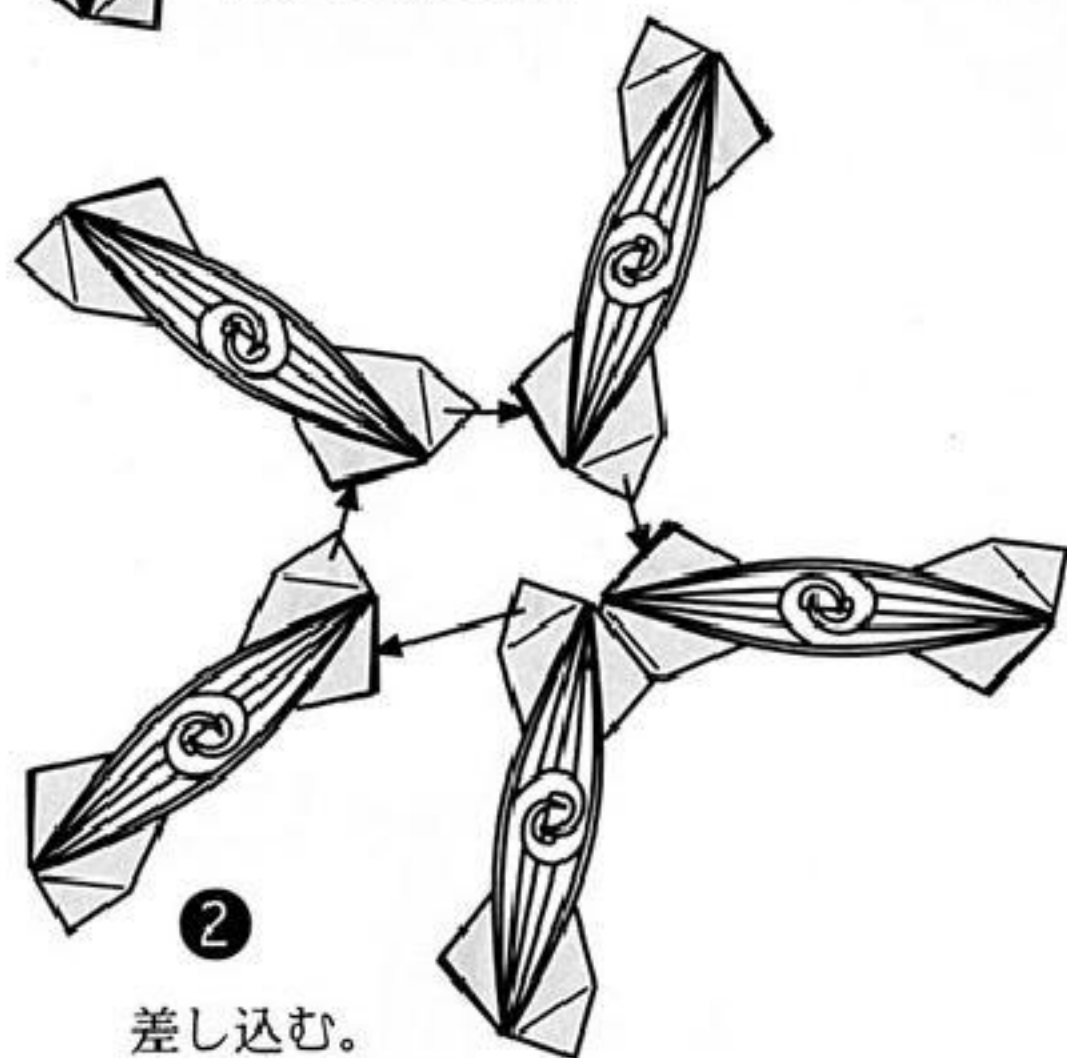
⑮

組み方 / Assembly



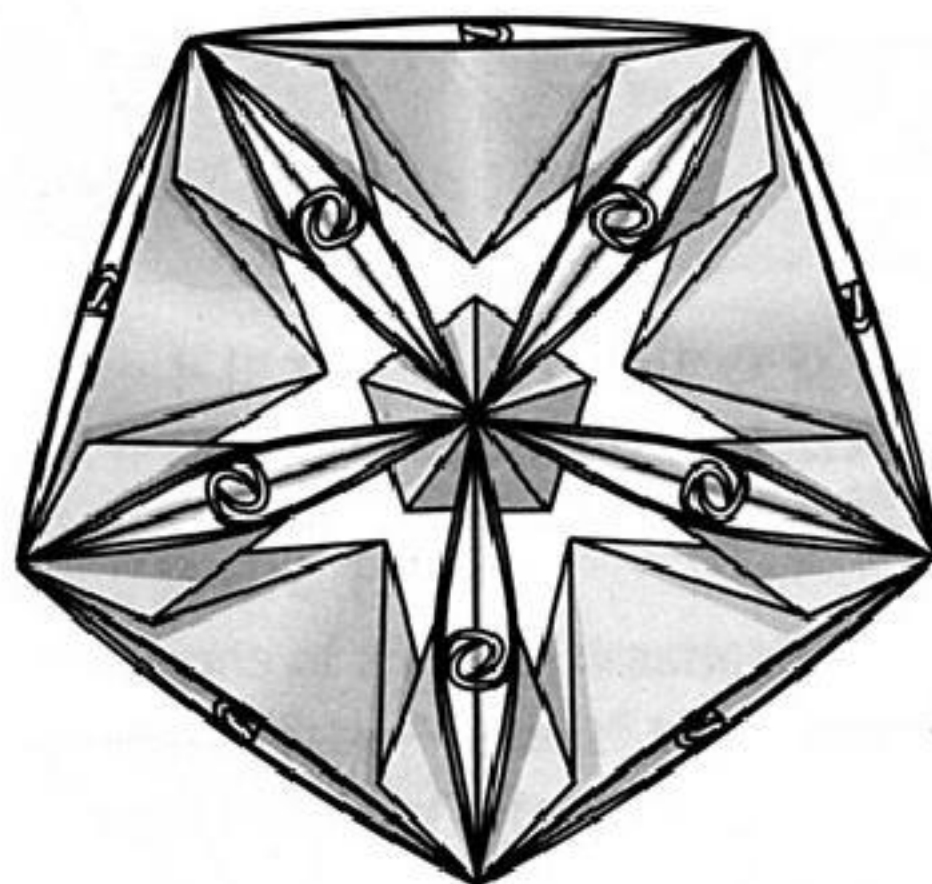
①

差し込む。
Tuck the flap
into the pocket.



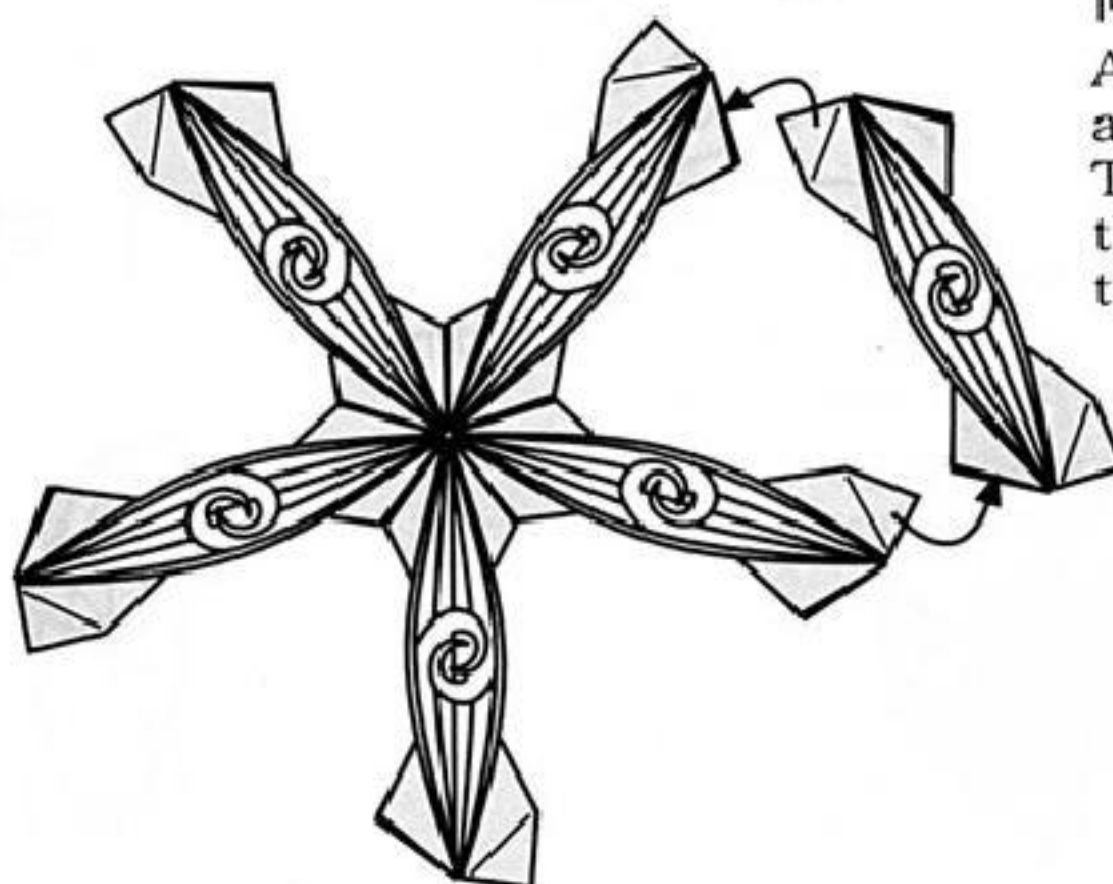
②

差し込む。
Tuck the flaps
into the pockets.



「マダム・モジュラータ」
30 枚組
MADAM MODULATA
30 units

※ 12 枚組も可能です。
You can make a model
with 12 units too.

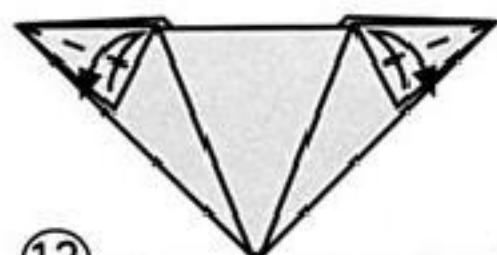


③

穴が3角形になる
ように組む。
残りのユニットも
同様に組んでいく。
Assemble and make
a triangle ring.
Tuck and assemble
the other units in
the same way.

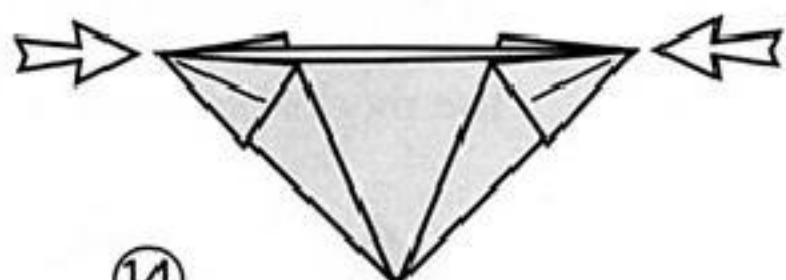
★ バリエーション Variations

マダム・モジュラータの⑬から。
Start from the step ⑬ of the "MADAM MODULATA".



⑬

向こう側も同様に折る。
Do the same on the
opposite side.



⑭

円錐状に立体化する。
Make a cone shape and
the model becomes 3-D.



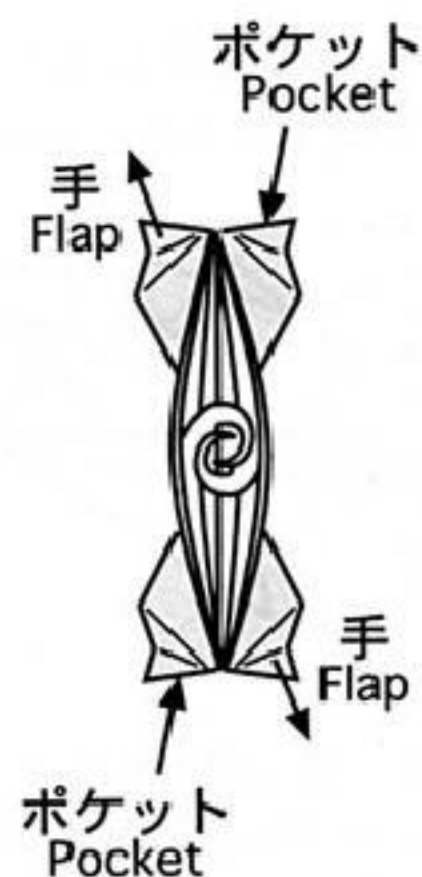
⑯

互い違いに
噛み合わせる。
Tuck the flaps
into each other.



⑮

2つカドをカーブさせる。
Bend flaps into rounded
shapes.



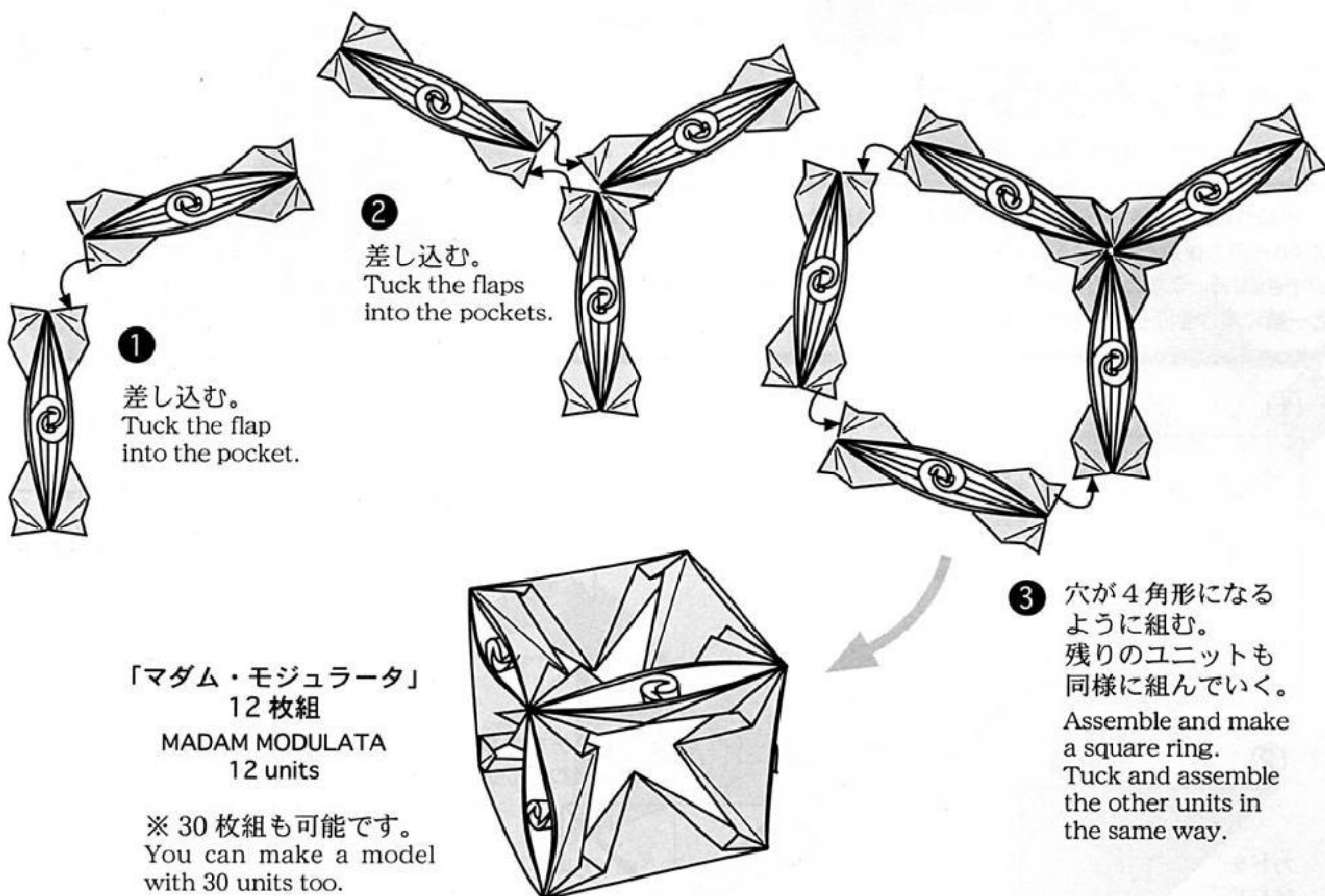
ポケット
Pocket

手
Flap

手
Flap

ポケット
Pocket

上から見た図
Top view.



折り紙の 周辺

第20回 教わる側、教える側 Viewpoints from Learners and Teachers

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

秋に2つのデジカメ撮影講習を受ける機会があった。ひとつは隣村の公民館が主催の教室で全5回。私にとってあこがれの、全国的に名も力もある先生がいらっしゃるということで意気込んで出かけた。しかし参加者は12~13名ほどで、セミプロ級がいる一方、人数合わせにはじめてデジカメを買って参加したという主催関係者も含まれており、私と

てド素人。どう指導されるのかと案じた。結論からいうと、教わる側が技術的にも知識的にもばらばらで、この受講者にはもったいない先生だった。そして当たり前だが、一回や二回の講習で飛躍的に技術が伸びるものではない、と思い知った。

もう1つは一回きりの講座だったので、それぞれ写したものを皆で見ながら、良いところをすくいあげた先生の講評を聞く、というものだった。

両方の講座とも、意気込んで出かけた分空気が抜けたが、隣村の講座は、車で村の名所をあちこちめぐって撮影するというもので遊山気分。猫を供養する「猫寺」の存在を知ったり、参加者の家も撮影対象にふくまれており、座敷にあがって茶菓を振る舞われたり、むしろその牧歌的雰囲気を楽しんだ。

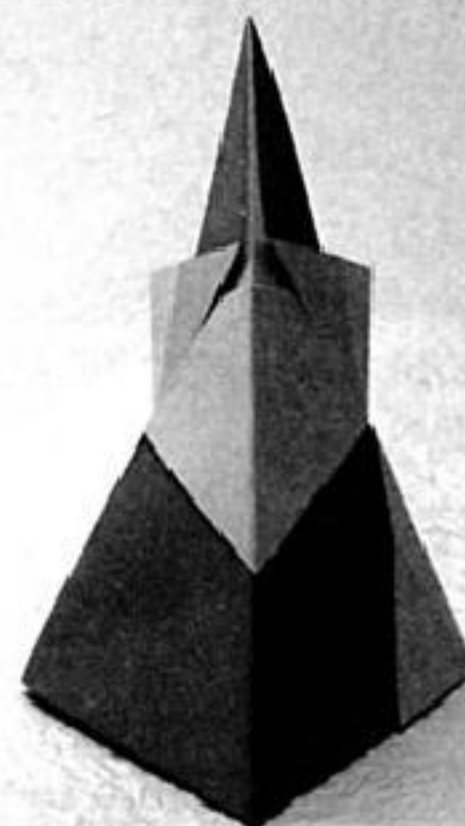
2つの講座に出ながら教える側のむずかしさに思いをめぐらせた。同じような状況で折紙講習をすることが過去に度々あり、なんとか凌いできたが、技術の差の大きいまちまちな人を相手にするのはむずかしい。話術やパフォーマンスも大きい要素だろう。できる人が失望しないように、できない人があきらめないように。そしてみんなに何か新しいものをつかんで喜んで帰っていただきたい。とそれが理想。しかし作家は必ずしもよい講師とは限らないので、私の場合過剰な期待しないでください。また今回教わる側として、ほめるばかりではなく、少し突っ込んだアドバイスが欲しいと思ったのは、教える側に立ったときのための収穫だった。

第21回 サンタクロース

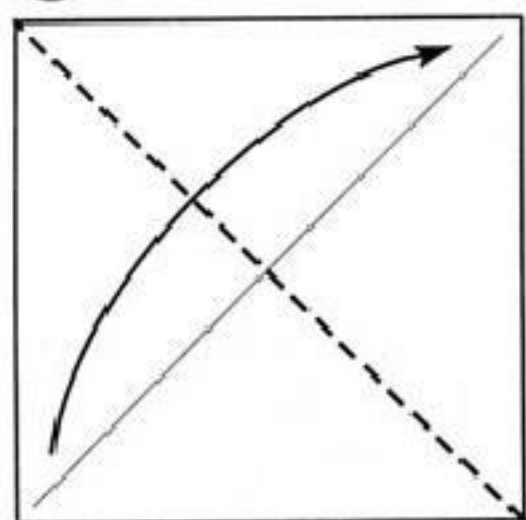
Santa Claus by Komatsu Hideo

小松英夫:作・図

小松作品らしい温もりを感じるサンタさん。小松氏曰く「サンタクロースは過去たくさんの方が創作しているテーマですが、私もようやく1作品をものにすることができました。今年のクリスマス・シーズンに向けて、他の様々なクリスマス作品と一緒に本作を折っていただければ幸いです。」



①



対角線に
折り筋を
つけてから
三角に折る

②



カドを
合わせて
折る

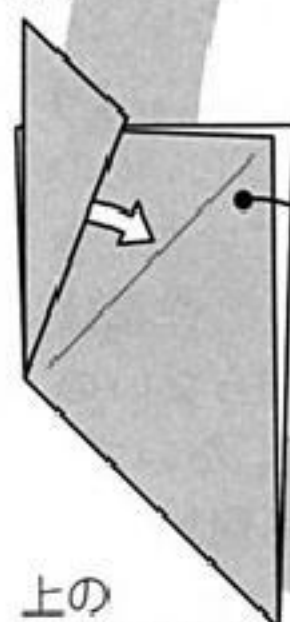
③



フチを
合わせて
折る

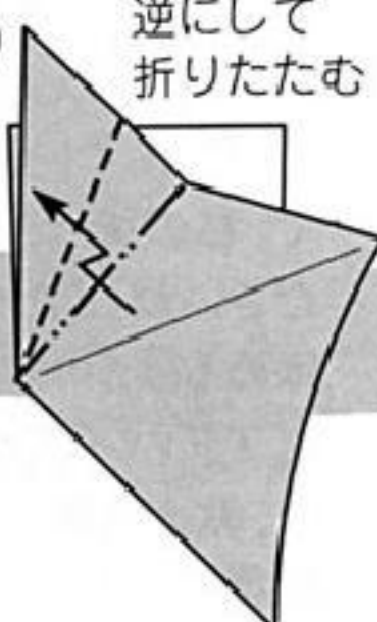
できるだけ
正確に折ること

④



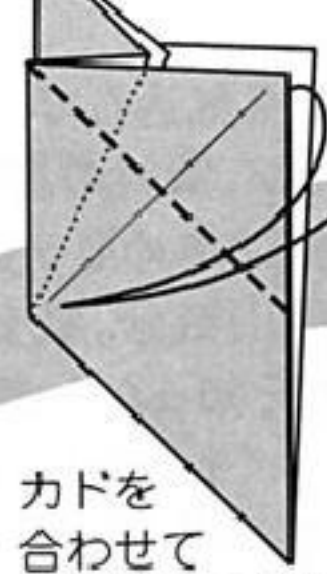
上の
1枚だけ
引き出す

⑤



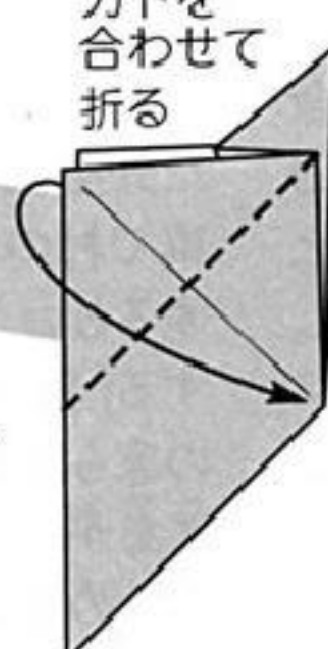
山谷を
逆にして
折りたたむ

⑥



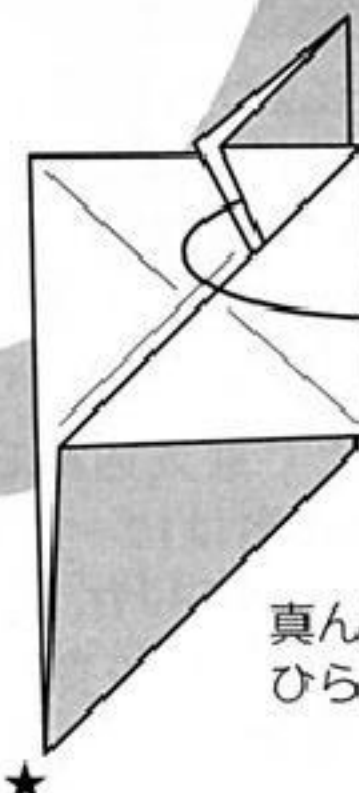
カドを
合わせて
折り筋をつける

⑦



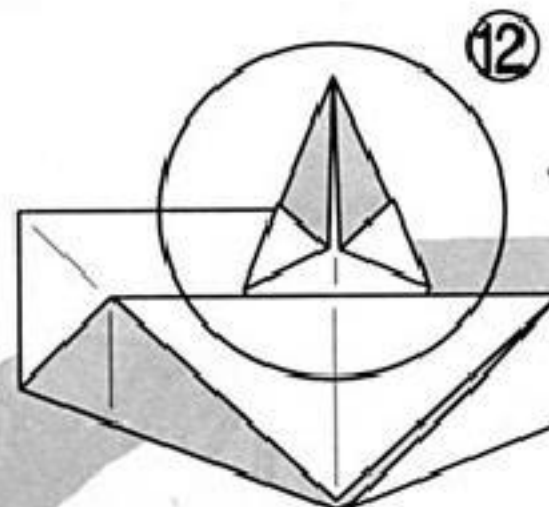
カドを
合わせて
折る

⑧

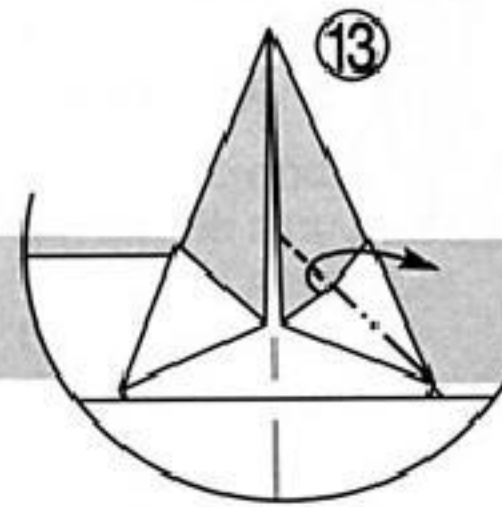


真ん中で
ひらく

⑫

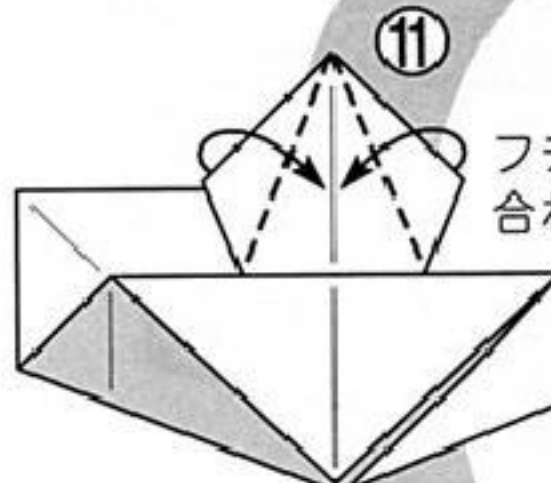


⑬



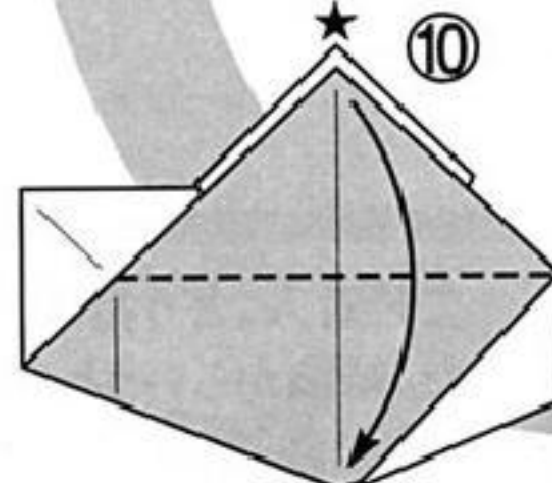
ずらすように
折ってつぶす

⑪



フチを折り筋に
合わせて折る

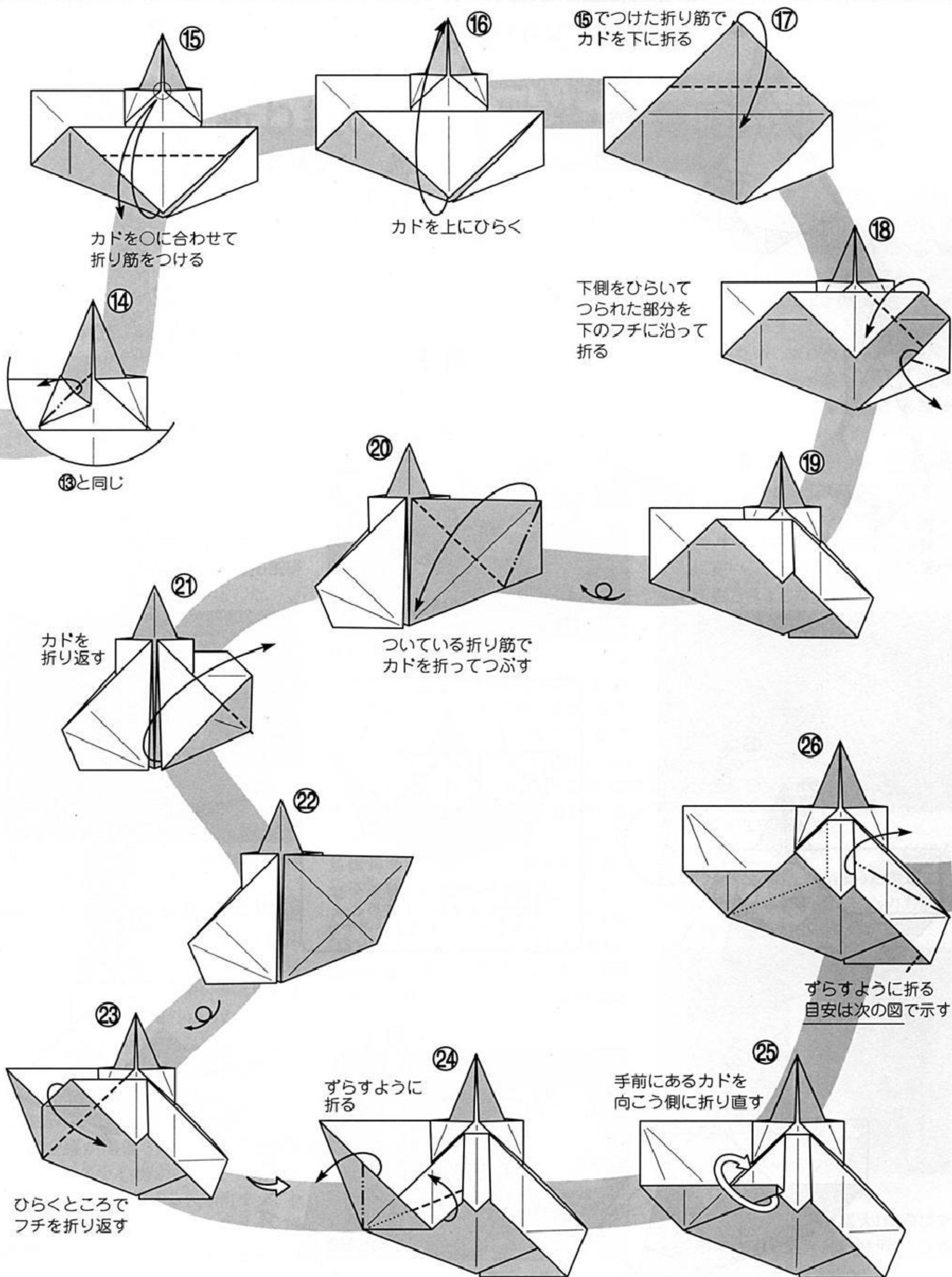
⑩

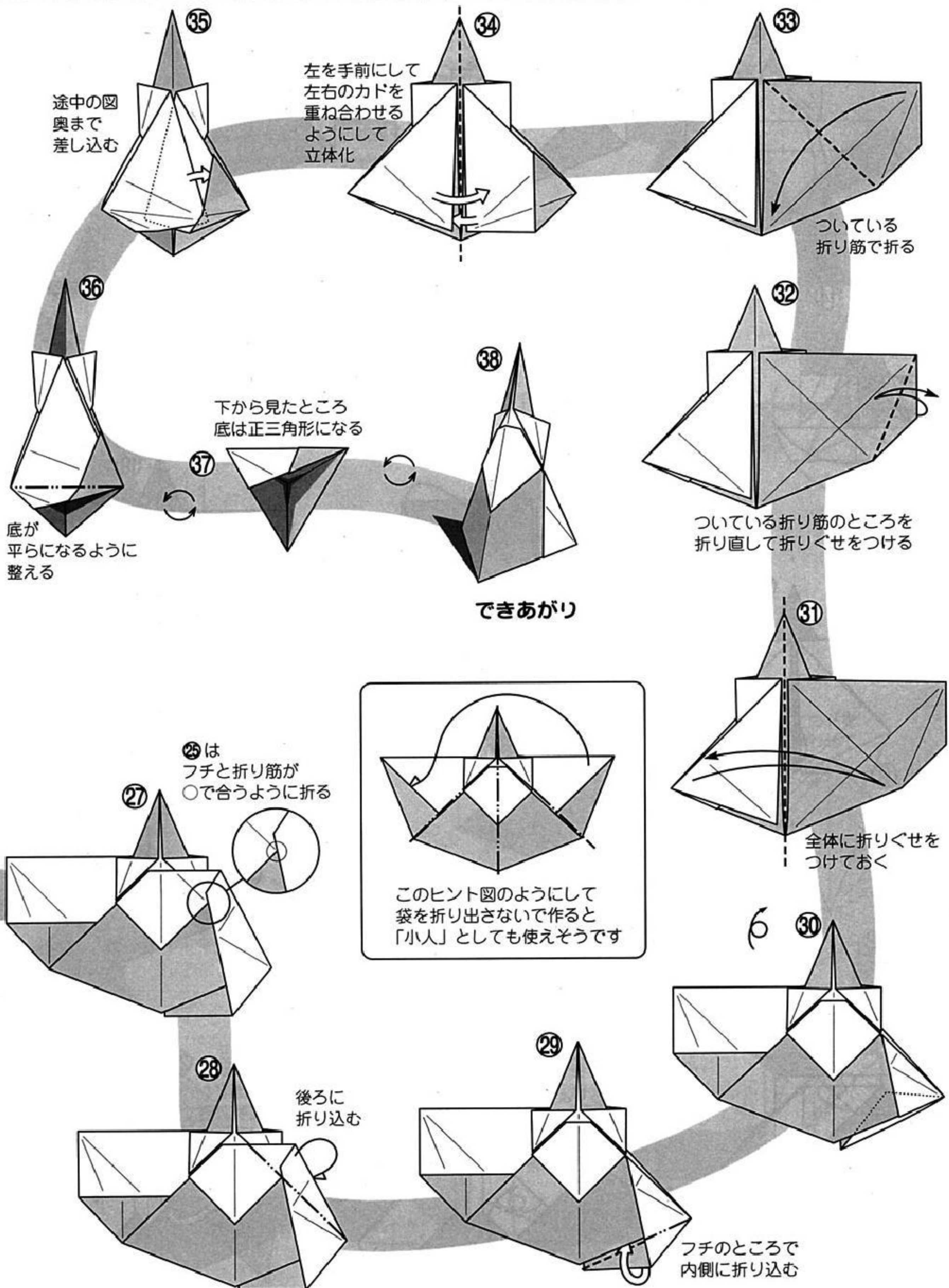


上の1枚だけ
折る

持ち上がったカドを
上のカドに合わせて
全体を平らに
つぶす

紙がずれない
ように注意





4OSME - 折り紙学術研究の最前線 -

The 4th International Conference on Origami Science Math & Education

第4回 折り紙の科学・数学・教育国際会議

川崎英文 (九州大学) Kawasaki Hidefumi

第4回折り紙の科学・数学・教育国際会議が9月8日から10日までの3日間、米国のカリフォルニア工科大学(パサデナ)で開催されました。本誌でもおなじみのロバート・ラング氏が実行委員長を務め、155名もの参加者を集めた盛会になりました。

1. 4OSMEのあゆみ

故藤田文章先生が立ち上げた記念すべきイタリア・フェラーラ会議(1989年)、三浦公亮委員長による大津会議(1994年)、トム・ハル委員長による米国・アシロマー会議(2001年)を経て、今回パサデナにおいて第4回会議が開かれました。本会議は、折り紙に関する世界最高の学術会議であり、折り紙研究の新潮流を提示するとともに、日本の折り紙研究に一石を投じる大会となりました。



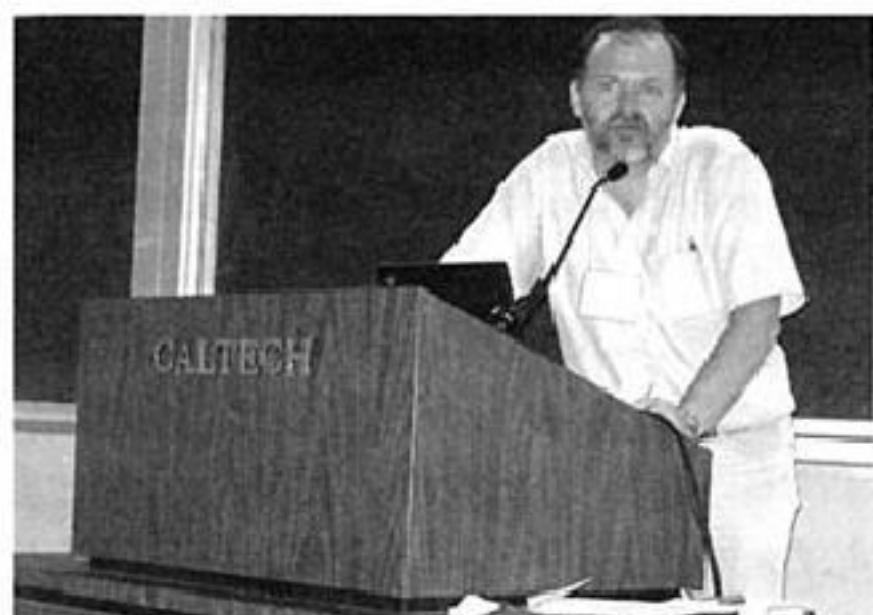
◆ ビアレストラにて、日本折り紙界の諸問題を論じる布施、前川、羽鳥、川崎各氏

な町です。会場のカリフォルニア工科大学は西のCALTECH、東のMITと並び称され、ノーベル賞受賞者を30名以上輩出した名門中の名門です。



◆ 異国情緒あふれるキャッスル・グリーン

本会議には亜米利加、日本、独逸、波蘭、イスラエル、伊太利亚、瑞典、奥太利、濠太刺利、マレーシア、加奈陀、新西蘭、コロンビア、英吉利の14カ国から155名が集い、折り紙の工学、計算機科学、数学、教育に関して、全体講演2件を含む70件の研究発表がありました。特に計算機科学と折り紙設計の研究が進展している事を印象付ける会議となりました。レセプションにおいて、ラング氏がOSMEをOrigami Science, Math. & Engineeringと誤って説明してしまい会場の笑いを誘ったのも、そのような背景があつてのことでしょう。



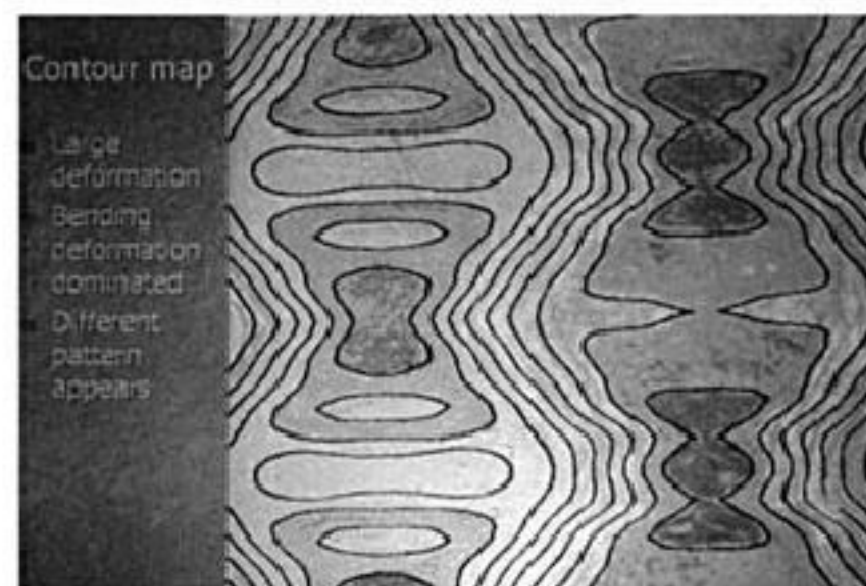
◆ 全体講演の司会を務めるラング氏

講演会場は中庭を挟んだ3ヶ所に分かれていましたが、会議は非常によく計画され、充実した大会を快適に楽しむことが出来ました。この場をお借りして、実行委員、ボランティアの方々、Origami USA にお礼申し上げます。

本稿では折り紙の数学、工学、計算機科学に関する発表を中心に講演概要を報告したいと思います。

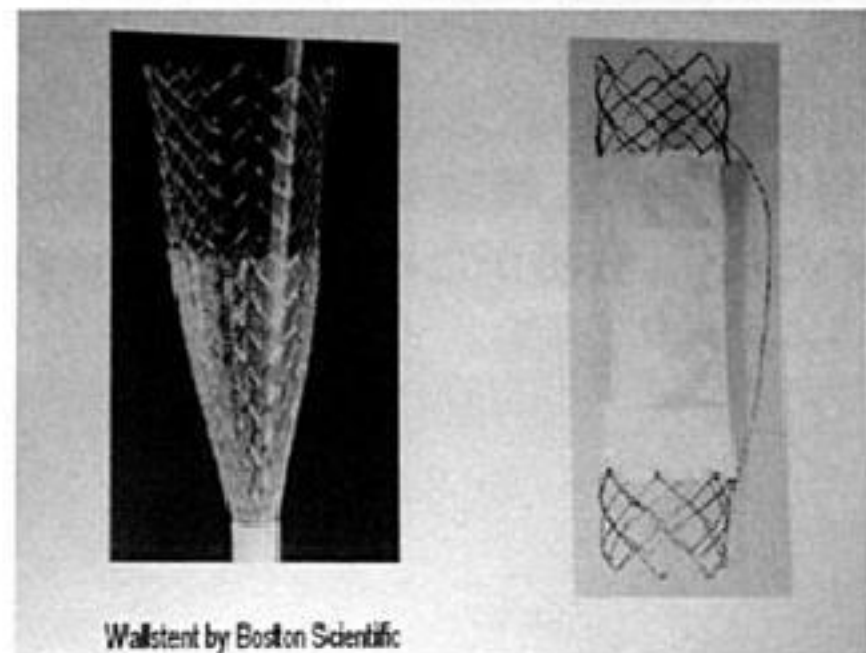
3. 折り紙工学

フェラーラ会議から4回連続の参加者は三浦先生を含めて2名しかいません。三浦先生は、美しいカラー画像をふんだんに使い、三浦折りが生まれたいきさつを解説されました。



◆ 三浦折りの生成過程

ヤウ氏(英)は医療工学への応用を紹介しました。血栓で詰まった血管に折り畳んだチューブを挿入したのち展開し、血管を広げる試みです。



◆ 医療工学への折り紙技術の応用

ミンさん(マレーシア・東大)は飛び出す絵本の原理を数学的に解析し、建築への応用を目指しています。

2. パサデナ会議の概要

2004年に東京で開催された折紙探偵団コンベンション第10回記念大会に参加された読者の方も多いかと思います。記念大会は国内外からのゲストを迎えての大規模かつ高品位の折り紙発表会+折り紙講習会+学術研究発表の場でしたが、4OSMEはそれとは趣が異なる折り紙の国際学術会議でした。

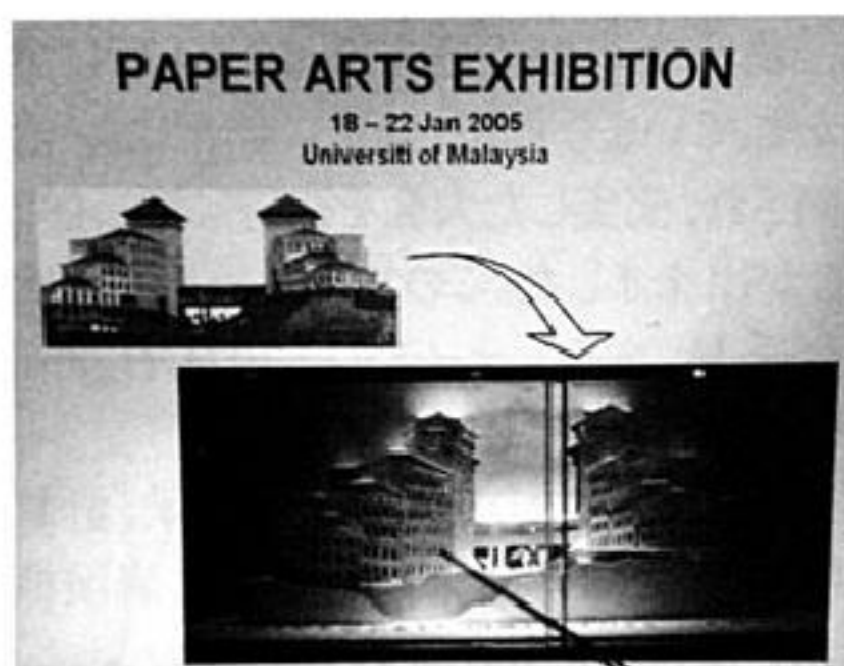
本会議が開催されたパサデナはロサンゼルス中心街から北東へ地下鉄で30分の所に位置する大学町です。中南米出身者が多いせいか、スペイン語が飛び交い、建築物、料理、インテリアなど至る所にメキシコの香り漂う開放的

4OSME - 折り紙学術研究の最前線 -

The 4th International Conference on Origami Science Math & Education

第4回 折り紙の科学・数学・教育国際会議

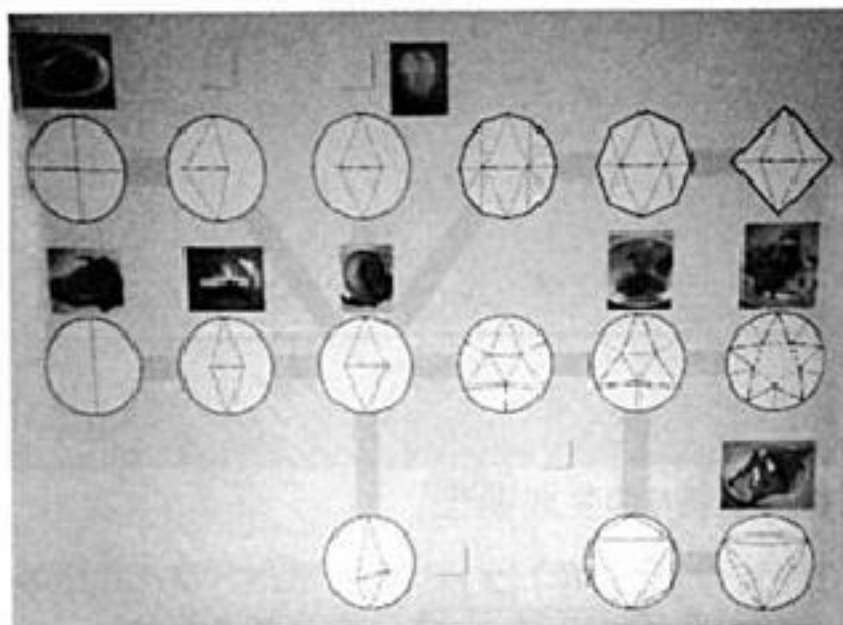
川崎英文 (九州大学)
Kawasaki Hidefumi



◆数学計算に基づくポップアップアート

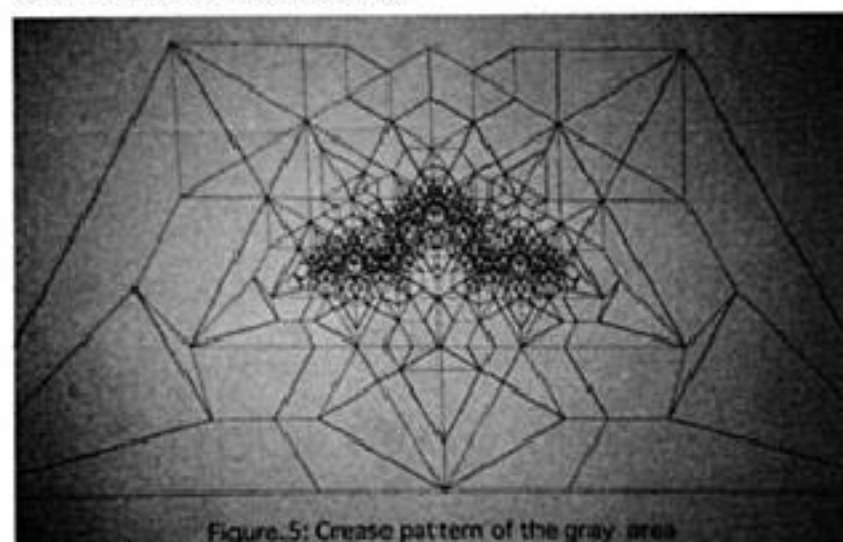
4. 折り紙の数学

前川氏のフォーチュンクッキーに関する、容量最大化の観点から始まった数学的研究は、その系統立てた分類に磨きがかかりました。周到に準備された資料とジョークにより、聴衆が最も身乗り出して聞き入った講演のひとつでした。



◆フォーチュンクッキーの系列図

別の意味で会場を沸かせたのが、池上氏によるフラクタル折り紙の解説でした。氏による前川ピラミッドのフラクタル化は本会議の記念Tシャツの図柄に採用されました。緻密な展開図が投影される度に、会場がため息まじりのどよめきに包まれました。



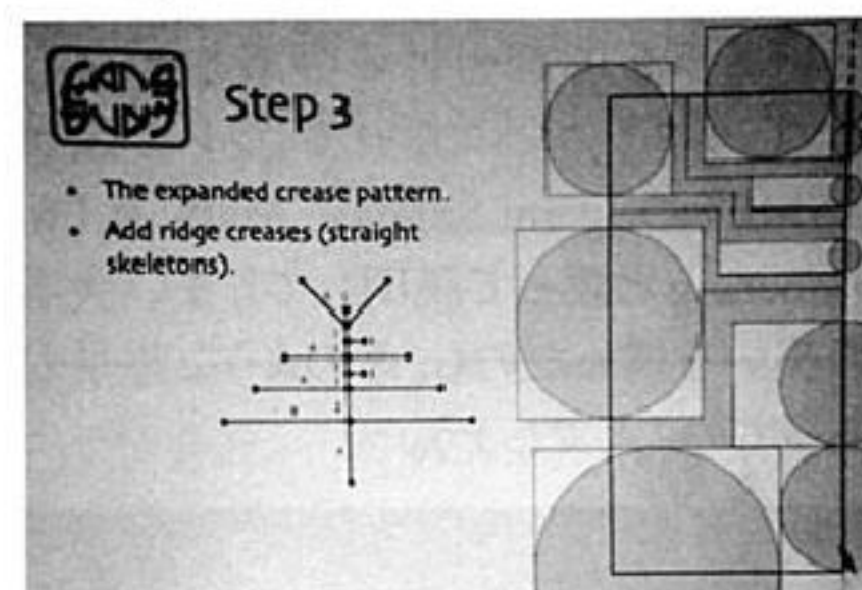
◆池上氏のフラクタル折り紙の展開図

ところで、折り紙を折る際、紙を曲げながら折り畳むことがあります。ねじり折りはその典型です。これと対照的に、硬い素材の多角形を蝶番でつないだ平面をパタパタと変形させるような折り方を剛体折りと言います。渡辺氏による、剛体折り可能性の判定法は数学的観点から大変興味深いものでした。



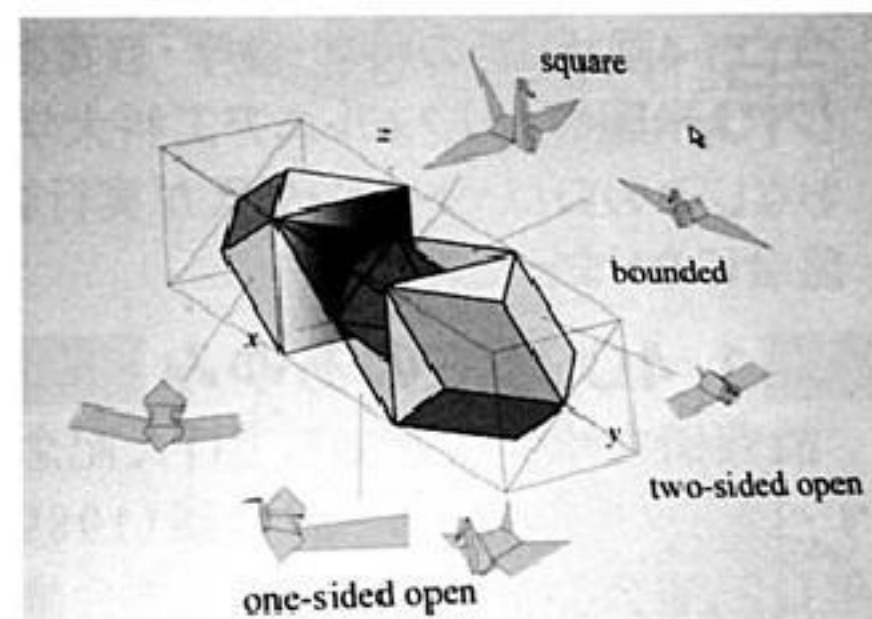
◆剛体折り紙(木?)

ラング氏は折り紙設計の円パッキング法を設計し易いように改良した多角形パッキング法を提唱しました。従来の円と川の代わりに、多角形(図では正方形)と直角に折れ曲がった川で用紙を埋め尽くす方法です。



◆多角形パッキング法による甲虫(左半分)の設計。中央の骨組みの各枝に右側の正方形または川を対応させる

弟敏和は開いた四辺形まで拡張した折鶴変形理論(筆者が発表)を整理し折り鶴世界の立体的な地図を紹介しました。その形が水晶を連想させることから、クリスタルマップと名づけました。



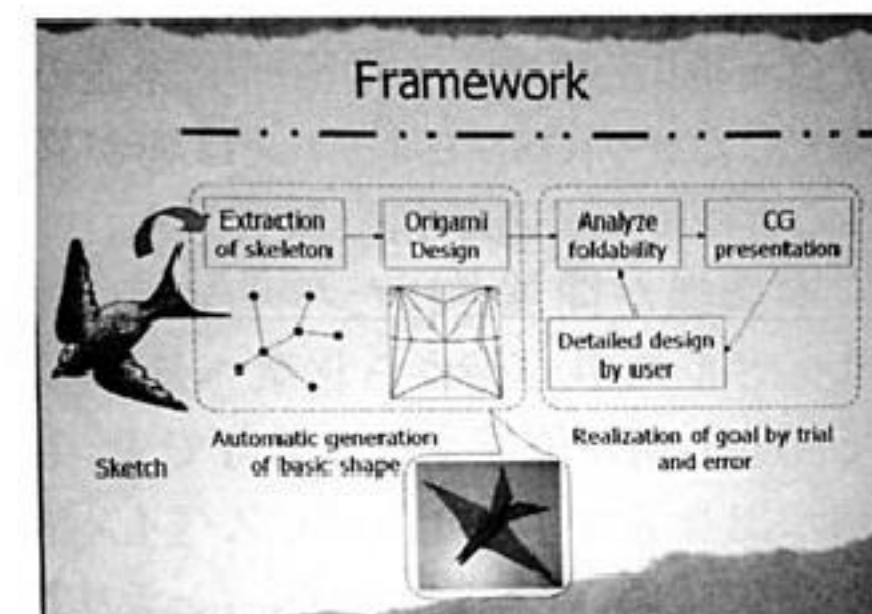
◆折り鶴の世界を表す立体地図

ハル氏(米)は一点から放射状に伸びた折線が4本と6本の場合について、平坦に折り畳む方法を数え上げました。その他、7節で紹介するメンガースポンジの折り紙の製作者モズリーさん(米)や、『折紙の数学』の著者ゲルトシュレーガー氏(奥太利)は曲線折りに関する発表をおこないました。

5. 折り紙の計算機科学

三谷氏は計算機上で、折り紙をよりリアルに表現するために、紙の重なりを表示する方法を発表しました。また、QRコード(2次元バーコード)で埋め尽くした紙を折る様子をカメラで収め、そこから折り図を自動的に作成し、折る工程のアニメーションを作る方法を提案しました。まだ単純な折り紙にしか適用できないものの、今後の発展が期待されます。

島貫氏は、手描きの絵から計算機が自動的に展開図を作製し、実際に折ることが可能かどうかを判定した上で、作



◆島貫グループのアイディア

川崎英文(かわさき・ひでふみ)=1955年生。
九州大学において折り紙の数理を講義する
他、数学科の学生・大学院生に折り紙の数
理ゼミを開講中。来年度は折り紙の数理を勉
強するために、学外から修士が入学する予定
です。
数学の専門は最適化理論とゲーム理論。



品を表示させる試みを発表しました。

館氏は、三谷氏の以前の研究を発展させ、対象物から計算機で展開図を作図させるために、新しい概念である2種類のタック分子を用いた注目すべき折り紙設計法を提案しました。

ラム氏(英)は計算機による折り図・展開図作成法、宮崎シミュレーションの拡張、その問題点を解説しました。

6. ドメイン氏の全体講演

全体講演をおこなったドメイン氏は14歳で大学に入学、22歳でMITの助教授に着任、毎年数十本の論文を執筆する計算機科学分野のスターです。



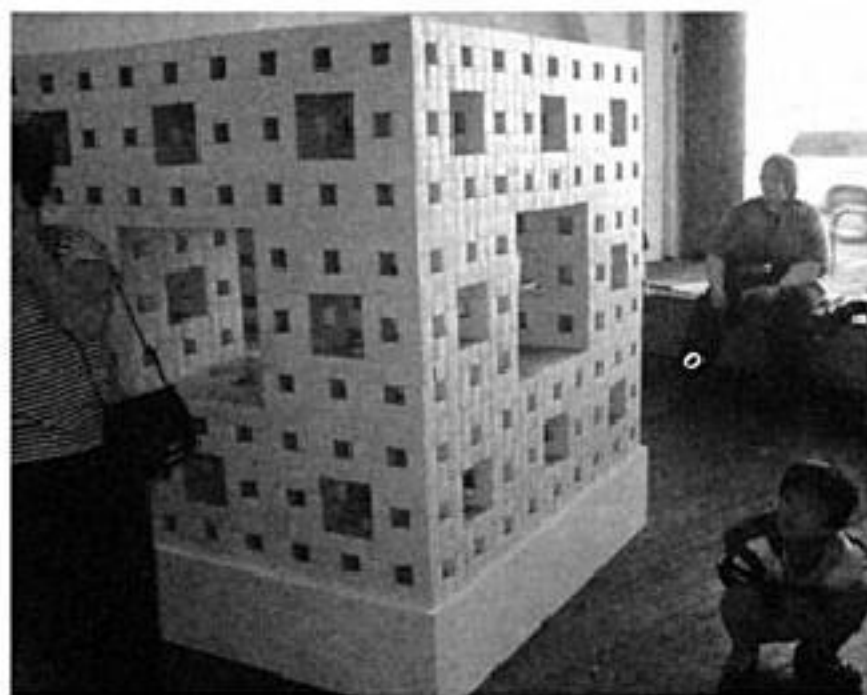
◆気さくな人柄のエリック・ドメイン氏

氏による"The Mathemagic of Origami"と題する講演は、"折り紙とは何か?"という問いに対する数学的定義、平坦折り条件(川崎の定理の拡張)、1D-Origami(平面内で紐を折り曲げて図形を作る)、2D-Origami、3D-Origami(通常の折り紙)、Folding and One-Cut(一刀切りの定理:どんな多角形でも、紙を上手に折り畳めば、鋏を一度入れるだけで切り出すことができる)、紙を半分半分と12回折ってみせた女子高生の紹介、ゲノム分野におけるタンパク質の折り畳み構造、Self-Folding Origami(例えば、正方形を蛇腹折りすると、自然に鞍の形をした曲面が形成される)、折り紙の医療への応用、折り紙マジックなど

広範な領域に及びました。盛りだくさんの内容、周到に用意されたスライド、巧みな話術、大したものですよ! 近々刊行される"Geometric Folding Algorithms: Linkages, Origami, and Polyhedra" by E. Demaine and J. O'Rourke (Cambridge University Press)は見逃せない一冊になりそうです。

7. メンガースポンジの折り紙

特別企画として、フラクタルの世界で有名なメンガースポンジの、モズリーさんによる巨大な折り紙がロス郊外のアトリエに展示され好評でした。



◆ユニット折り紙製メンガースポンジ

8. 今後の課題

次回開催は日本(立石委員長?)になりそうですが、ドメイン氏の講演を聞いて、うかうかしていただけないと感じた参加者は少なからずいたようです。

また、三谷氏の講演に対して地元の小学生が何のためらいもなく質問する姿が印象的でした。こういう環境の下で天才が育つのかもかもしれません。

その一方で、ドメイン氏が解説した平坦折りに関する結果は、実は東秀明氏が数年前に発表したものでした。私達はこれまで以上に情報交換をおこない、成果を世界に向けて速やかに発信する必要があると感じました。具体的にはPreprint seriesの刊行が考えられます。

Preprintとは学術雑誌に論文が掲載される前に、研究成果を公表するために配布する論文原稿のことで、いつ発表したかを客観的に証明することが重要です。実際にはpdf形式で投稿された論文(日本語可)に日付と通し番号を付し、それをWeb上で論文リストと共に公開します。論文審査はやりません。その他、研究集会、セミナーの機会を増やすことができればと思っています。



◆だまし絵などトリック物収集家の豪邸で開催されたパーティー



◆すばやく食料をゲット。ジュン・サカモトさん、川村さん、三谷氏に見せびらかす愚弟。「皆勤賞は三浦先生と俺だけ」が誇り



◆連夜、社交場と化した山口氏の部屋

Afternoon Origami

第10回 升マトリョーシカ Masu Matrioshki

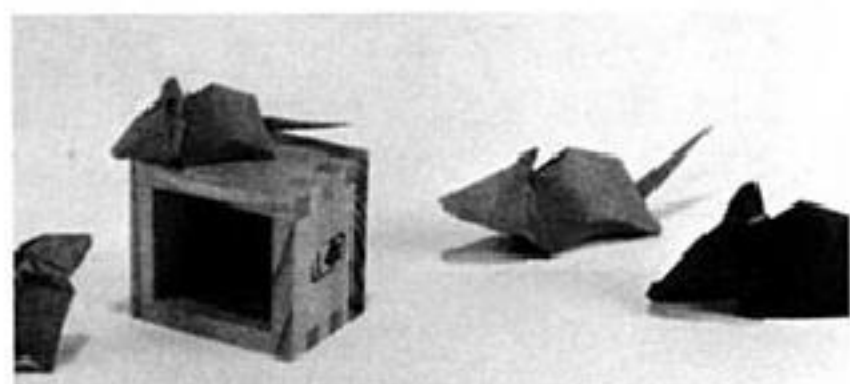
升はご存知ですね。日本の小さな木製の容れ物で、かつては米や豆を量るのに使われていました。現在では、結婚式で、あるいはレストランや居酒屋で、日本酒を飲むための器としてよく使われます。升は、日本ではありふれたもので、食器や台所用品のお店にゆけば、数百円で売っています。私も升をいくつか持っており、居酒屋のロゴがついた黒いプラスチック製のものから、甘い香りのする木から作られた高級なものまで、そのコレクションは拡大し続けています。しかし、私が升を集めているのは、本来の目的で使うためではないのです。

升は、折り紙にとって、新しい題材ではありません。座布団折りから作る伝承の箱を皆さんご存知でしょう。これは英語で「Masu box」と呼ばれています。シンプルな作品で、上級者にも初心者にも人気があります。

20世紀創作折り紙の父、吉澤章さんは、『折り紙博物誌I』(1979)の中で、木製の升を、折り紙のネズミと一緒に写真に収めています。

Origami Hakubutsushii I (1979)

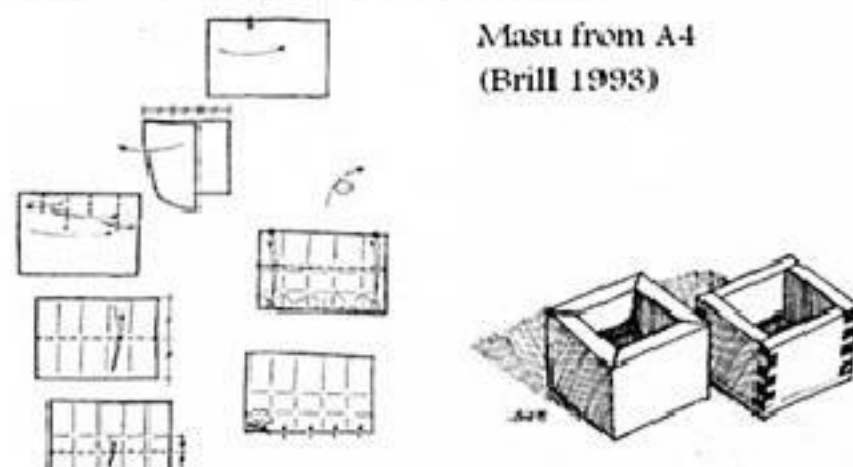
by Akira Yoshizawa



1993年、私が京都で本物の木製の升を初めて見たとき、この写真が意識に浮上しました。そして、この容れ物の単純な形の美しさと木のぬくもり、優雅なプロポーションと精密な継ぎ目に心を打たれました。イギリスに帰るのも待ちきれず、升を買わなかった自分を罵りながら、私は折り紙の升を創作し始めました。目標としたのは、内側の紙で壁の厚みを再現しながら、同時に升の単純で完成された形を模倣することでした。

私ははじめ、紙を何枚か使って、継ぎ目のほぞを正確に再現した升を作ろうとしましたが、これはあまりに難しい課題だと分かりました。私のそれまでの経験からすると、課題が達成できないときは、頭をしぼって悩むよりも、しばらくそのままにしておいた方がよいのです。そこで私はこの問題を脇にのけておきました。

ところで、折り紙でとりわけ難しい問題に直面したときは、非常に忙しかったり個人的な問題を抱えていたりした時期の直後に解決できることが多いように思います。このときも、私は折り紙とは全く関連のない生活の中で、いわれのない苦情を受けていました。それに対処するため、長い時間をかけて、自分の主張を詳しく述べた手紙を書き、反証することができました。すると、それから1日かそのうちのうちに、満足できる最初の升を完成させることができました。

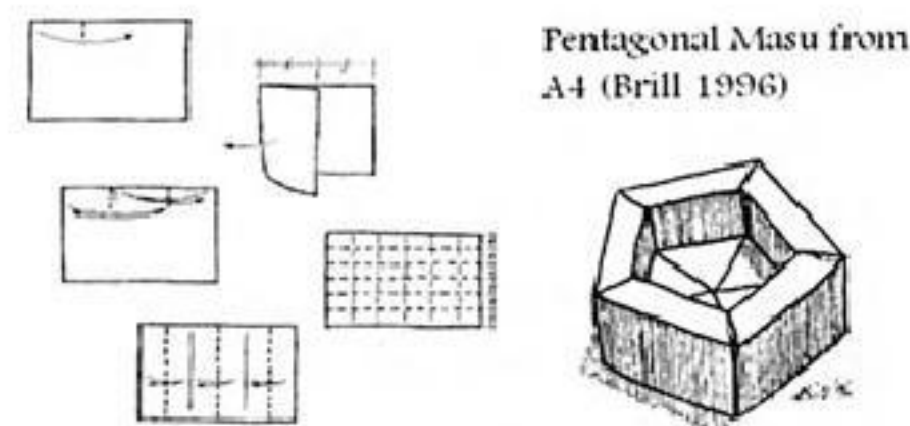


Masu from A4
(Brill 1993)

創作の過程で、A4の長方形を使えば必要な構造が得られることが分かりました。そのさいには、藤本修三さんのアイデアをいくつか拝借しました。5等分するための漸近等分法や、内側の底を作るためのねじり折り、そして、最後に外側の底を作るためには、藤本さんの代表作フジモト・キューブに敬意を表し、同じ折り方を使用しました。余談ですが、フジモト・キューブを15cmの正方形で折ると、A4の升にぴったり収まります。翌1994年、京都を再訪した私は、こんどこそ、様々な大きさの升を3つ購入しました。何ともうれしいことに、私の折り紙作品は、中ぐらいの升と寸法がほとんど同じでした。

5角形の升は現実には存在しませんが、A4の長方形で満足できる正方形の升ができたところで、A4の長方形と正5角形との幾何学が近似していることを

利用できるのではないかと考えました。以前、この考えを使って、正12面体などのユニット作品を作ったことがあります。A4以外の長方形から正方形の升を作ることもできますが(できあがりの比率はほとんど同じになります)、5角形の升には、A4の紙に潜んでいる、正5角形の幾何学(近似したものとはいえ)が必要です。

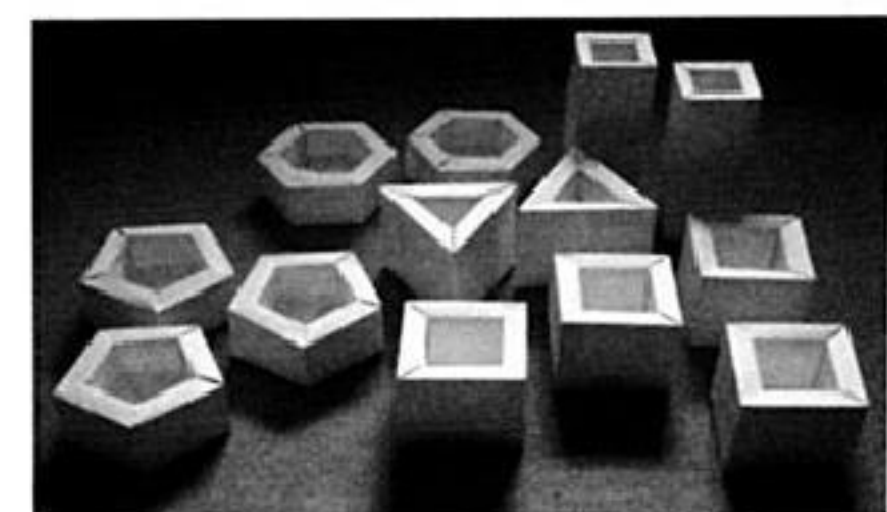


Pentagonal Masu from
A4 (Brill 1996)

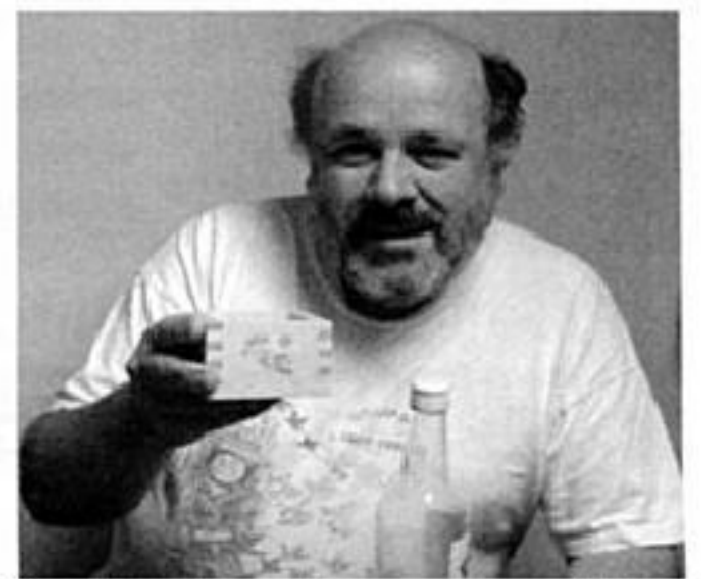
私は、2005年3月にイスラエルを訪れたさい、正方形と正5角形の升の折り図を載せた小冊子を作りました。テルアビブで小さな個展を開いたのですが、その展覧会のキュレーターを務めたポール・ジャクソンさんの依頼により、幾何学的デザインに重点を置きました。そこで、300枚のA4の紙から折ったユニット作品「敷石」などの新作に加え、この2つの升をあらためて取り上げたのです。A1の紙で十数個折ったので、かなり堂々たる展示になりました。

また、正方形の升で紙を横長に使っていたのを、縦長にすることにより、背の高い花瓶も作りました。この花瓶を2つ作り、ほかの升と一緒に写真に撮ったものは、はからずも「9/11」を表すように見えました。さらに、この個展のテーマに沿っ

More Masu variations 2005



○David Brill(デビッド・ブリル)＝イギリスを代表する折り紙作家の1人。1975年よりBritish Origami Societyの活動に積極的に参加、代表を務めた。折り紙以外の趣味は油絵。

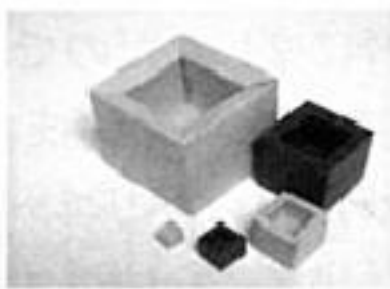
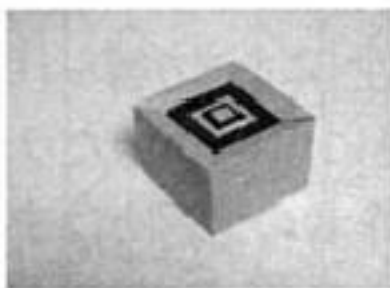


Good health and happy masu folding!

て、頂点の角度を変え、等分の比率を調整して、6角形と3角形の升も作りました。

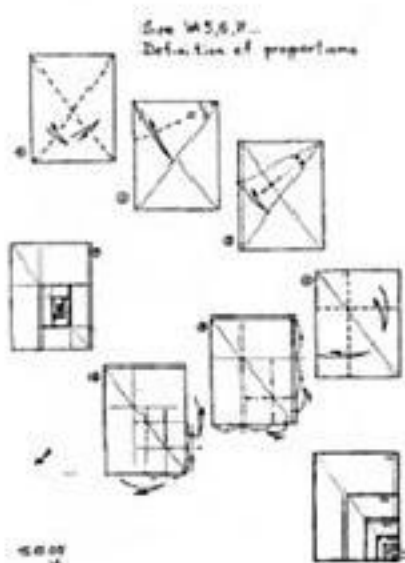
小冊子を見て、多くの人が升を折ってくれましたが、その中に、私の友人であるアッシア・ベリーさんがいました。ロシア出身の彼女は、有名なロシアのマトリョーシカ人形と同じように、正方形の升を入れ子にしました。2005年にザルツブルクで彼女と会ったとき、5つの升が入れ子になっているのをプレゼントされ、とてもうれしかった。1つ1つがきれいに折られており、それぞれが「親」の中にぴったり収まっているのです。

Assia Vely's Masu Matrioshki (2005)



アッシアさんは、升マトリョーシカを作るのに、升の内径を測り、それに収まる「子供」の大きさを計算しました。すべての升は $1:\sqrt{2}$ の長方形から折り、もっとも大きいものはA4ですが、それより小さいものはA規格の大きさに従っていません。彼女は、小さい長方形の正確な大きさを計算する公式と、それを実際に折るための方法を考え、その $1:\sqrt{2}$ 長方形の系列を「VA」長方形と名付けました。

Assia's VA rectangle



	folded dimensions (mm)	unfolded dimensions (mm)
VA 0	2034 × 1440	2034.4 × 1440
VA 1	1257 × 850	1258.3 × 850
VA 2	777 × 550	778.66 × 550
VA 3	480 × 340	480.8 × 340
A4	297 × 210	296.96 × 210
VA 5	184 × 130	185.64 × 130
VA 6	113 × 80	113.1 × 80
VA 7	71 × 50	70.7 × 50
VA 8	42 × 30	42.4 × 30
VA 9	26 × 20	26.3 × 20
VA 10	14 × 10	14.14 × 10
VA 11	14 × 10	14.14 × 10

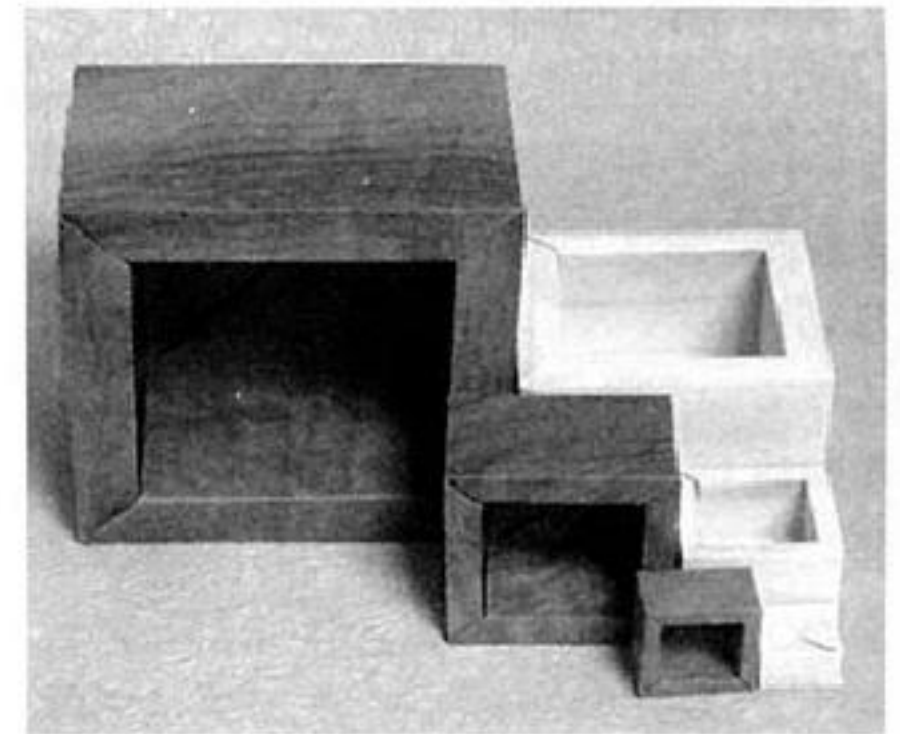
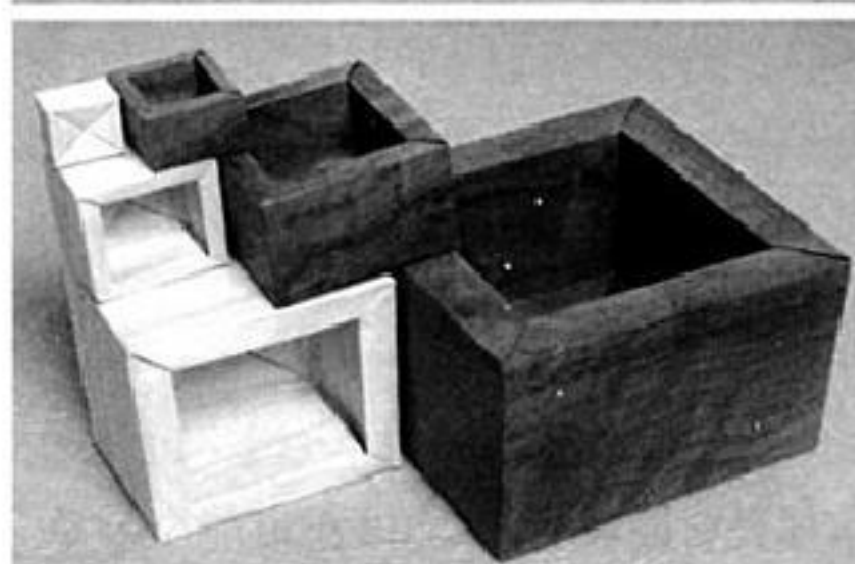
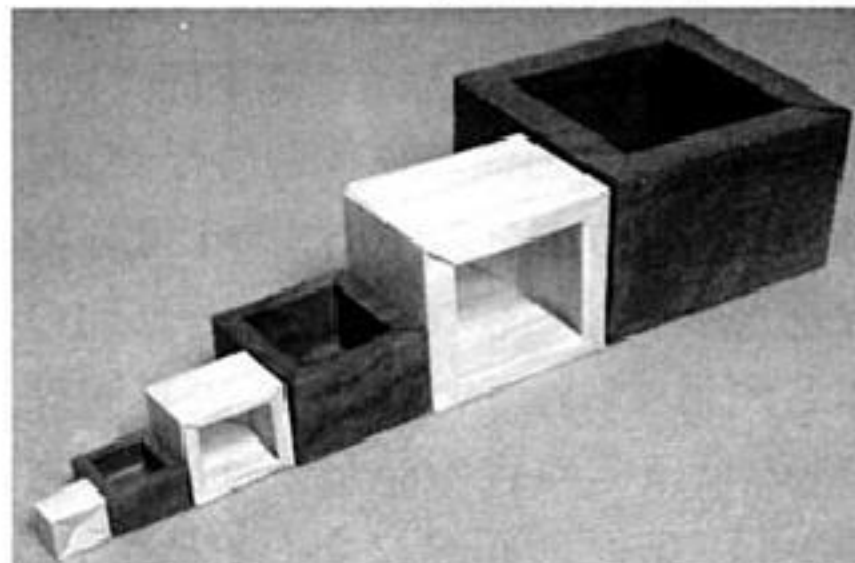
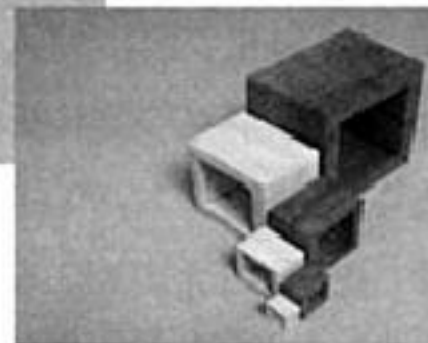
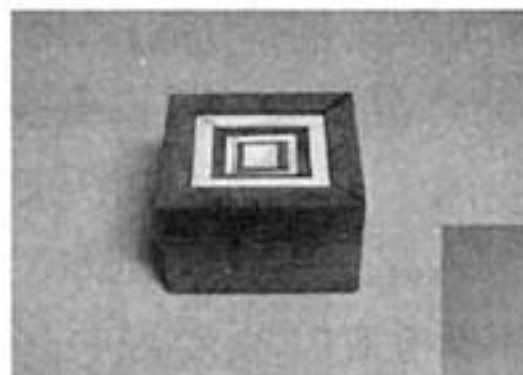
The ratio (formula):
 $VA_n = VA_{n-1} \cdot \sqrt{2}$, $VA_{n+1} = VA_n \cdot \sqrt{2}$

その後、アッシアさんは5角形の升マトリョーシカも作りました。

私ははじめ、アッシアさんの升マトリョーシカの紙の大きさが、A4、A5、A6と、半分ずつになっているのだと思っていましたが、実際には、上で述べたように、そうなっていません。私には、標準的なシルバー矩形の系列の紙で升を作った方が、論理的であるように感じられました。そこで、数週間後、その条件を満たすように、正方形の升を修正することにしました。

その結果、升の外側の側面が $1:\sqrt{2}$ になるというおまけもついてきました。つまり、ある升の高さが、次の升の幅と同じなのです。また、ある升の幅は次の升の対角線の長さと同じです。このような特別な幾何学的関係があるため、写真の

Masu Matrioshki Brill 2005



ように、升を様々な興味深いしかたで組み合わせることができます。

しかし、まだ1つ問題が残っています。升の内側の側面の比率が $1:\sqrt{2}$ ではないのです。そのため、入れ子にしたとき、わずかな段差ができてしまいます。升の外側と内側の側面の比率が両方とも $1:\sqrt{2}$ であれば、この段差を無くすることができるのですが、今のところ、これは実現できていません。

興味深いことに、ロシアのマトリョーシカ人形のルーツは、日本にあるのです。19世紀後半の日本に、七福神を入れ子にした人形がありました。一番外側が福祿寿で、その中にはほかの神様が入っています。

Fukuruma dolls (Japan late 19th century)



折り紙の升マトリョーシカも、同じように旅をしました。題材は日本のものであり、その折り紙版が、イギリスを経由して、ロシアに渡りました。そしてこの度、世界一周旅行を完結させるべく、この作品を祖国日本に捧げたいと思います。

Pleat-Based Cylindrical Works

蛇腹円筒作品群

藤本修三氏の著書『創造性を開発する立体折り紙』(1976年8月刊)に於いて、「レリーフ」という分類に入っている幾何作品群がある。基本的な角度構成を45°もしくは30°として、用紙に多数の折りを施したのち円筒状にまとめるもの(それぞれA群・B群と記載されている)と、平織り(C群)から成る作品群である。今回はこのうち、これまで紹介されることが比較的少なかったと思われる円筒状の作品群にスポットを当てることにする。

＜蛇腹円筒作品とは＞

今回、筆者(北條)はひとまず「蛇腹円筒作品群」という分類をしているが、より適切な用語を思いついたら変更してゆきたいと思う。この基本的な概念の例を示すと図1のようなものとなる。すなわち、用紙に細かくミウラ折りを施したのち全体を広げながら円筒状にまとめると、用紙の弾力がさまざまにバランスすることにより、「折り紙ならではの」曲面・空間構成が生じる。これを藤本氏はさまざまな折り線パターンで制作しているのだが、『創造性を開発する立体折り紙』に掲載されているだけでも87種類にのぼる。ここではさらに、筆者のピックアップで図2・図3も掲載しておく(いずれも展開図は、写真の作品を折るためのものの縦横を半分にした範囲のみを示す。用紙形は $\sqrt{2}:1$ が基本だが、縦横比が多少変わっても問題ない)。このような構造は単独で楽しむだけでなく、比較的具象的な方向性の作品の部分構造として組み込むことも可能である。その例としては前川淳氏の「孔雀」や、手前味噌で恐縮だが拙作「水瓶座(2005年版)」などが挙げられる。さて、藤本氏の

蛇腹円筒作品群に話を戻すが、こうした作品は「45°もしくは30°を基本単位とした折り角度のみを使用する」という技術的制限を課しているため、折り紙の文化が存在するところではいつでも、いくらかでも自然発生する可能性がある(すぐに思いつくものとしては、Le Klint社のランプシェードなどがある)。さらに現時点ではさまざまなバリエーションが研究されているはずである。しかし、本書発行時点でこれだけ網羅的に制作され、ひとつの研究成果としてきちんとまとめられている例は非常に珍しい。今後この分野の作品に於いて、より詳細な歴史的研究が待たれるところである。

＜掲載作品一覧＞

『創造性を開発する立体折り紙』に掲載された蛇腹円筒作品群を、表1にまとめてみた。前述の通り、基本的な折り線構成が45°のもの(A群、本文の記載では「正方形の基本折りすじ」との説明もあり)と、30°のもの(B群、本文の記載では「正三角形の基本折りすじよりなるもの」との説明もあり)にまず分けられる。示された展開図をもとに一度平面に折りたたんだのち円筒状にするのだが、用紙のどちらの面を表に出すかによって表情が変化するものにはそれぞれ別の題名が付けられている。また、表裏同等のものにはその旨の記載がある(本文中では、裏面の題名にあたるところに(同)と記載され、「(同)は折りあげたレリーフの裏、表とも同じものをいいます」と説明されている)。題名には純粹に構造を説明するものから、「見立て」の印象を重視したもの、さらに詩的なものまでさまざまである。今回の記事ですべての作品写真を掲載することは不可能なので、

興味のあるかたは日本折紙学会図書館に収蔵された本書を見ていただきたい。

＜まとめ＞

ほとんどの蛇腹円筒作品では、用紙を平面にしたままで折り線付けの作業を延々と続ける必要がある。こうした作業に慣れた人でも、多数の作品を制作するにはかなりのエネルギーを必要とするはずである。しかし、藤本氏の蛇腹円筒作品群の写真・付けられた題名をひとつひとつ見てゆく限り、なんらかの「形状発生原則・方針」や「模索過程の効率性」にあまり縛られることなく、そのときに思いついたランダムな加工を施し、作者の意図とはまったく関係なく立ち現れてくる形状にはじめて出会うことを純粹に楽しんだのであろう、ということが強く伝わってくる。また、そうでなければこれだけのバリエーション豊かな作品群は出てこないはずである。当然ながら、本文で紹介された数の何倍もの作品が「模索過程」として存在したであろう。

最近折紙関係者のブログで、「創作に於いて偶然性を重視する」ことについてさまざまに議論が交わされ盛り上がったことがあったが(小松英夫氏、宮島登氏、渡辺大氏のブログなどを参照)、それを読んだばかりの筆者は今回藤本氏の蛇腹円筒作品群についてまとめる機会を得て、創作に於ける「試行錯誤」の威力を再認識したところである。発見的な(すでに持っている技術のストックになるべく頼らないようにする)創作過程では、想像を遙かに超えるエネルギーが消費される。「折ったときに新しい魅力を感じる作品」の多くは、その形状に至るまでの多大な労力と紆余曲折を、創作者が折り手の身代わりとなって引き

○1973年栃木県生。日本折紙学会評議員。ホームページ更新が滞っているのは決してネタ切れではありません、それどころかアイデアだけは結構溜まっています。ただ、すべて64等分蛇腹だったりするのが問題なわけで…。



表1 「創造性を開発する立体折り紙」の
蛇腹円筒作品一覧

記号	基本角度	作品名	裏面作品名	表裏同等	完成写真掲載有無	頁
A1	45°	単	単	○	(図)	23
A2	45°	十字	—	—	○	24
A3	45°	家並び	家並び	○	○	24
A4	45°	短単	短単	○	○	67
A5	45°	短十字	—	—	—	67
A6	45°	短家並び	短家並び	○	○	67
A7	45°	なまこ	海ホーズキ	—	○	68
A8	45°	いせき	バベルの塔	—	○	68
A9	45°	菊花	つくし	—	○	69
A10	45°	カナエ	カナエ	○	○	69
A11	45°	ダブル	ダブル	○	○	70
A12	45°	網	工場の屋根	—	○(応用例付)	70
A13	45°	さざ波	—	—	○	71
A14	45°	クレーター	クレーター	○	○	71
A15	45°	カゴメ	カゴメ	○	○	72
A16	45°	ずらし単	ずらし単	○	○	75
A17	45°	ずらし網(大の目の2段毎)	—	—	○	75
A17	45°	ふくろう(横線1.5段)	—	—	○	75
A18	45°	ずらし家並び	ずらし家並び	○	—	76
A19	45°	ずらし短家並び	ずらし短家並び	○	—	76
A20	45°	ずらし短十字	—	—	—	76
A21	45°	ずらしカゴメ	ずらしカゴメ	○	—	76
	45°	応用例 その1(笑う人)	—	—	○	73
	45°	応用例 その2	(名称なし)	—	○	74
	45°	応用例 その3	—	—	○	74
	45°	応用例 かっぱ	—	—	○	77
B1	30°	サインカーブ	サインカーブ	○	○	18
B3	30°	くすだま	—	—	○	18
B4	30°	家並び	家並び	○	○	18
B5	30°	小田原提灯	—	—	(図)	17
B6	30°	網(2段毎)	網(2段毎のうら)	—	○	78
B6	30°	網(1.5段毎 よこ網)	—	—	○	78
B7	30°	月見草	月見草	○	○	80
B8	30°	綾ジャバラ	—	—	○	80
B9	30°	ややならび	ややならび	○	○	82
B10	30°	うろこ	すみながし	—	○	82
B11	30°	単星ジャバラ	—	—	(図)	83
B12	30°	星ジャバラ	—	—	○(まとめかた2種)	83
B13	30°	ヒヨク	五重の塔	—	○	84
B14	30°	笹変化1	—	—	—	84
B15	30°	笹変化2	—	—	—	84
B16	30°	笹	クリスマスツリー	—	○	85
B17	30°	猿の口	とげ	—	○	85
B18	30°	矢パネ	にの字	—	○	86
B19	30°	MY	しゅう曲山脈	—	○(MYのみ)	86
B20	30°	ダルマ	(名称未定)	—	○	87
B21	30°	変形うろこ	—	—	○	87
B22	30°	雁	(名称未定)	—	○(雁のみ)	88
B23	30°	ヒゲ	インディアン	—	○(ヒゲのみ)	88
B24	30°	友達	友達	○	○	89
B25	30°	ガス灯	ガス灯	○	○	89
B26	30°	MV	(名称未定)	—	○	90
B27	30°	舟	舟	○	○	90
B28	30°	6角	(名称未定)	—	○(6角のみ)	91
B29	30°	6角中間折り	(名称未定)	—	○(6角中間折りのみ)	91
B30	30°	5角ホール	—	—	○	92
B31	30°	カゴメ	—	—	○	92
B32	30°	網たん	網たん	○	○	93
B33	30°	桃花	桃花	○	○	93
B34	30°	笹がえし	—	—	○	94
B35	30°	香炉	—	—	○	94
B36	30°	岳陽楼	みの	—	○	95
B37	30°	団子	団子	○	○	95
	30°	応用例 電気スタンド	—	—	○	79
	30°	応用例 球と台	—	—	○	79
	30°	応用例 聖火台	—	—	○	81

●応用例と記載されているものは、より具象的な形状とすべく、整然とした繰り返しパターンにこだわらない折り線構成となっている。●B2は掲載されていない。●B34「笹がえし」は、上半分がB16「笹」で下半分がB16「クリスマスツリー」の構造となっている。このように、複数の構造を1枚の紙の中で複合的に使用してみるのも楽しい。

受けたことにより到達し得たものであろう。そのことに、どこまで思いを馳せることができるか。作品をただ漫然と見ているだけではいけない。

図1 A4「短単」と展開図。太線は山折り、細線は谷折り。作品の表側から見た山谷を示す。

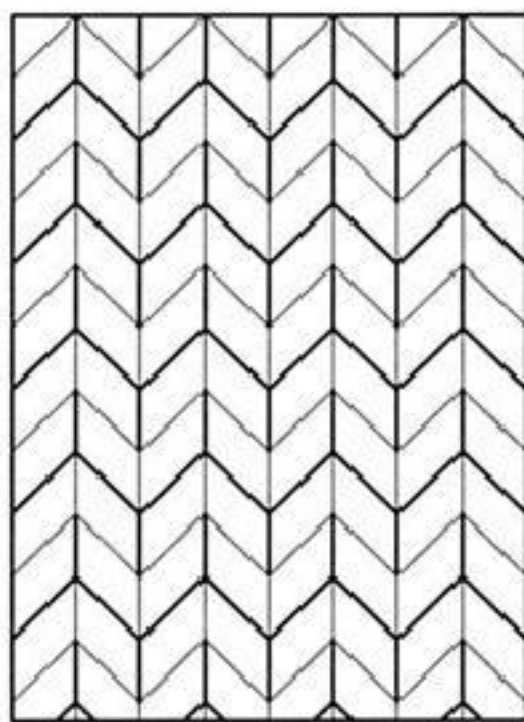


図2 B16「笹」と展開図。

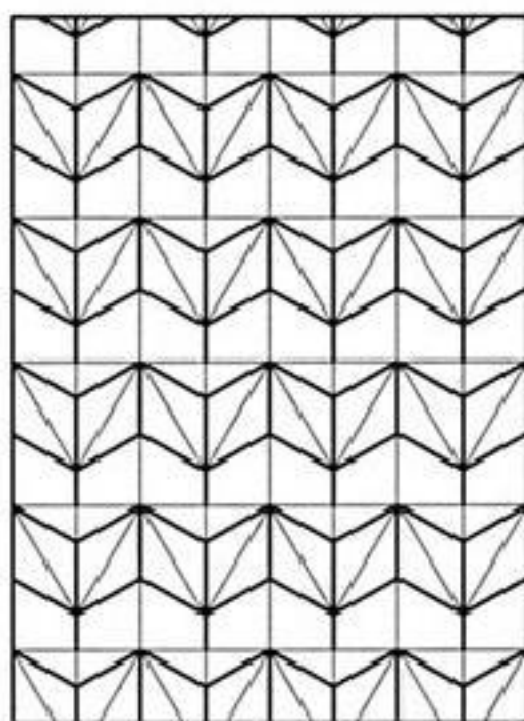
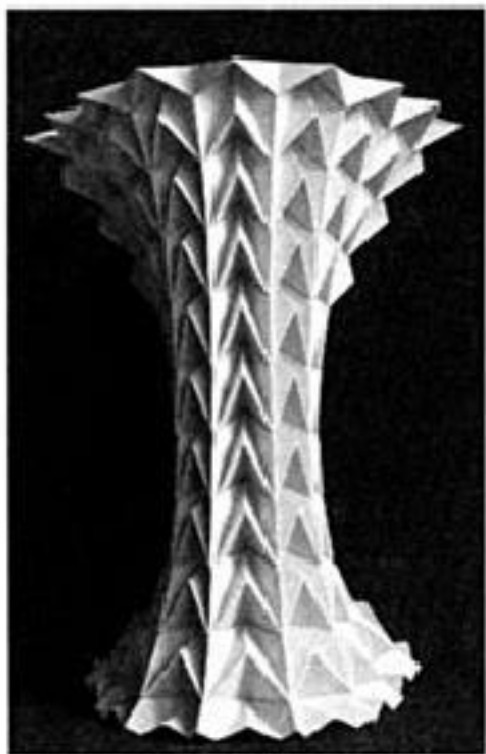
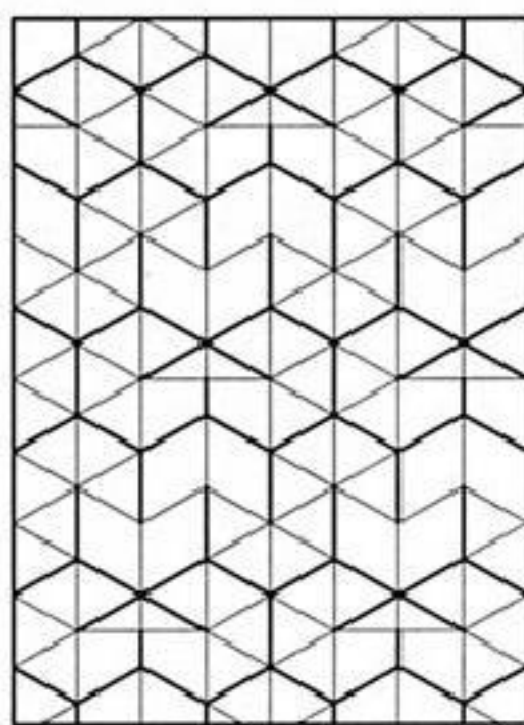


図3 B30「5角ホール」と展開図。



第4回

堀内正和氏の彫刻に 折り紙を思う

Sculptures by Horiuchi Masakazu: Reminiscing
of Origami

Horiuchi Masakazu (1911-2001) is one of the representative sculptors with geometrical works. He makes most works with metal, but this is not focal in his creation. He states that most of his artistic thinking is spent with trials and errors of forming geometrical patterns, not the creation of works itself. Horiuchi uses sheets of paper when he experiments with models. I personally think that origami geometry is reflected in his works by using paper, and this is why I was inspired by his works when I create origami models.



折紙散歩

Origami Sampo
Doggedly Determined

「これは形の可能性を発見するための、頭の体操のつもりでやったことで、作品をつくることが目的ではなかった。胸の中にわだかまる声に形を与え、おのれの魂を表現する、などという勇ましい志は僕には全くなかった。」(堀内正和)

こ数年、彫刻家・堀内正和氏が気になっている。堀内正和(1911-2001)。幾何学的彫刻の第一人者。一昨年の神奈川県立近代美術館等の回顧展は見そこねたが、同展の図録は入手でき、今年早春の「堀内正和 アトリエのない彫刻家」展(ギャラリーTOM)に足を運ぶことができた。作品にはほんとうに刺激をうけた。そして、冒頭に引用したような氏の文章にも触発された。

「作者の僕は小さなマケット(模型:引用者注)を作るにすぎぬ。これはたいはい紙で作られる。」「思案していると時の経つのを忘れる。この忘れられた時間、メディタシオン(瞑想:引用者注)に潜行している時間こそ、僕の芸術だ。」「マケットが決まると潜行の時間は去っていく。僕の芸術は終わるのである。あとはこれを現実の材料に固定させる現実の時間である。これは厄介な時間だ。」

このように、氏は、材料への関心が低いことを繰り返し語っている。氏の興味が空間の性質やかたちそのものにあった、ということだろう。「空間の性質やかたちそのもの」とは、われながらナイー

ブな物言いだ。まずは、あえてそう言ってしまいたい。さらに言葉を重ねれば、それは、デザインやコンセプトといったものとも異なる。少なくとも、装飾といった意味でのデザインではない。コンセプトチュアル(≡アイデア中心)な作品も多いのだが、研究といった言葉が相応しい作品が多い。

もちろんこれらの言葉は、折紙者として自分に引き寄せて考えている。たとえば、ポール・ジャクソン氏の「紙の声を聞く」という表現がある。この言葉に則して、少し考えを進めてみよう。

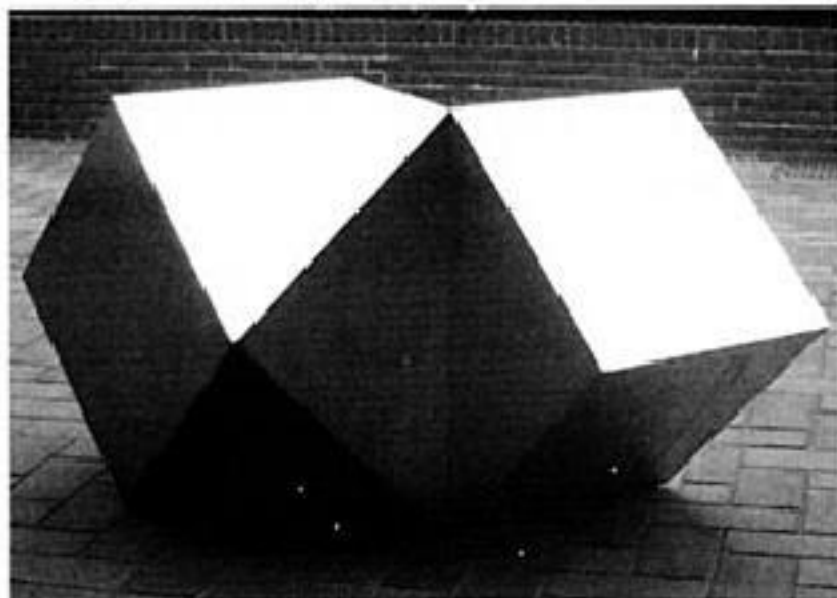
「紙の声」にも「紙の数学的性質からくる声」「紙の物理的性質からくる声」「環境を含めた目の前にある紙の個別的な性質からくる声」など、さまざまなレベルがある。ジャクソン氏のいう「声」は、この最後のものであると考えてよい。紙という素材に対する感受性である。この感覚は、美術に足をつけた立場としては当然のものだ。美術において、技法・材料とテーマ・モチーフを切り離すことは難

しい。しかし、堀内氏のようなプロの彫刻家にも、材料への無関心とともとれる発言をしているひとがいたのだ。これがひょと興味深かった。ある種、痛快でもあった。氏はこのことに関して、もっと過激な表現もしている。いわく、「作品が材料との対話や戦いの中から生まれるという呪文」「形態はすべて材料とのかかわり合いから生まれるという勘違い」…。

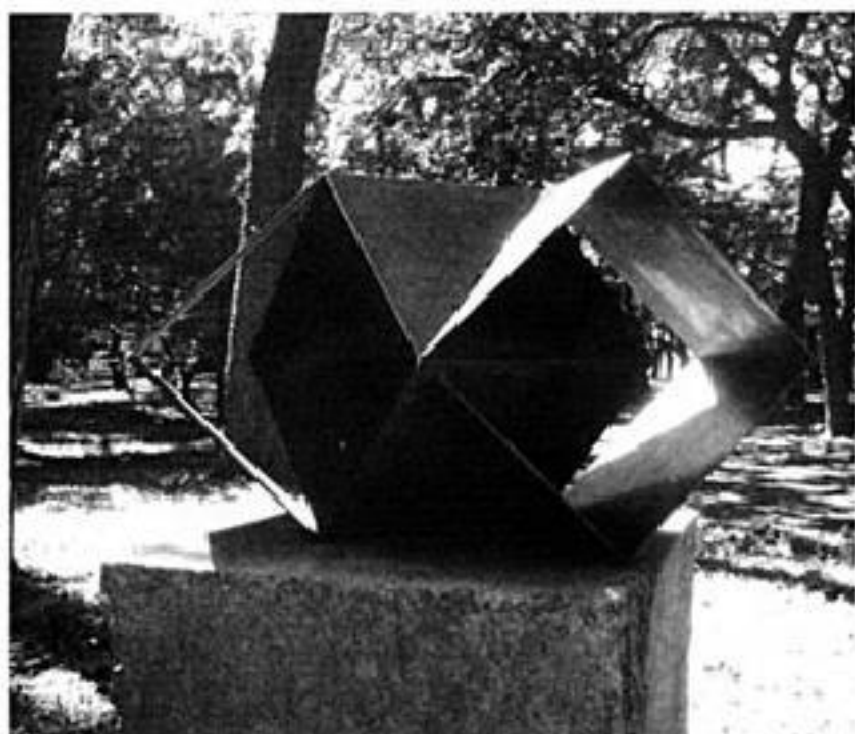
じっさい、ギャラリーTOMの展覧会での展示作品は、ほとんどが、完成された作品ではなく、模型であった。そして、それで充分、いやそれが一番相応しいとさえ思えたのである。たとえば、こんな作品があった。

正五角形に切られたピラミッド、つまり、三角形四つと正方形からなる四角錐を、正五角形の断面で切断している模型(作品名「四角の中の五角」)である。ありそうでなかった問題設定だ。問題などという言葉を使うところからして、わたしが、それを数学的というかパズル的な興味をもって見ている証拠である、とも言える。しかし、そのパズル性ゆえにそれは美しかったのだ。

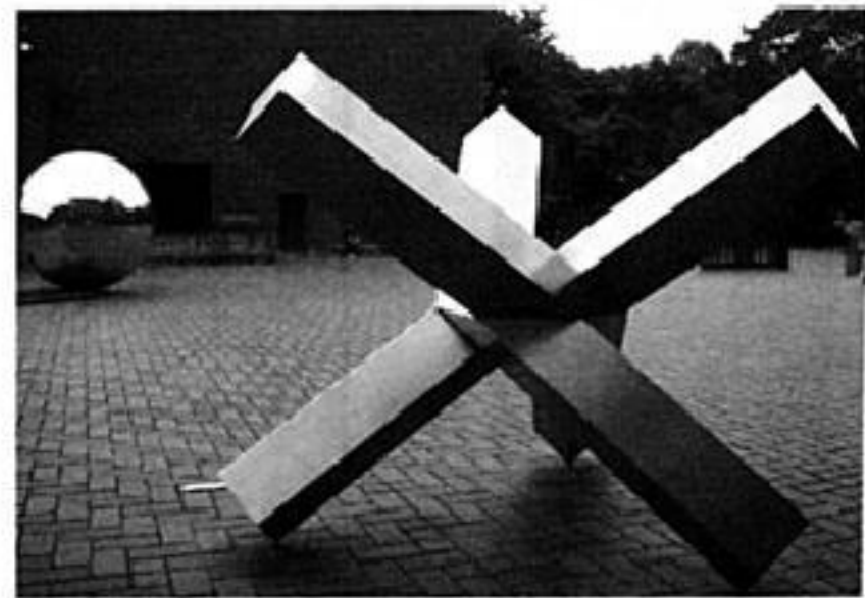
と、ここまで書いてきて、逆説的な感覚に思いあたった。紙ででき



「三つの立方体A」 東京都美術館
"Three Cubes A" at Tokyo Metropolitan Art Museum



「三つの立方体D」 館林市彫刻の小径
"Tree Cubes D" at Tatebayashi Sculpture Promenade



「三本の直方体B」 東京都美術館
"Three Rectangular Parallelepipeds B" at Tokyo Metropolitan Art Museum

東京都美術館にて。
中央に写っている(?)のが著者。後ろには堀内氏の「三つの直方体B」。
球は"my sky hole 85-2" (by Inoue Bukichi)。



前川 淳 Maekawa Jun

折紙創作・研究家。折鶴モノのコレクター。東京生まれで東京在住だが、1年の約1/3は、天文台の仕事のため、長野・山梨で過ごす。好きなもの:阪神タイガース、星空、書店、喫茶店、幾何学的調和。

た模型、それには、何やら案内が印刷してある葉書を使ったものなどもあったのだが、その質感が、半永久を前提としている金属や石の彫刻よりも美しいかもしれない、という感覚である。

これはどういうことだろうか。間に合わせの紙の模型「ゆえに」美しいということはあるのだろうか。

模型は、じっさいに目の前に作者がつくったものとしてある。技術者の手を借りて金属などによって作品化されたものではなく、模型にこそ作者の手筋があり、アウラ(オリジナルの持つオーラ)が宿っているという解釈が、まずは可能である。いかに幾何学的立体でも、そうしたことはある。一方、以下のようにも考えることができる。

当座のものであるがゆえに、目の前のじっさいの物を離れてかたちを意識させる、そんな巧まざるしかけとなっていたのではないか。

ここで折り紙を考えてみる。紙という脆弱な材料が、模型ではなく最終素材である折り紙の場合はどうなのか、ということである。そもそもが半永久とは程遠い、かりそめさに特徴のひとつがあると言えないだろうか。これは、折り紙の場合に、何をもって「作品」とするのかという問いにもかかわってくる。折り紙の場合、工程や構造を公開したことが作品の公開とされることが多いが、このことは、鑑賞者に創作者の道筋をたどることが開かれているということ以上の意味がありはしないか。道筋や構造、すなわち、情報こそが核心で、極限においては物が消えてしまってもよいという思いきり、詩的な表現をするならば、物は消えても手が残る世界である。それは、折り紙の理想のひとつではないか。

むろん、優れた折り手が折った作品や、そのひとにしか折れない作品もある。道筋をたどらない鑑賞者が大部分でもある。紙が脆弱な材料であるということ自体への反論もあるだろう。紙にもさまざまな種類があり、相応しい紙を選ぶことにも思いをいたすべきなのに、そうしたことに無頓着すぎる作家や愛好家も多いのも事実である。しかし、折り紙には、そうした工芸的洗練とは違う美しさの基準もたしかにある。たとえば、わたし自身はこんなことを思い描くことがある。どんな紙で折っても美しいかたちになる作品をつくりたい、と。

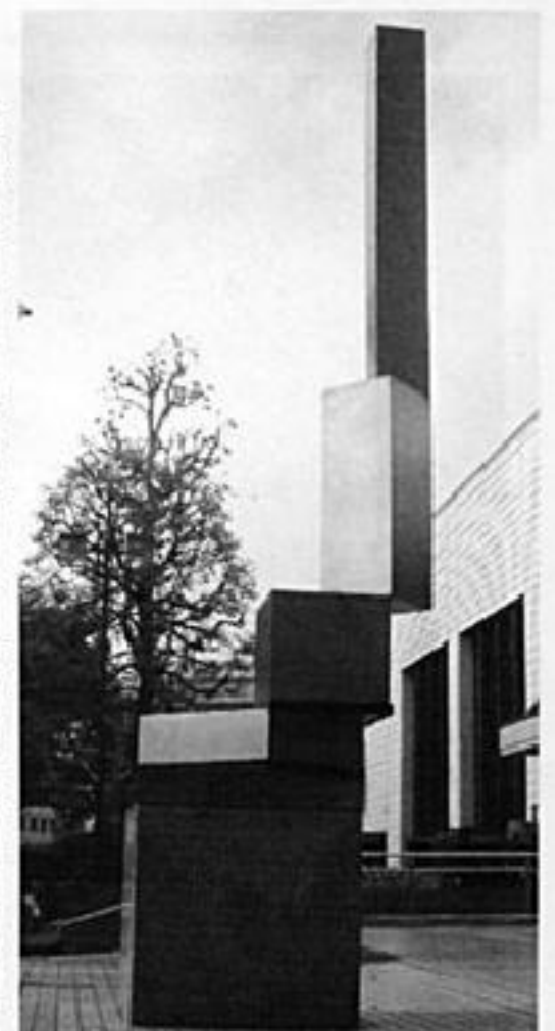
どんな紙でも。抽象化された紙との対話と言えなくもない。その点では、「形態はすべて材料とのかかわり合いから生まれるという勘違い」と言いきった堀内氏もそうだったのかもしれない。つまり、氏の瞑想への潜行には、紙の持つ幾何学特徴との対話も関わっていたのではないだろうか、ということである。



「ましかくともゑ」 港区虎の門
"Mashikaku Tomoe" (Yin Yang Square) at Minato-ku Tokyo

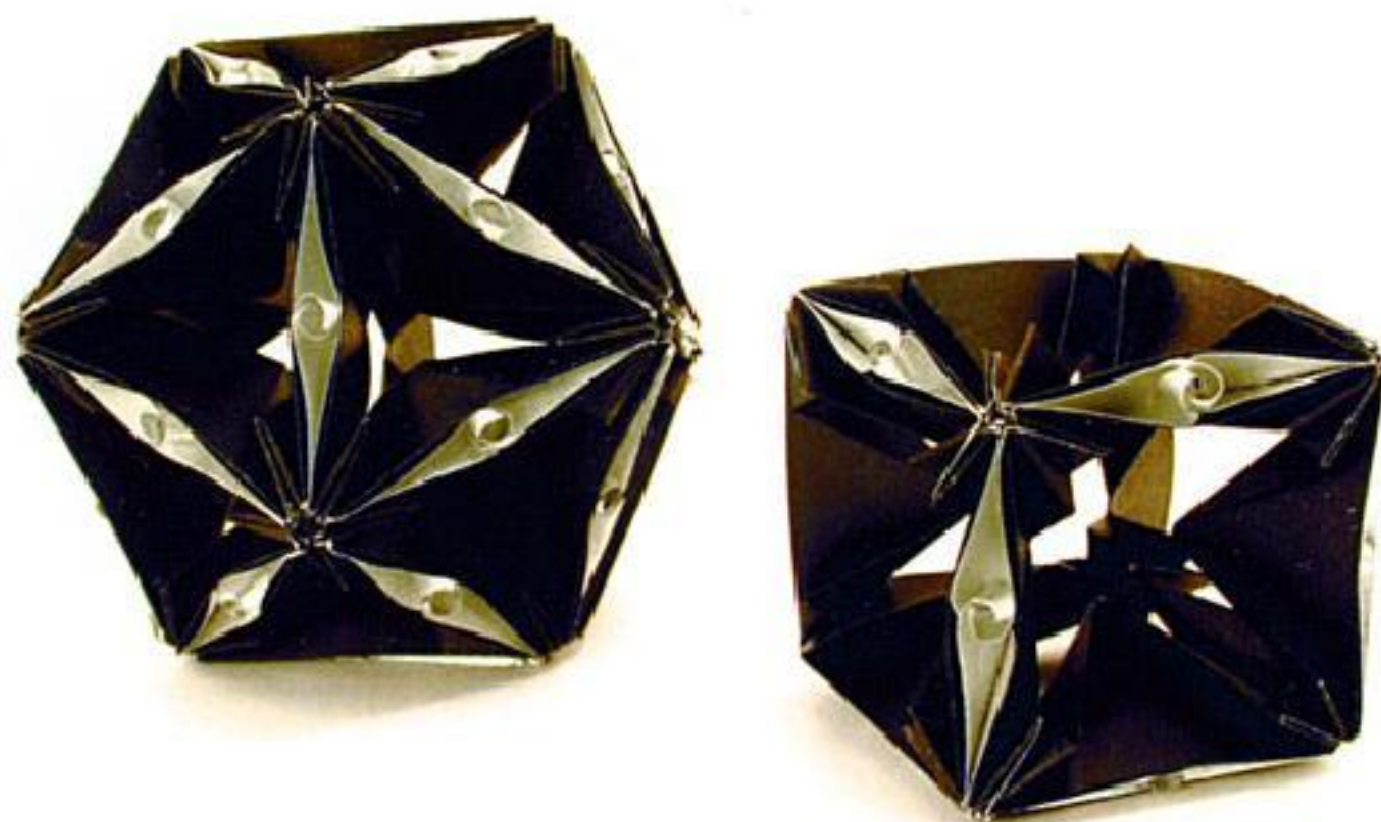


「はてなのうてな」 世田谷区宮坂
"Hatena no Utena" (Calyx of Perplex) at Setagaya-ku Tokyo



「体積の等しい五つの直方体」 渋谷スポーツセンター
"Five Rectangular Parallelepipeds of the Same Volumes" at Shibuya Sport Center

■ふと気がつくといつのまにやら、「あたたかい」と「ここちよい」が同義語になっていてびっくり。
年末に向けて慌ただしくなるときだからこそ、ちぢこまった脳内を折り紙でストレッチ!



「マダム・モジュラータ (30枚組、12枚組)」
作：川村みゆき (P.4)

MADAM MODULATA (30 sheets, 12 sheets):
Kawamura Miyuki (P.4)

■表裏の色のコンビネーションと絶妙な面積比によって、「光沢のある皮革に金属パーツを付けたアクセサリー」のような雰囲気。こういう意味で「オトナの魅力」が詰まったユニットを見るのは、初めてかもしれない…。

「サンタクロース」 作：小松英夫 (P.8)

Santa Claus: Komatsu Hideo (P.8)

■易しくて親しみやすい作品を紹介してゆくこのコーナー、今回は小松氏のシャープな造形をお楽しみください。左側に袋を背負った左右非対称インサイドアウト構造は、工程のかなり初期のほうから仕込まれてゆくのですが、ストレスなく折り進んでゆける工程となっているのでどうかご安心を。



「佐々木禎子像」 作：堀口直人 (P.34)

A Statue of Sasaki Sadako: Horiguchi Naoto (P.34)

■蛇腹を基本構造にすると、「カド」による設計をしやすいと思われるが、しかし分割数を増やして自由度を高めれば高めるほど、しっかりとしたデッサン力を要求されます。このテーマをこういう形で実際に作品化できるのはやはり、造形能力の基盤がきちんと構築できていることによるものでしょう。今後もさまざまな題材に挑戦して、技術を磨いてほしいものです。



「エンマコオロギ」作：堀口直人

Oriental Garden Cricket: Horiguchi Naoto

■インパクトのある人物造形群で新風を吹き込んだ堀口氏ですが、昆虫作品にもすさまじいエネルギーを注いでいるようです。「技術的にできるということはわかるけど、でもここまでは普通やらないだろう」と思う一線をまったく気軽に越えてしまっているような、これでもかという細部ディテールの作り込みをご覧ください。



「升マトリョーシカ」

作：デビッド・ブリル (P.14)

Masu Matrioshki: David Brill (P.14)

■ブリル氏が長い間にわたってかかわってきた「升」というテーマについて、今号の記事で熱く語っておられます。たったひとつの題材と過ごす、山あり谷ありの濃密な時間を経ることによってしか生まれてこないイメージを感じ取っていただけるでしょうか。



「国際交流基金派遣レポートより ウクライナのフォルダー」 折り手：Igor Stovschaty (P.36)

Models by Ukrainian Folders: From "Rabbit Year" Article on Yamaguchi's Visit to Central Asia: folded by Igor Stovschaty (P.36)

■海外の折り紙イベントで「現地のマニアに出会うこと」は、非常に重要な楽しみのひとつ。今回山口氏が旧ソ連の国々を訪問した際にもやはり、コンプレックス作品を縦横無尽に折りこなすマニアがいたようです。



「仏像」

作：北條高史 折り手：寺田和宏 (P.38)

A Buddha Statue Folded by Terada-san: From "Rabbit Year" (P.38)

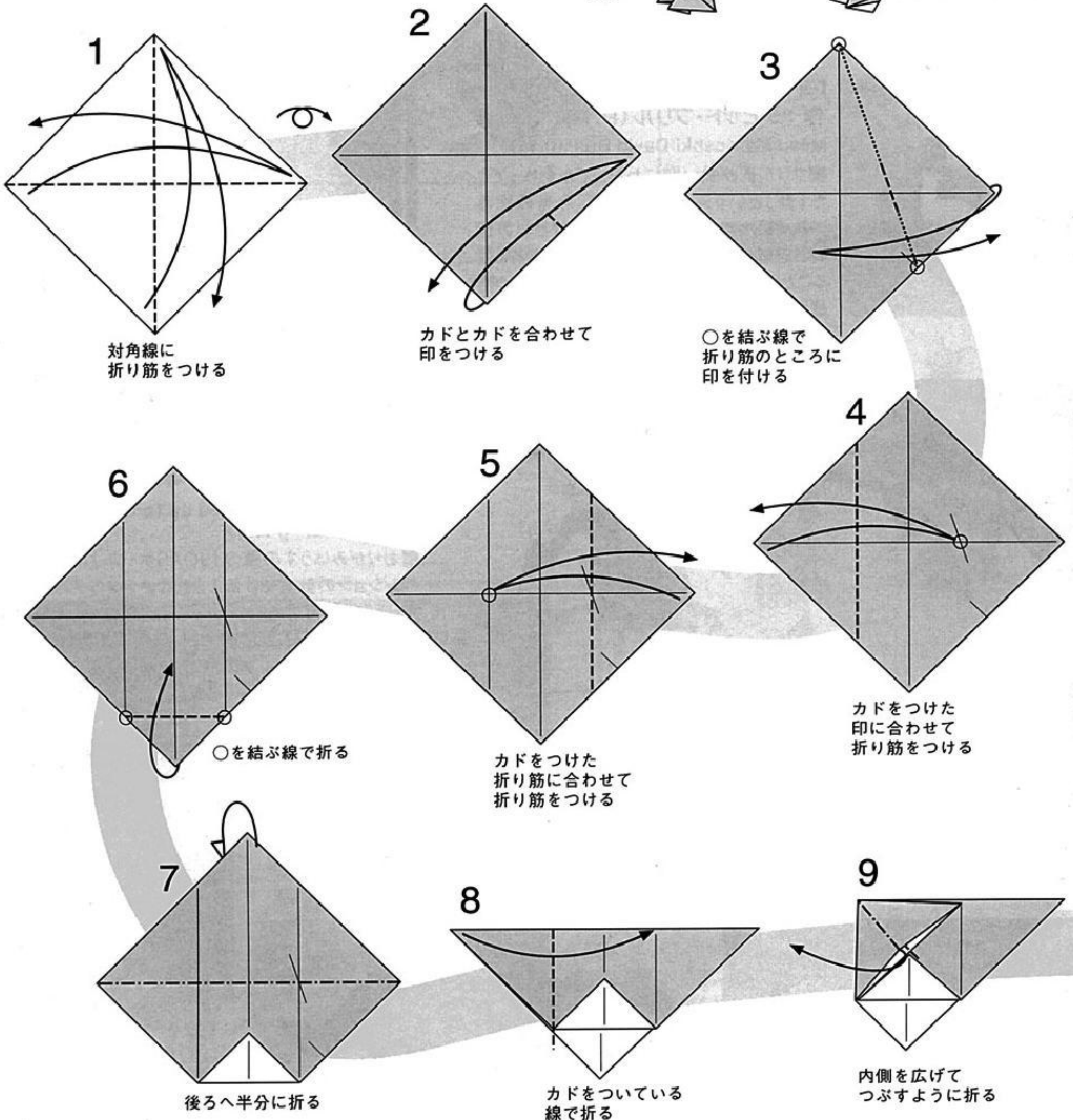
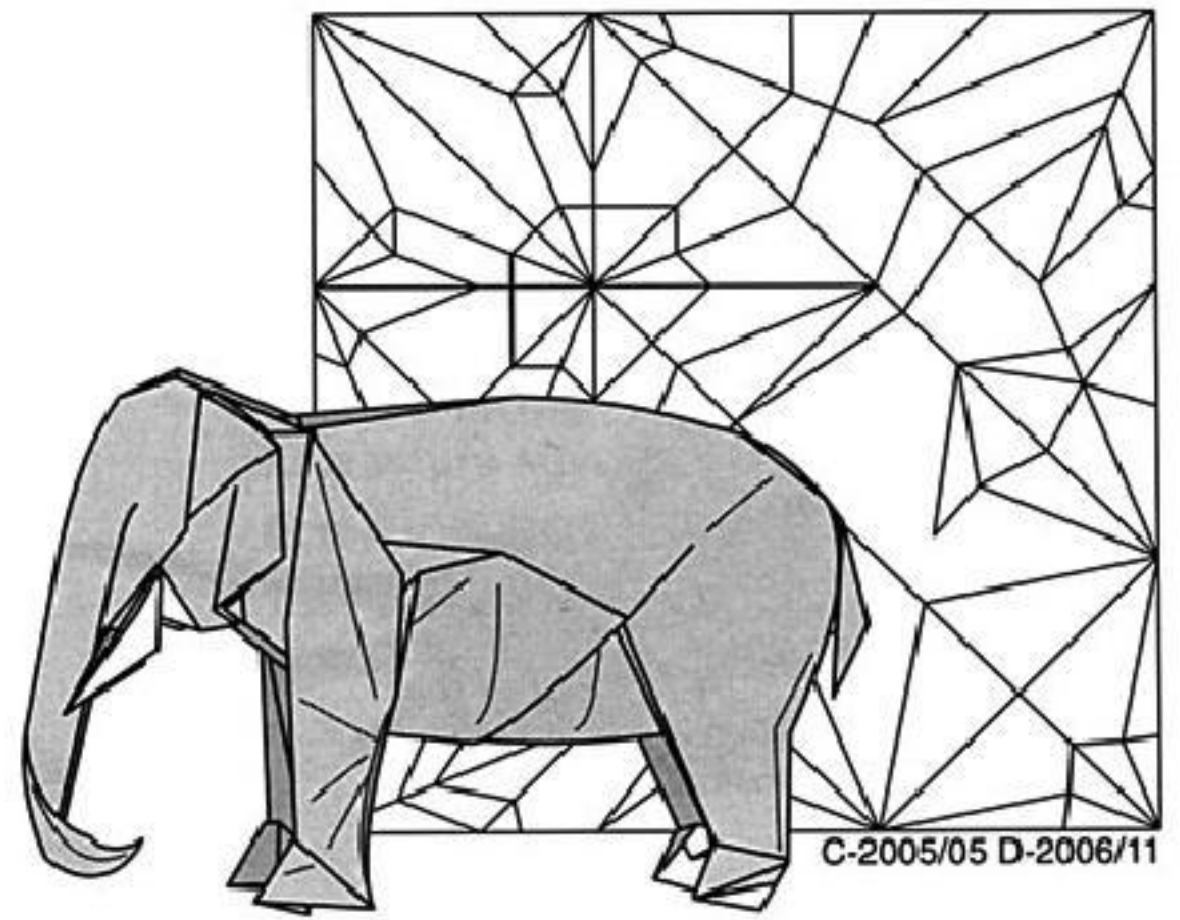
■おりがみはうすの隣の「JOASホール」にて、コンベンションの教室では伝えきれないテクニックをたっぷり時間をかけて学べる講習会を実施中。北條教室皆勤賞の寺田さんの作品では、折り図にない細かい加工を作品各部に追加することによって、より密度の濃い表現が達成されています。

アジアゾウ

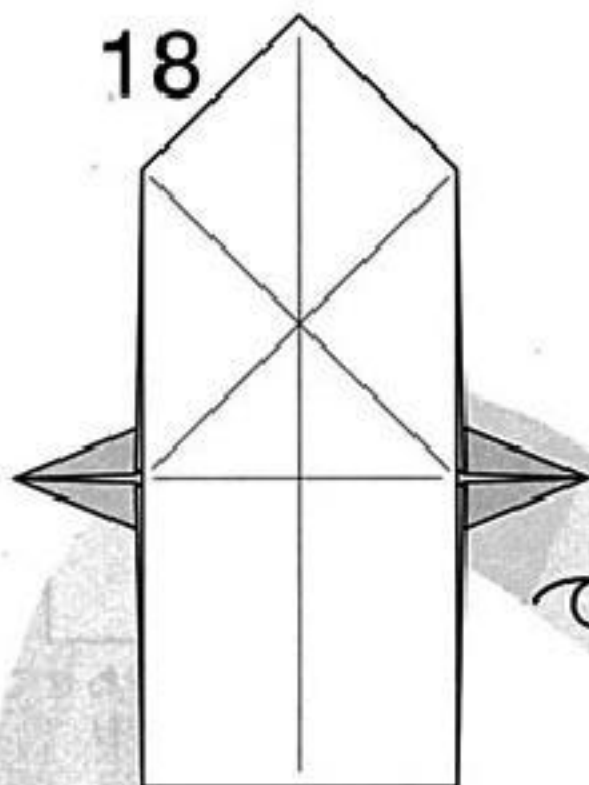
Asiatic Elephant

神谷哲史

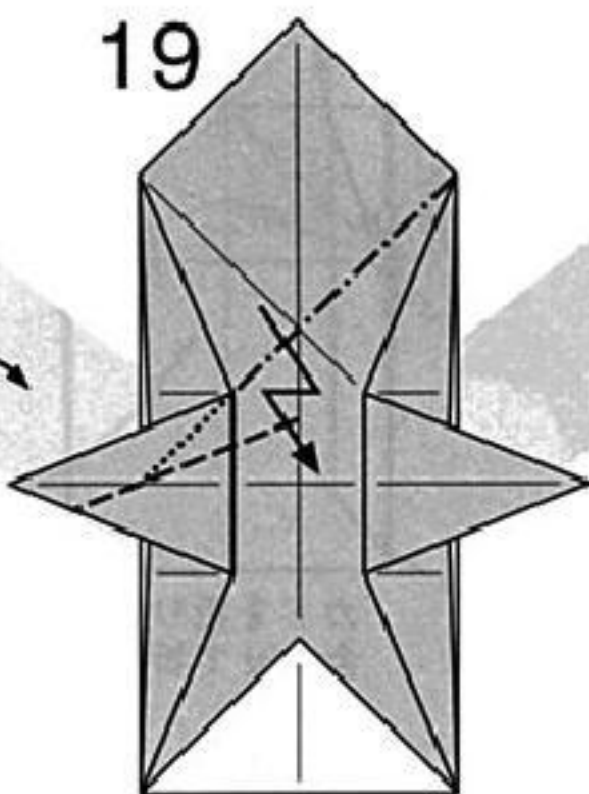
Model & Diagrams by Kamiya Satoshi



18

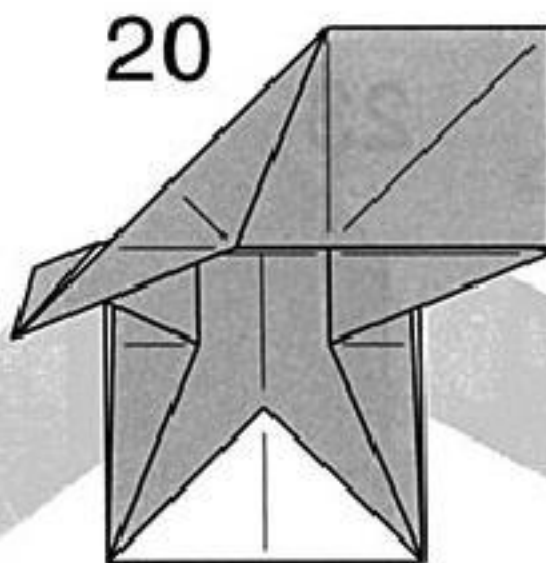


19



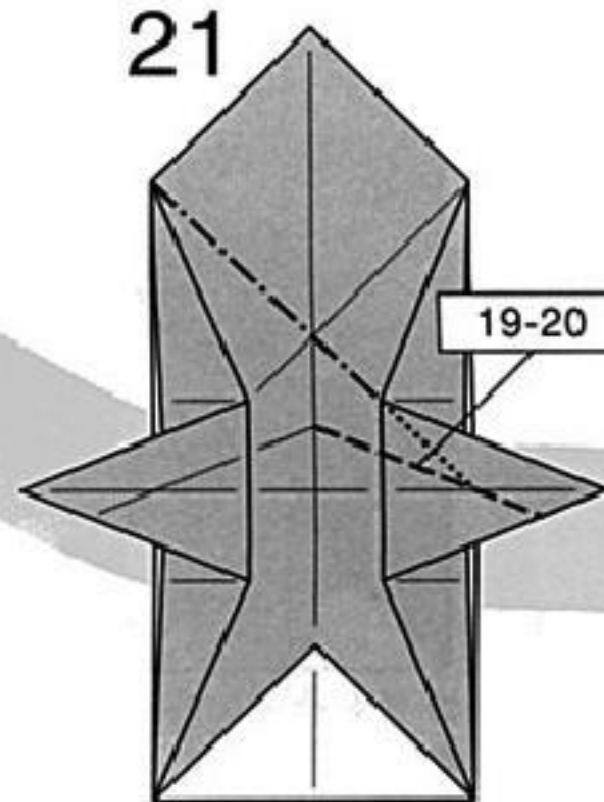
17 でつけた折り筋を
使って段折り

20



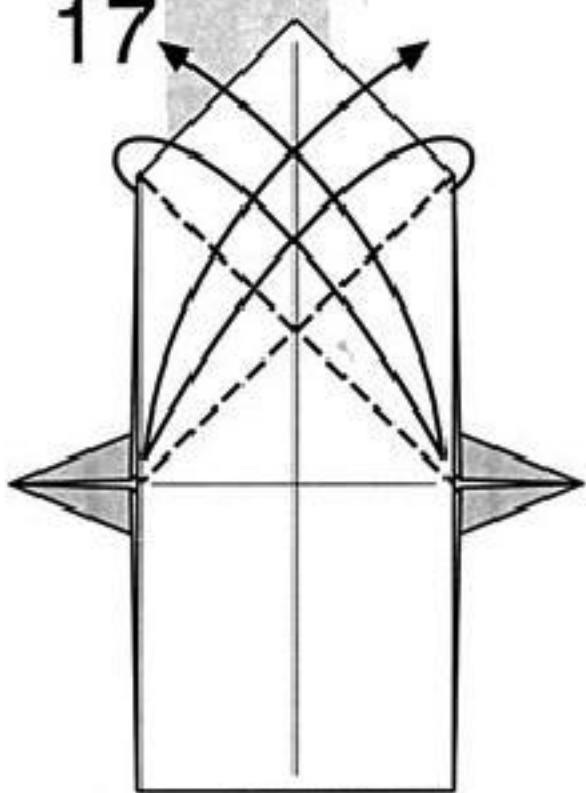
戻す

21



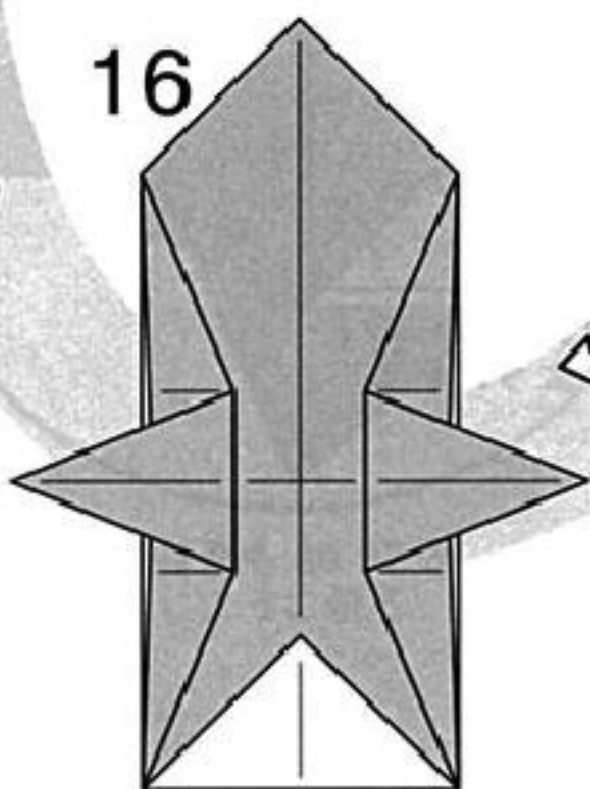
反対側も 19-20 と
同じように
折り筋をつける

17

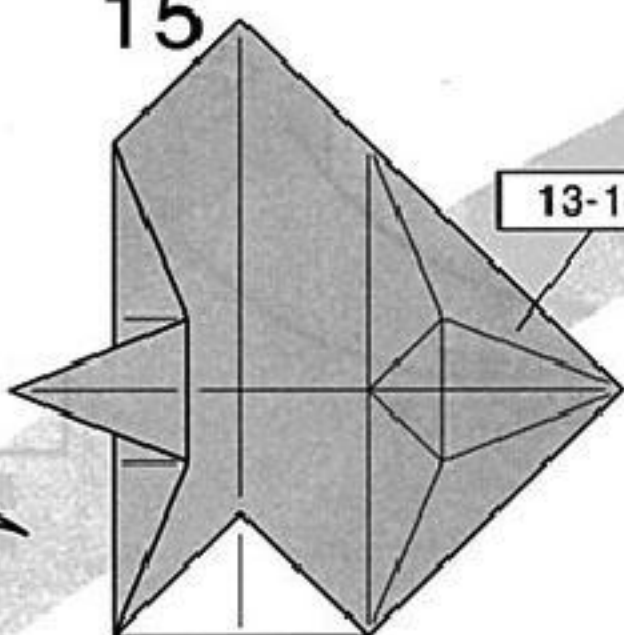


カドを折り筋にあわせて
折り筋をつける

16

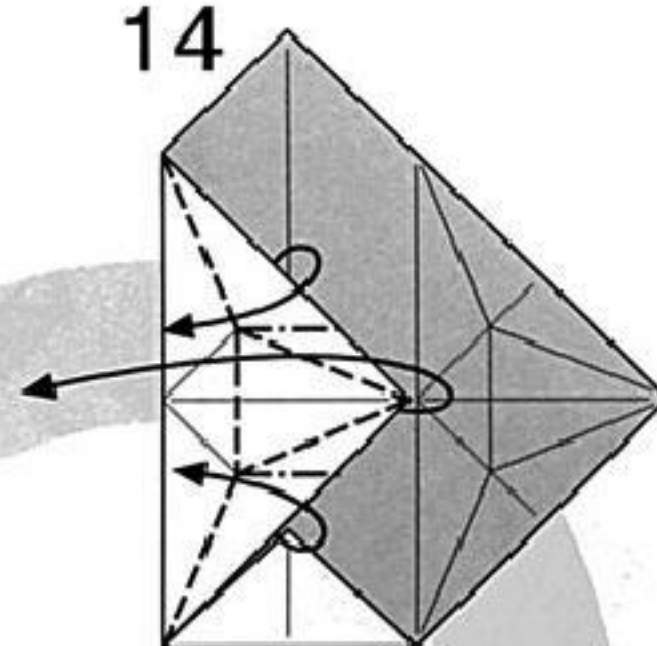


15



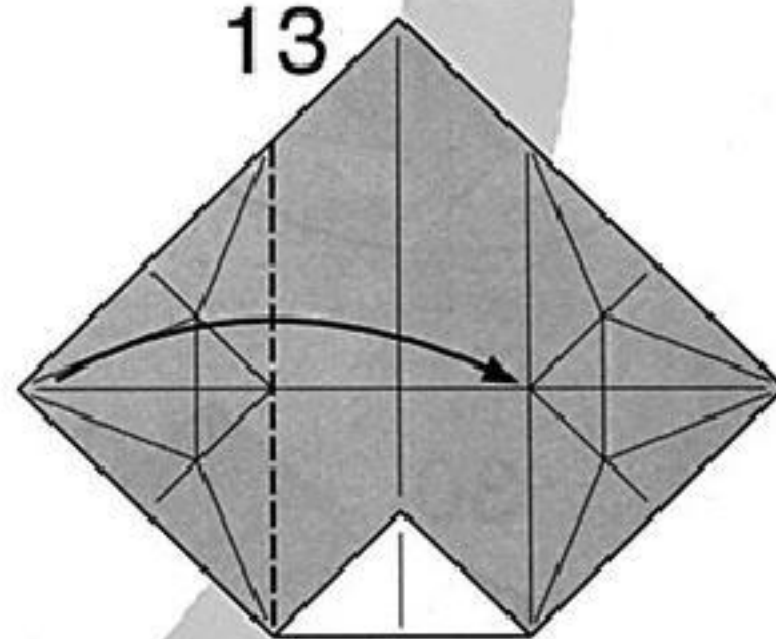
反対側も 13-14 と
同じように折る

14



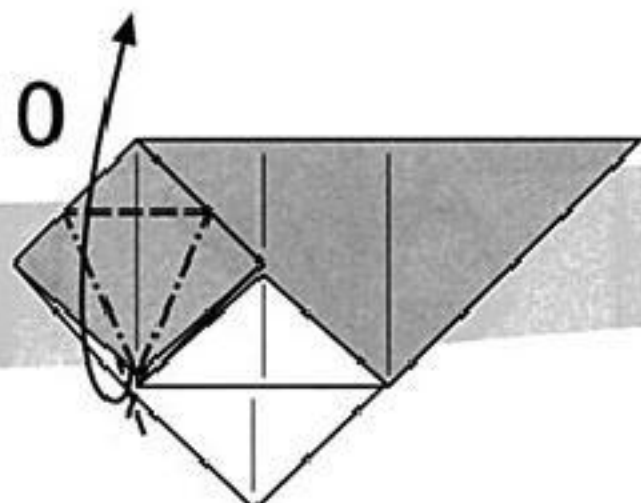
カドをついている線を使って
折り畳む

13



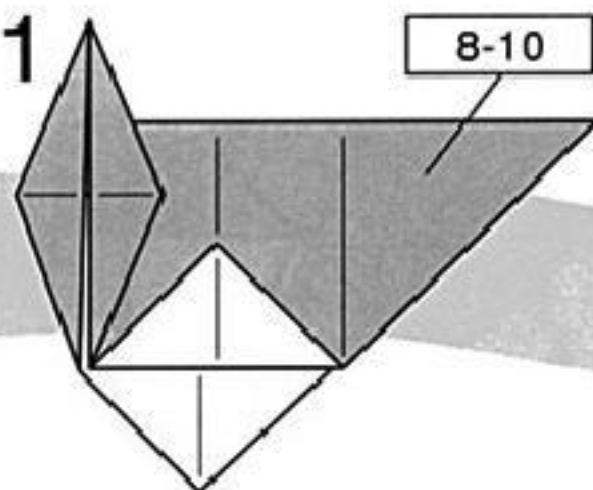
カドをついている
線で折る

10



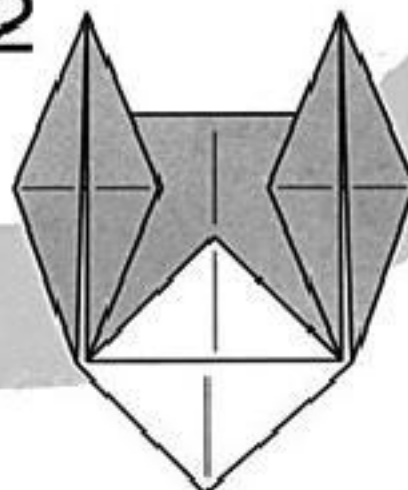
内側を広げて
つぶすように折る
(花弁折り)

11

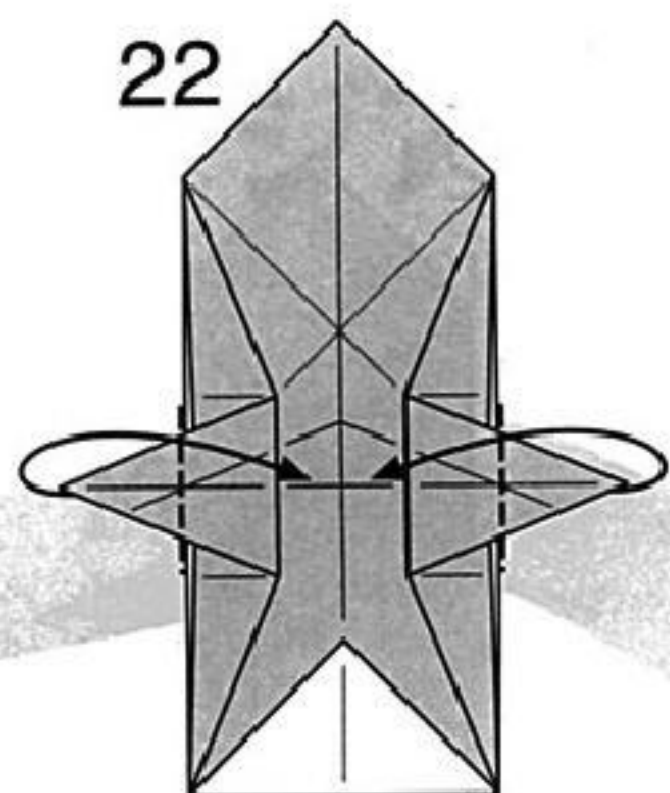


反対側も 8-10 と
同じように折る

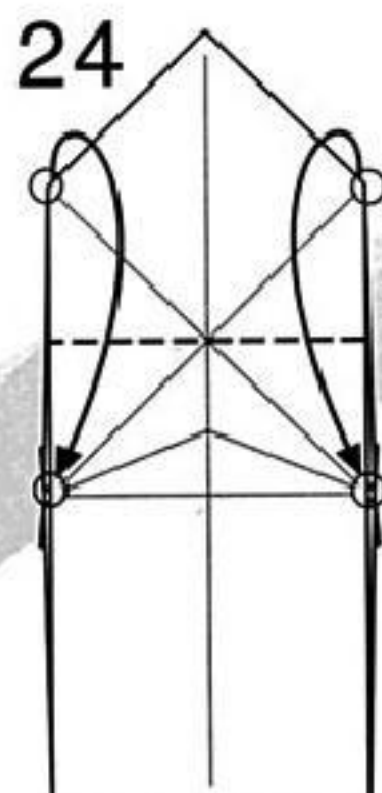
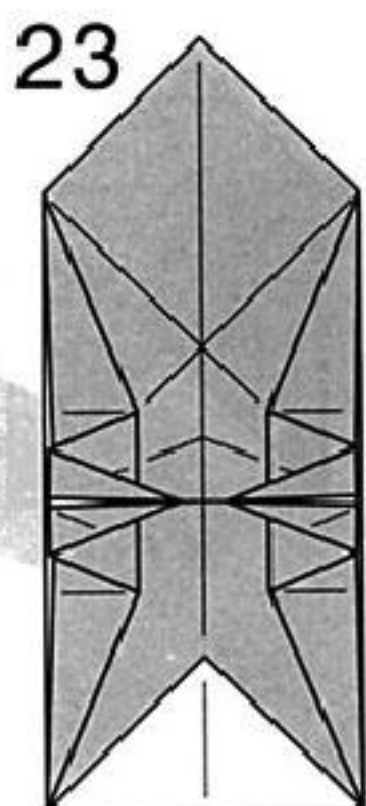
12



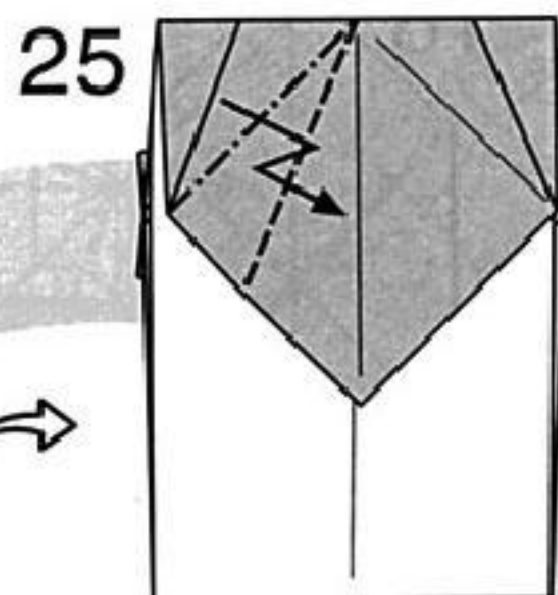
7 の形まで広げる



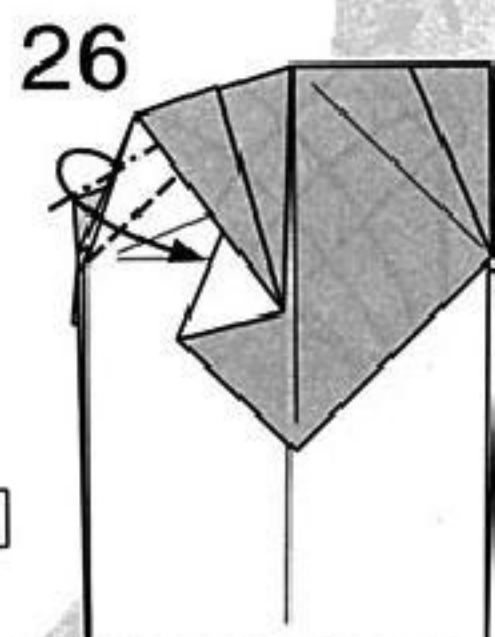
カドを後ろの縁の
ところで折る



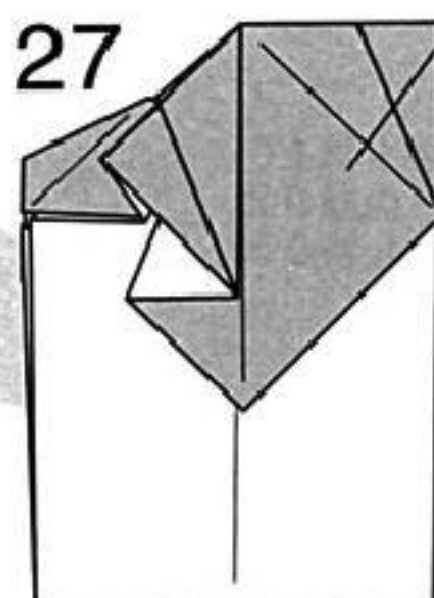
カドを折り筋に
合わせて折る



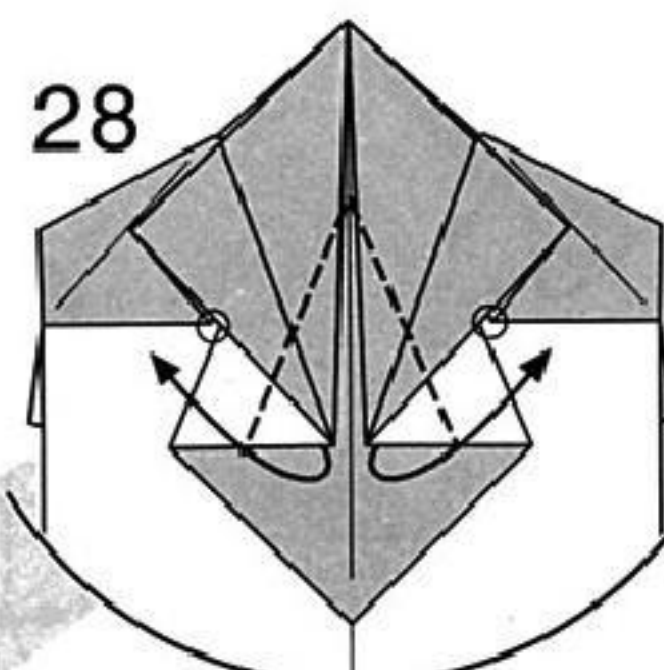
折り筋を中心に合わせて
ずらすように段折り



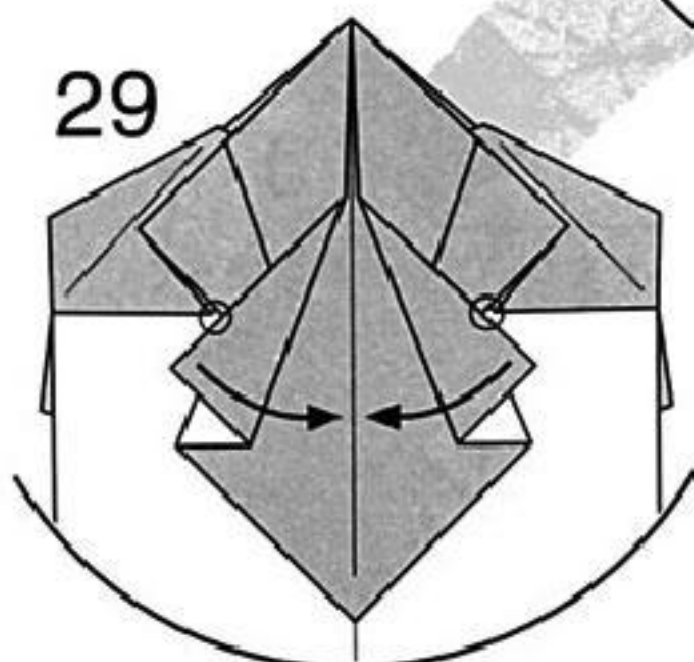
起き上がってきた
部分を折り畳む



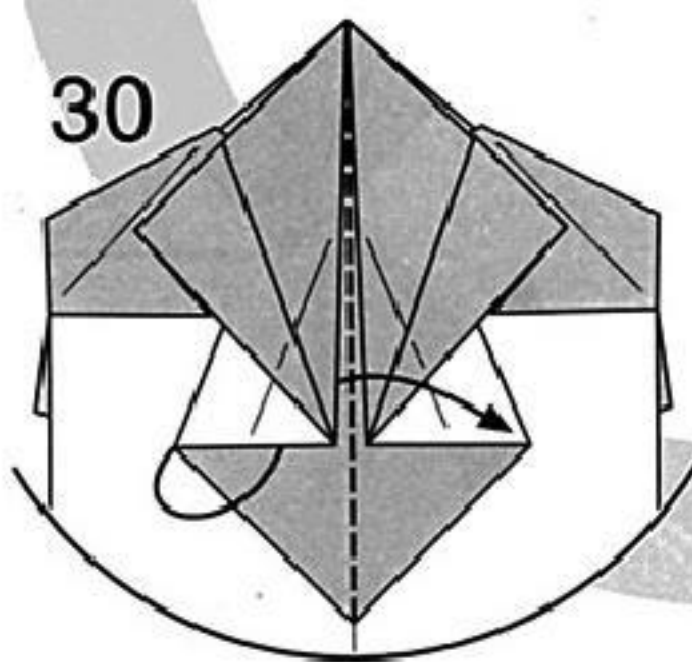
反対側も 25-26 と
同じように折る



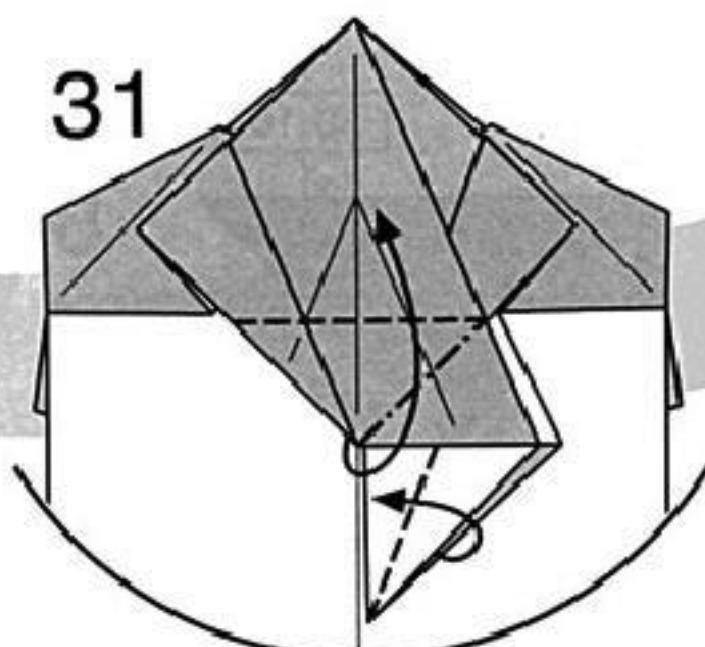
縁を○に合わせて
斜めに折る



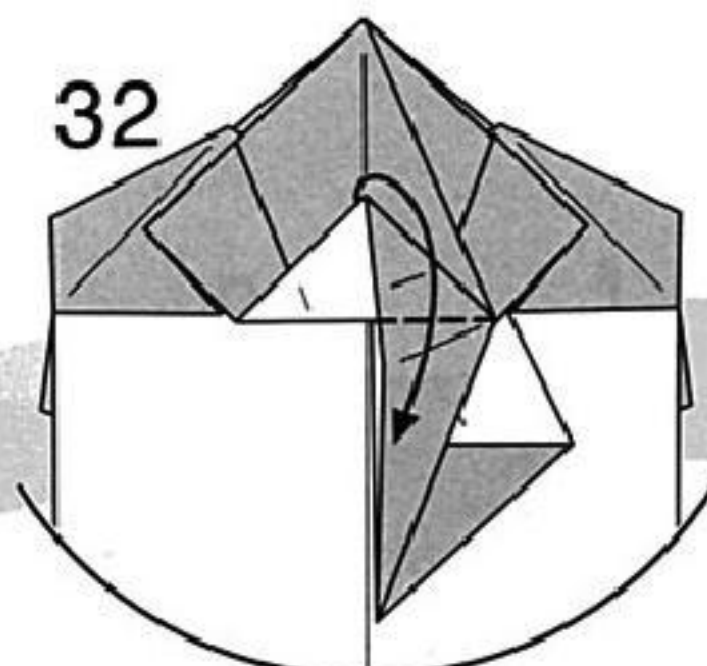
戻す



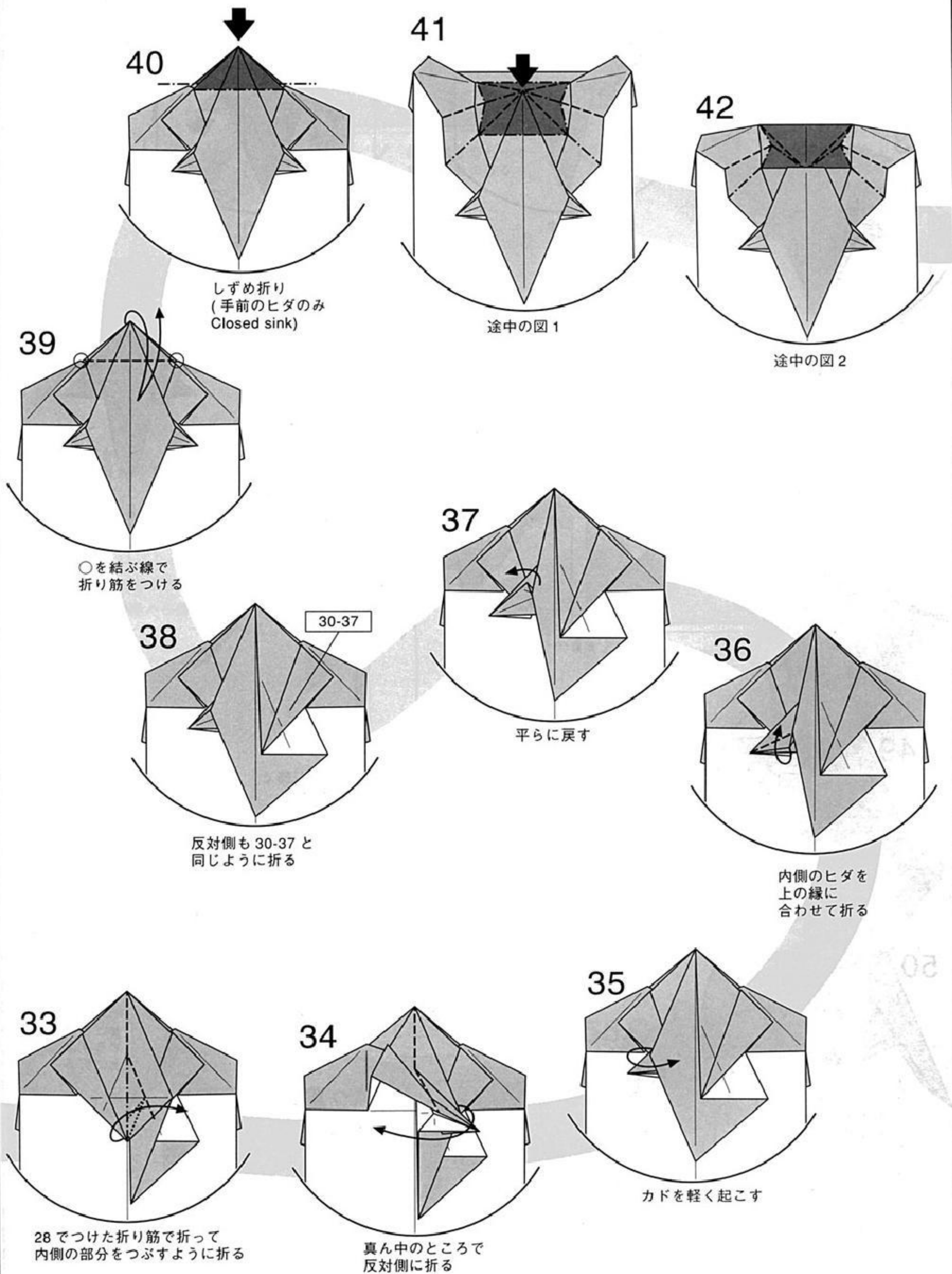
ヒダを中割り折りするように
折って外に出す



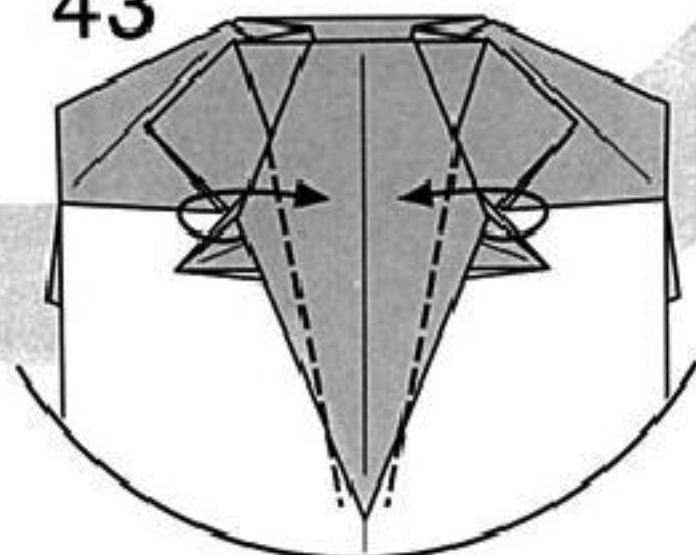
縁と縁を合わせて
カドをつまむように折る



カドを下に折る

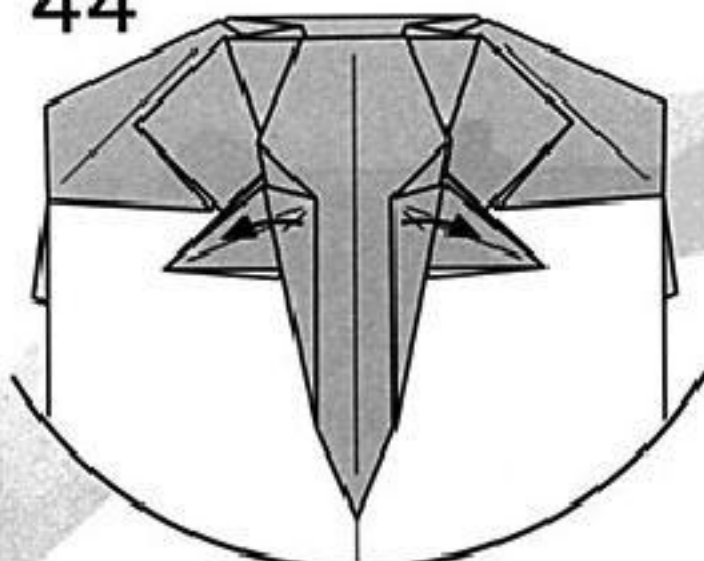


43



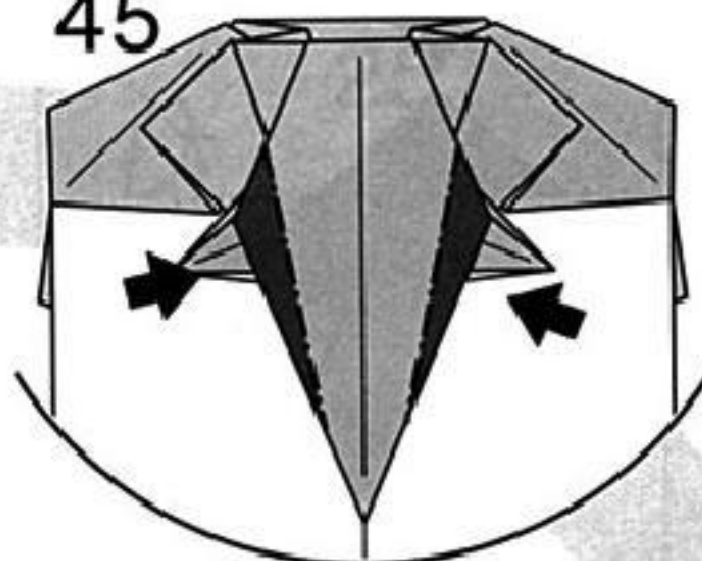
カドを斜めに折る

44

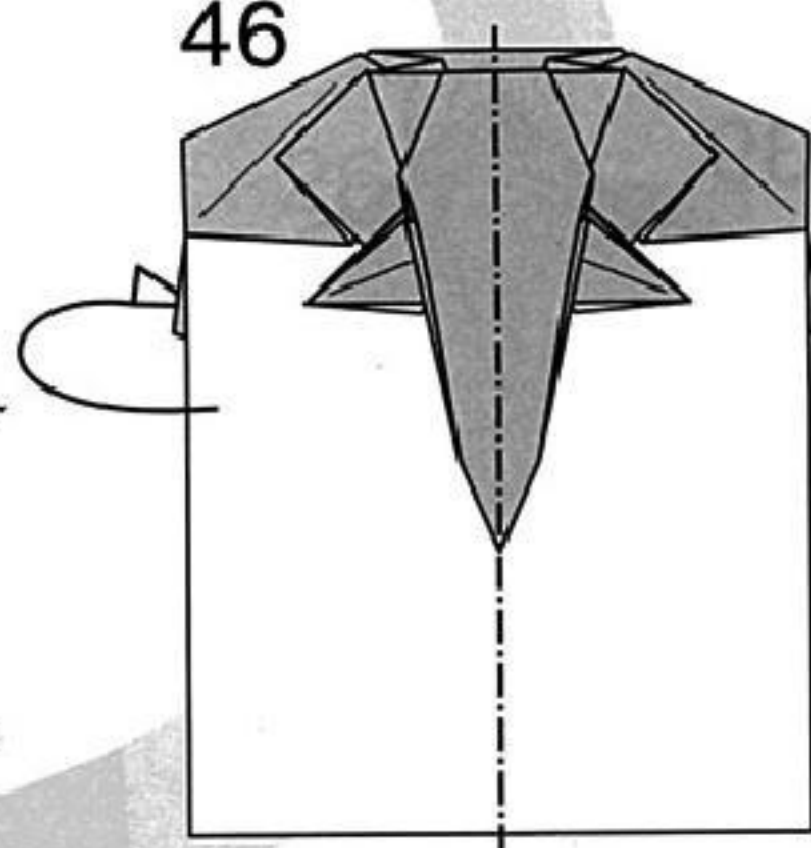


戻す

45

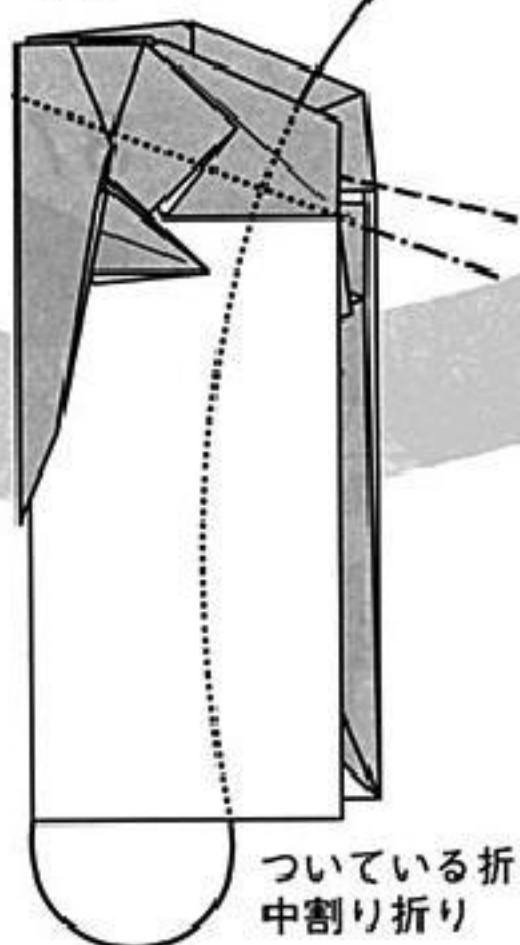
しずめ折り
(Closed sink)

46

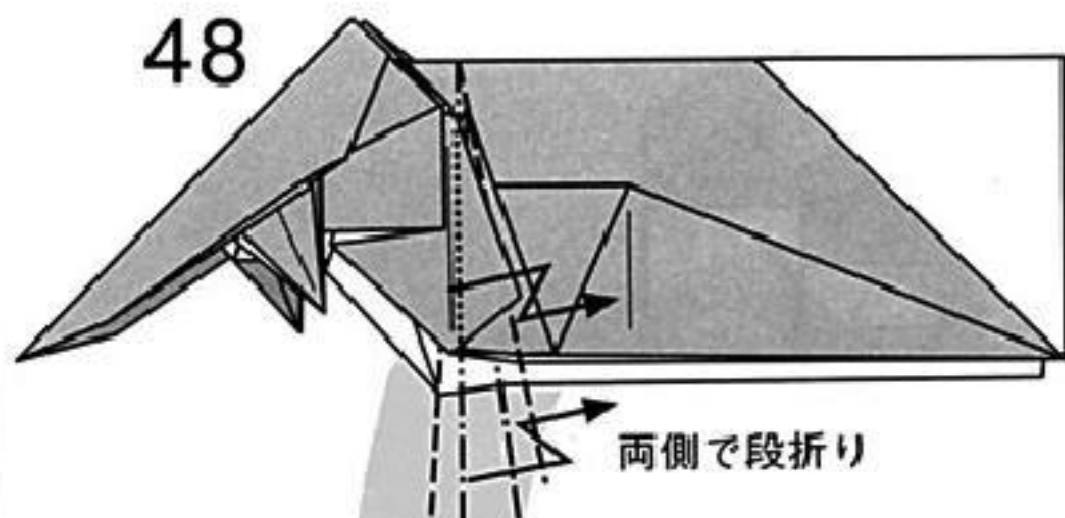


後ろへ半分に折る

47

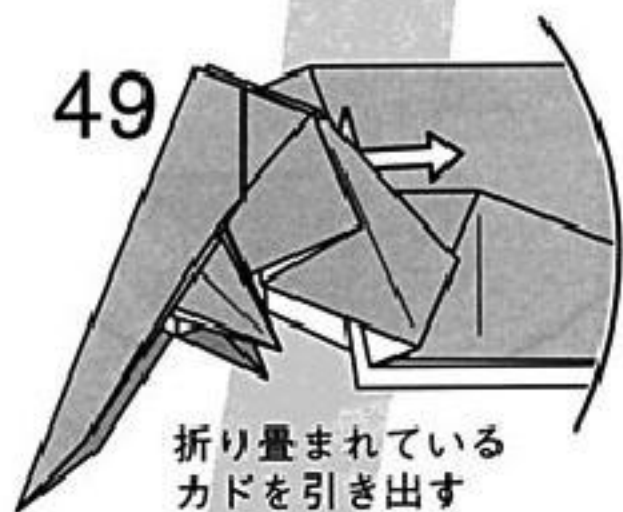
ついている折り筋で
中割り折り

48

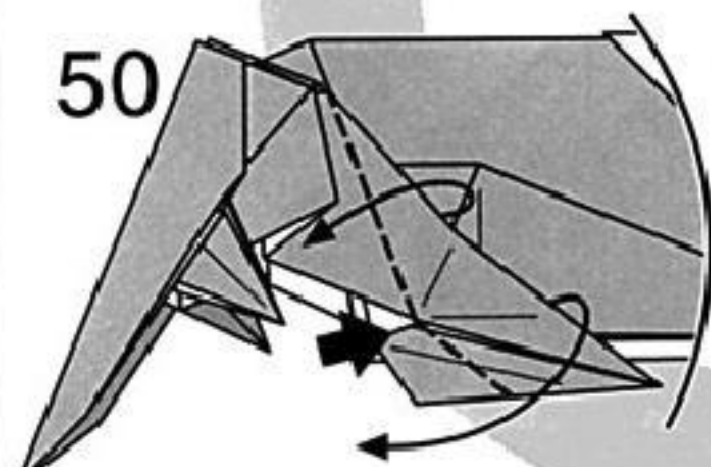


両側で段折り

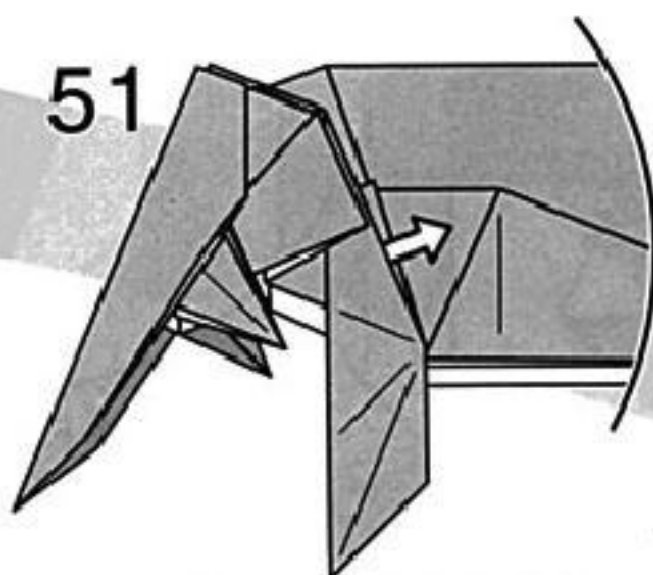
49

折り畳まれている
カドを引き出す

50

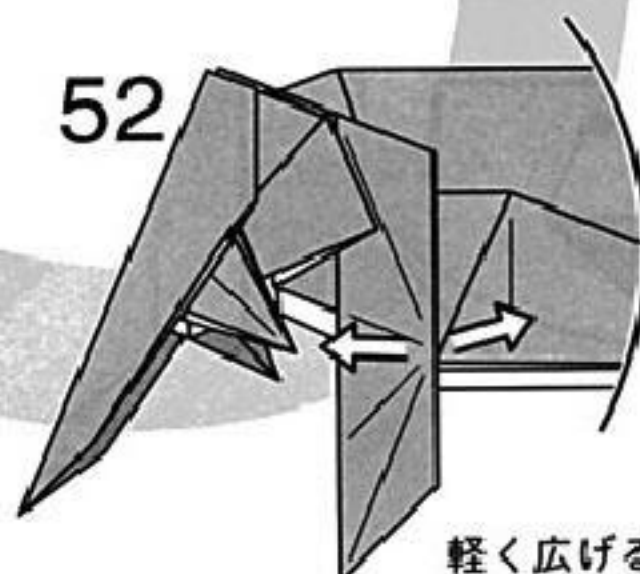
引き出したカドを
かぶせるように折る

51



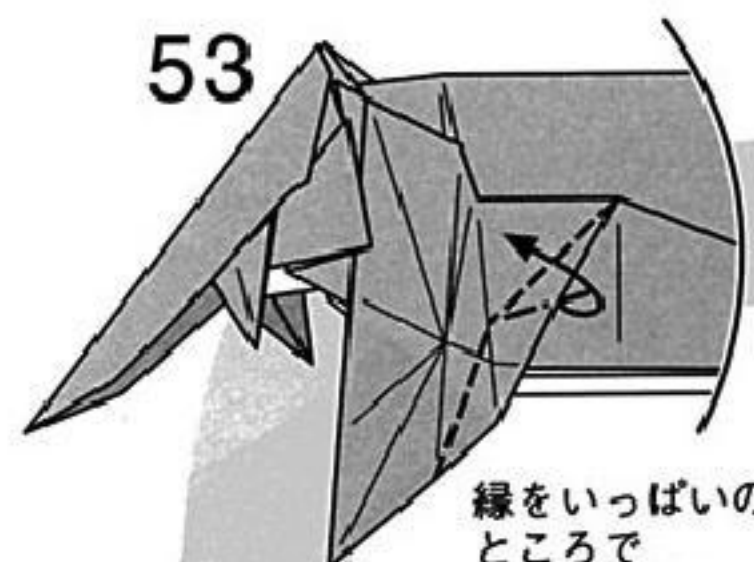
内側のカドを引き出す

52

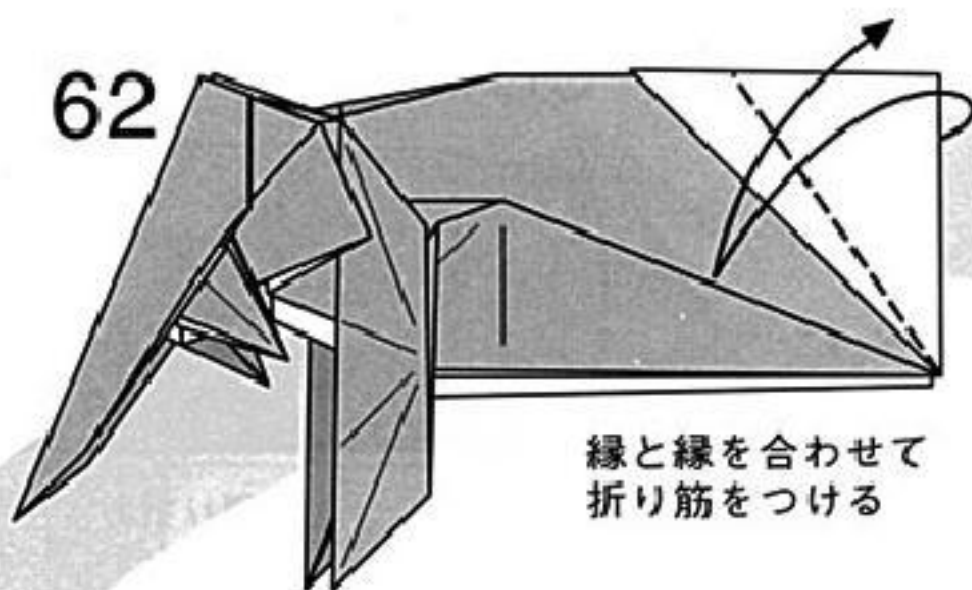


軽く広げる

53

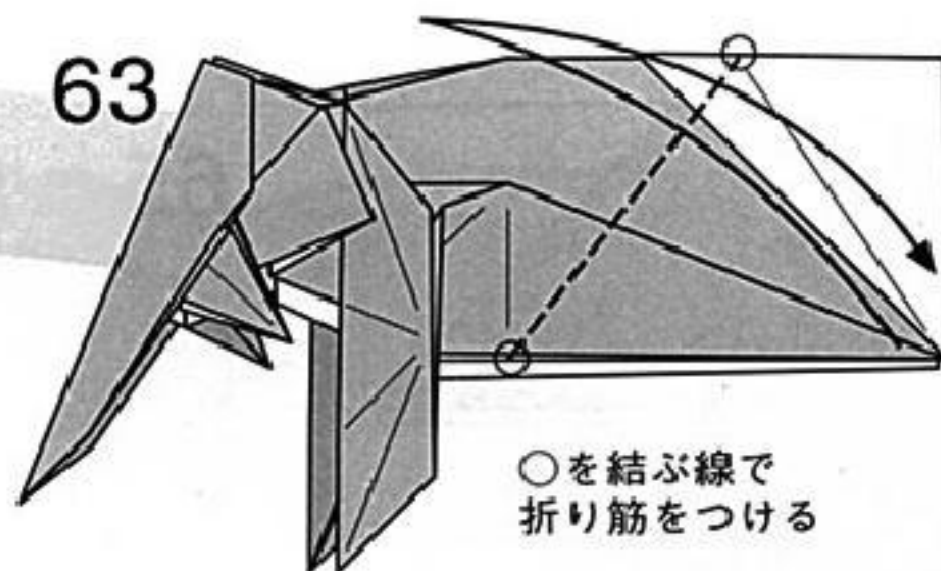
縁をいっばいの
ところで
ずらすように
上に折る

62



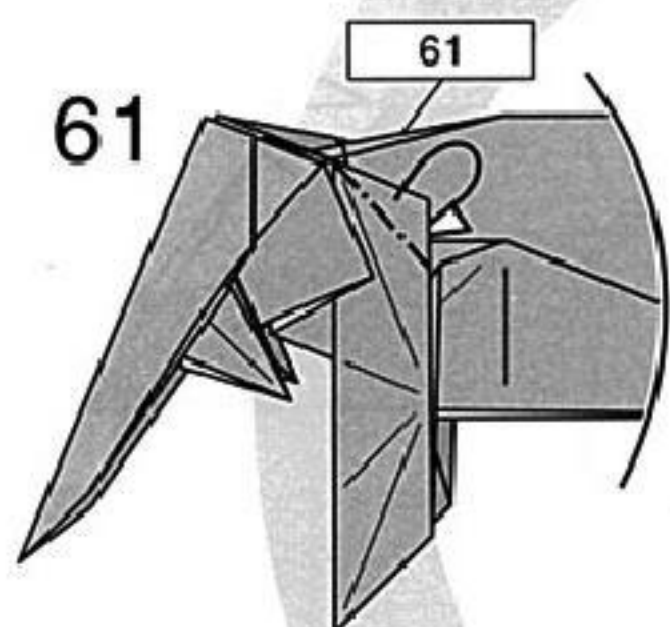
縁と縁を合わせて
折り筋をつける

63



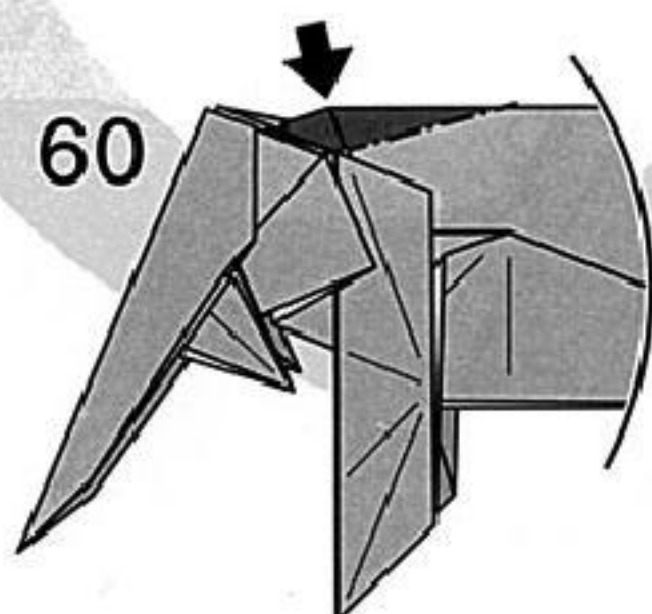
○を結ぶ線で
折り筋をつける

61



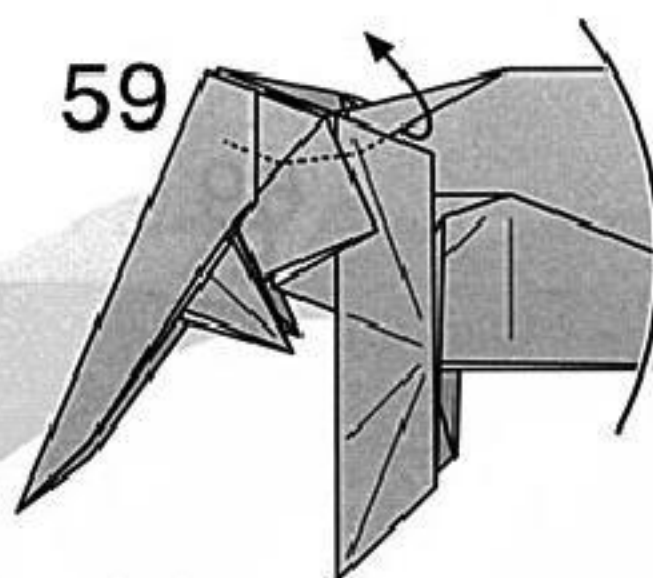
カドを後ろへ折り込む
反対側も同じ

60



しずめ折り
(Closed sink)

59



折った部分を
そのまま上に折る

58



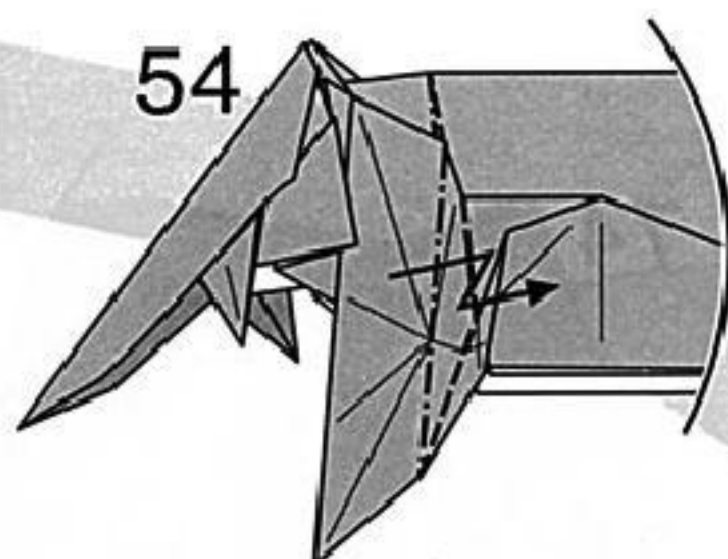
折ったところ

57



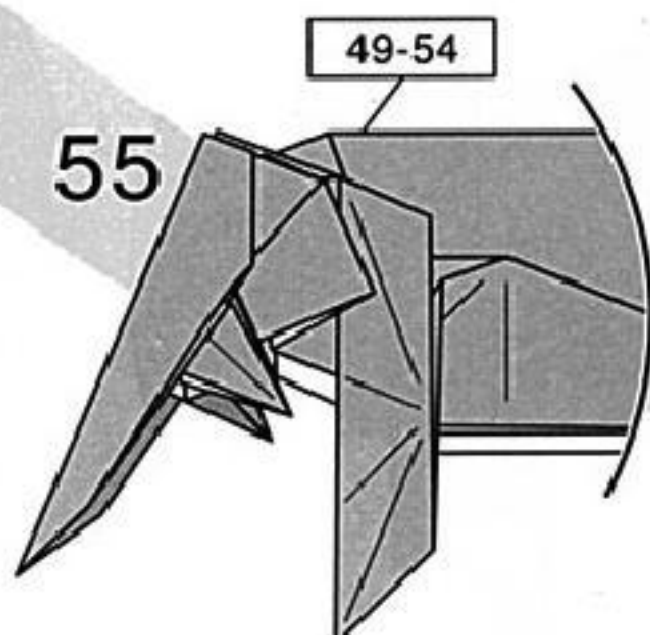
上から見た図

54



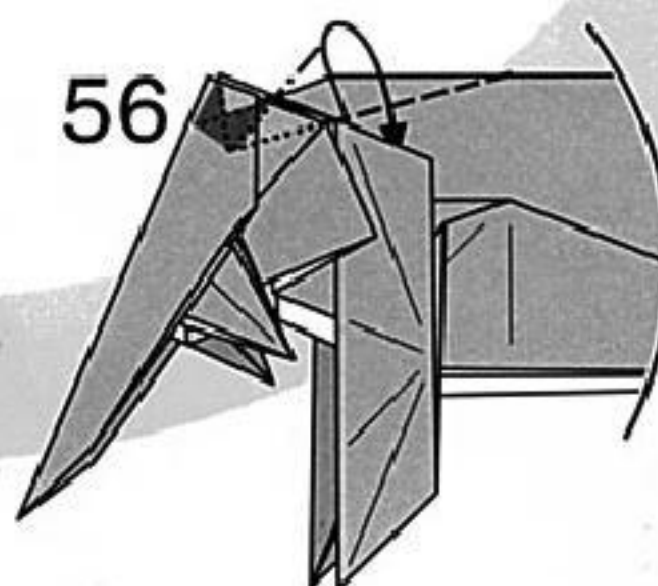
途中の図
平らに折り畳む

55



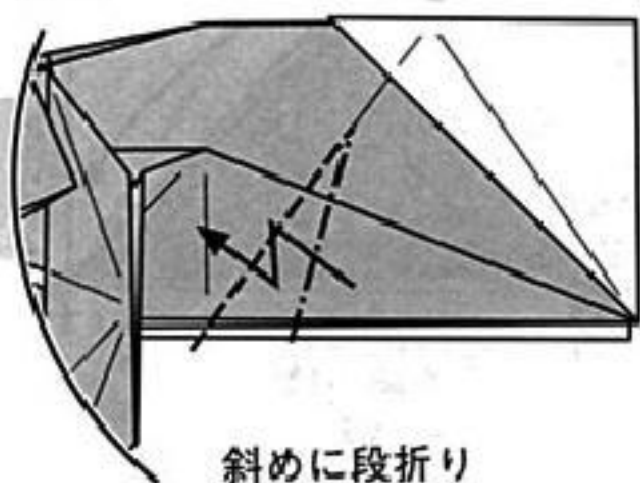
反対側も 49-54 と
同じように折る

56



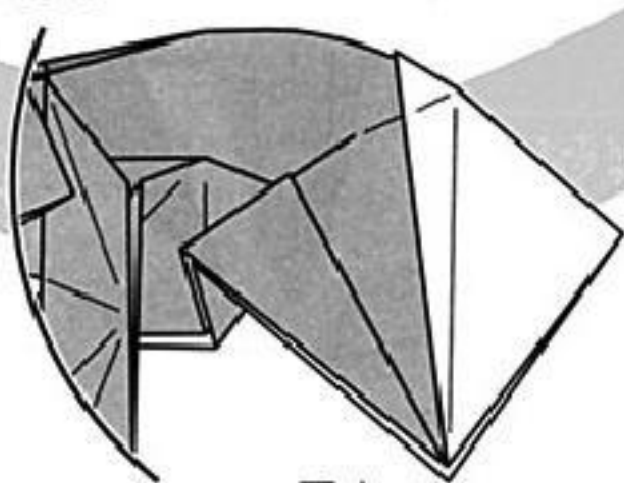
■の部分
を引き出しなが
ら縁を斜めに折る

64



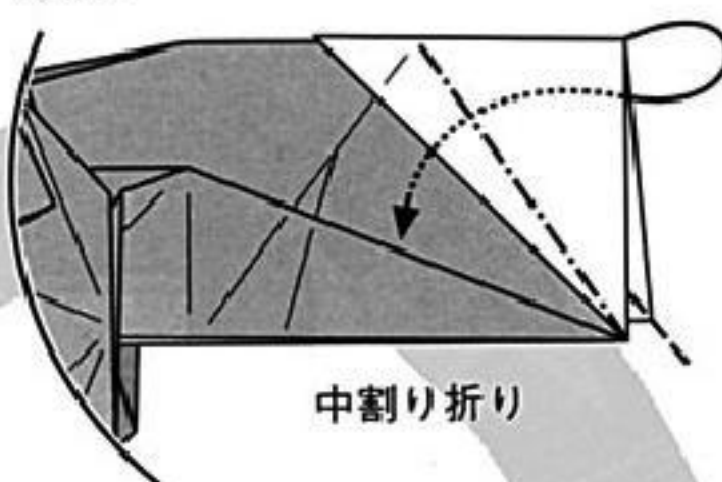
斜めに段折り

65



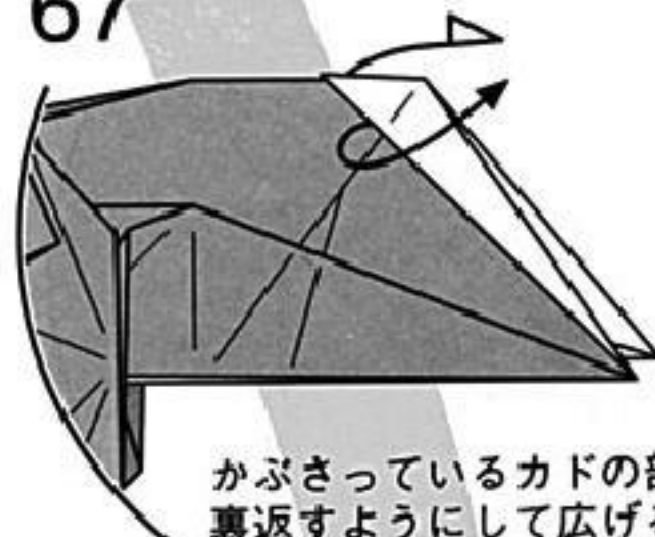
戻す

66



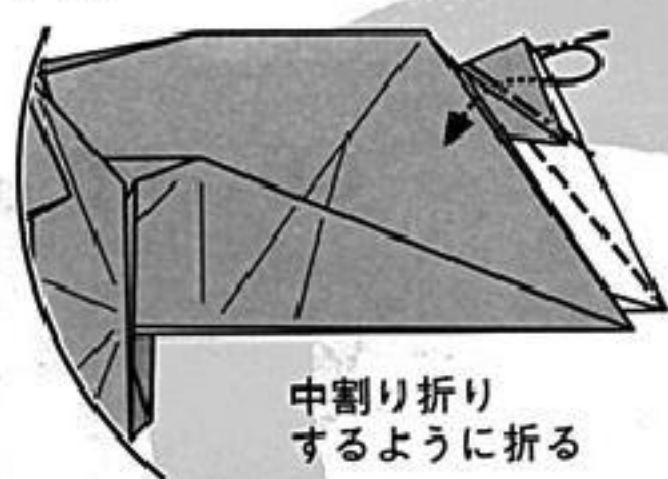
中割り折り

67

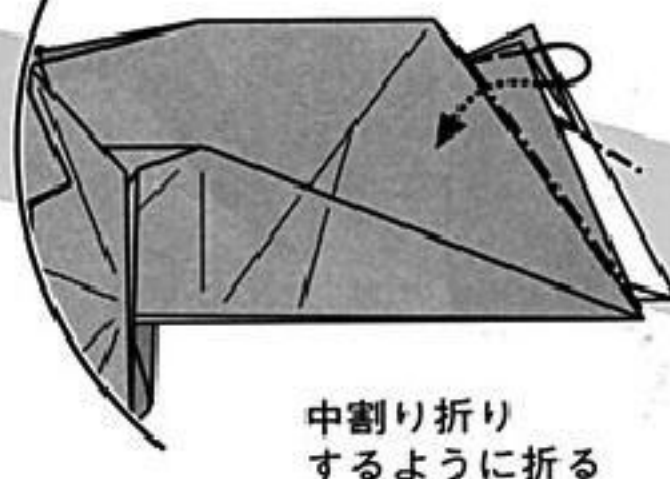


かぶさっているカドの部分を裏返すようにして広げる

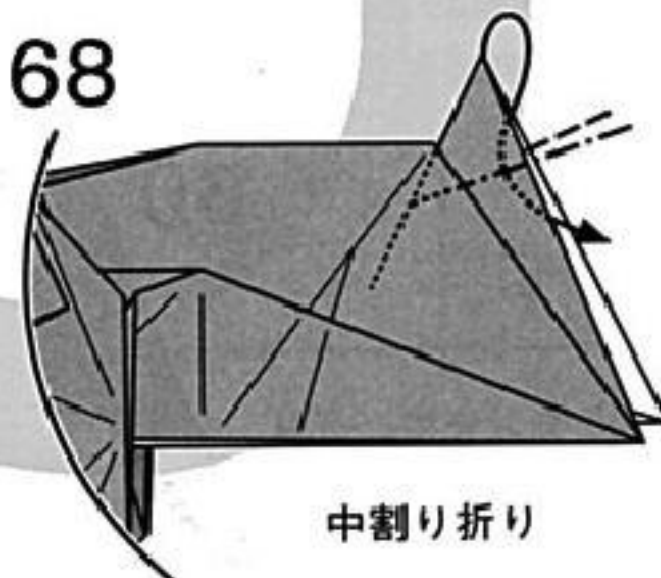
70

中割り折り
するように折る

69

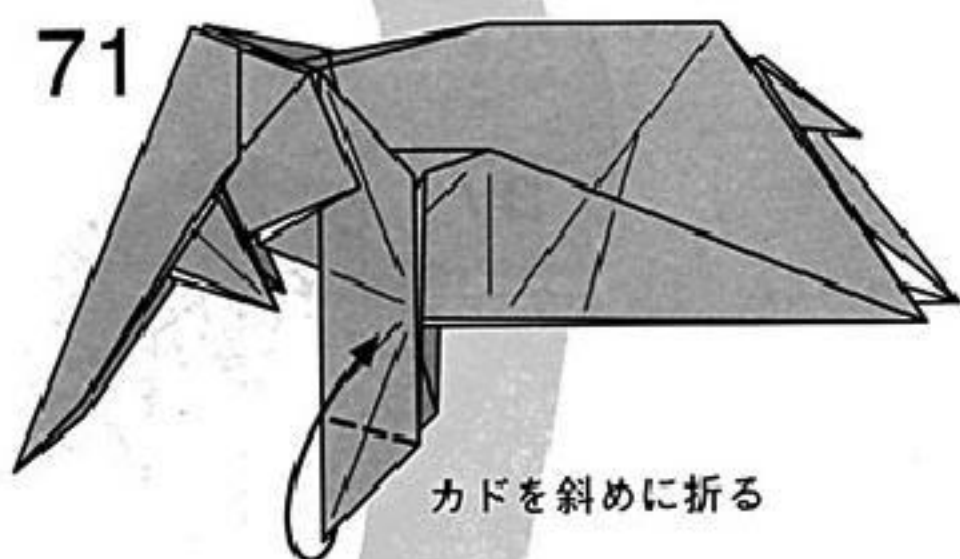
中割り折り
するように折る

68



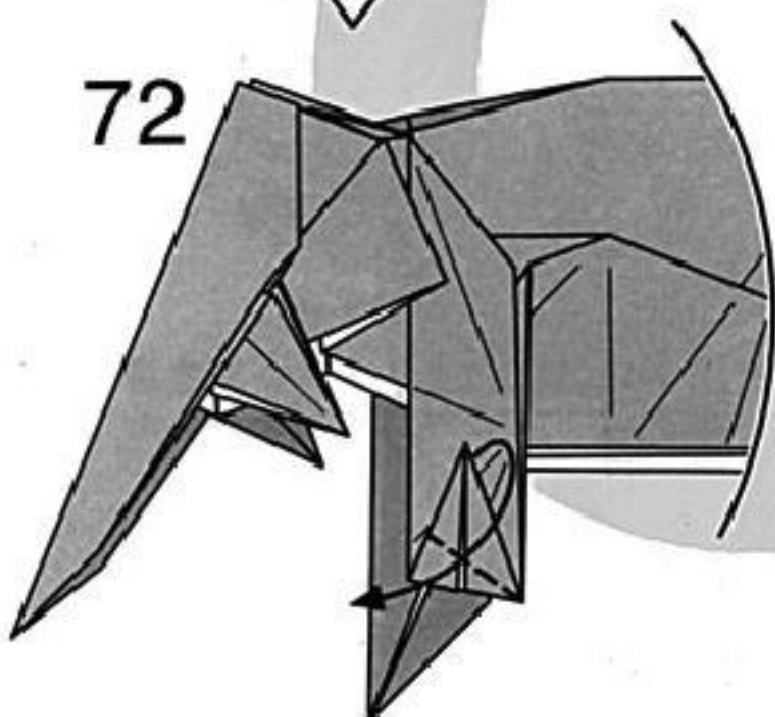
中割り折り

71



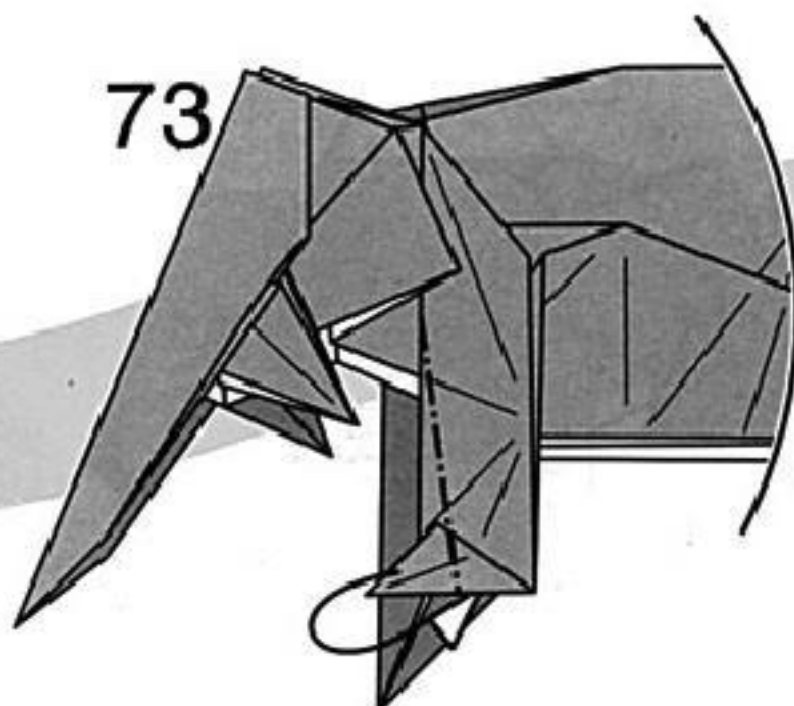
カドを斜めに折る

72



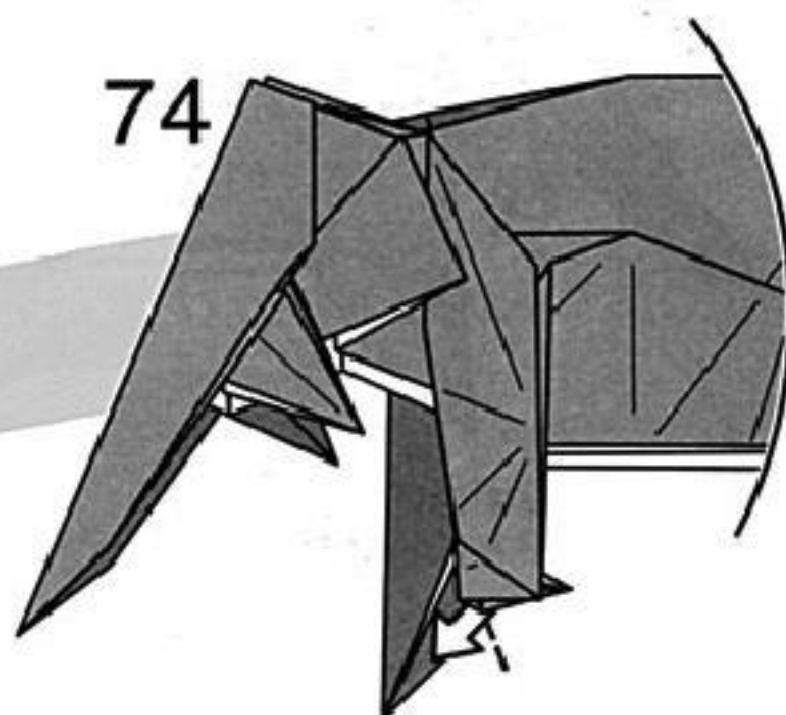
カドを斜めに折る

73

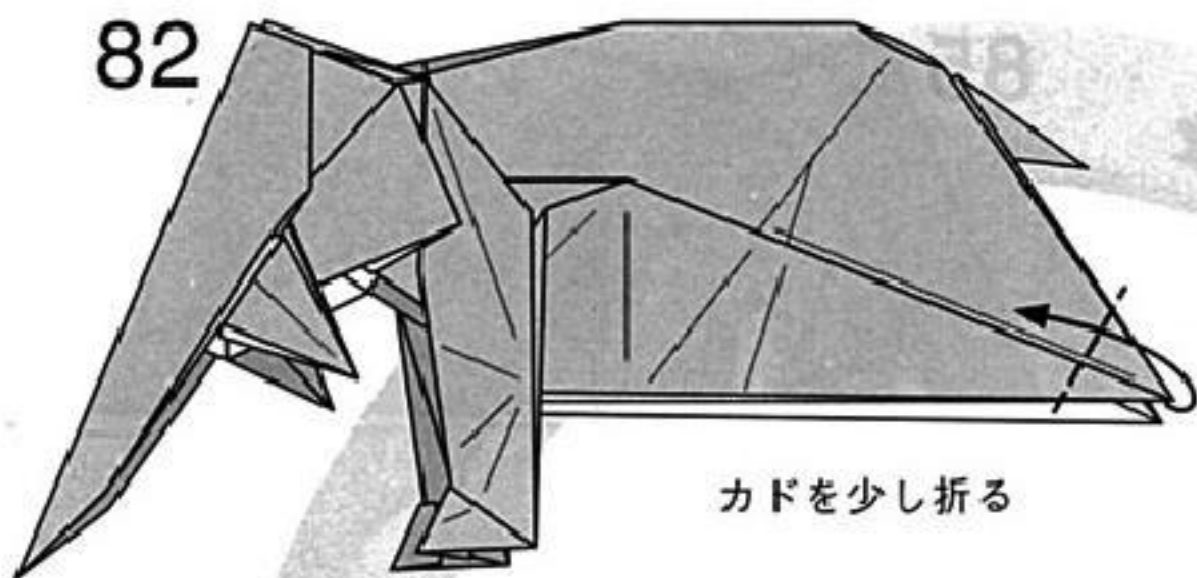


カドを後ろへ折る

74

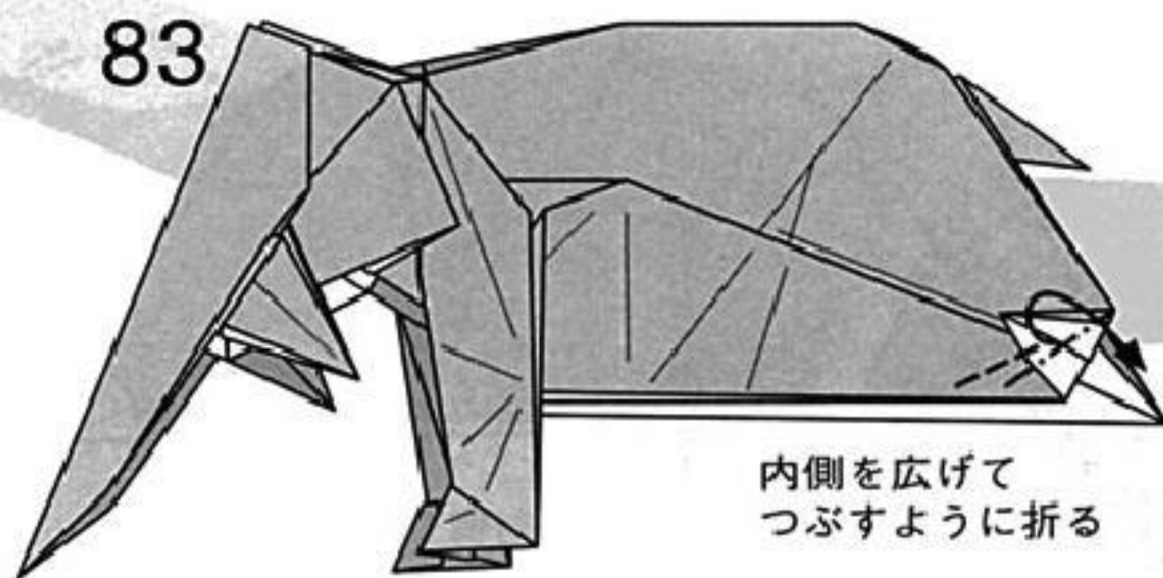
折ったカドを
ずらすようにして
引き出す

82

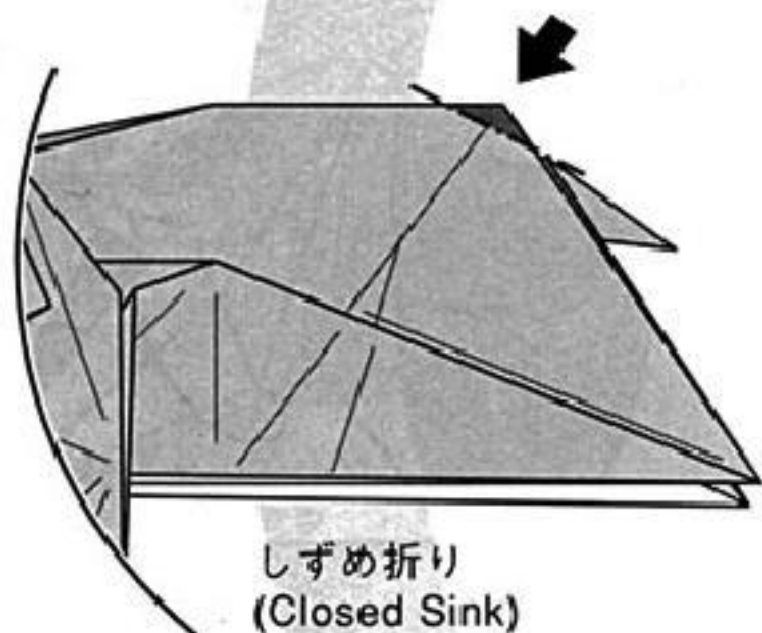


カドを少し折る

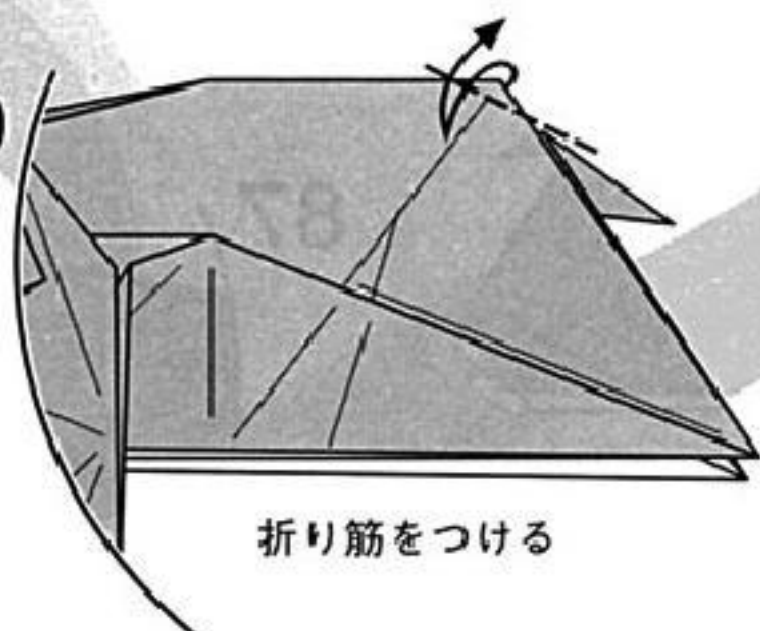
83

内側を広げて
つぶすように折る

81

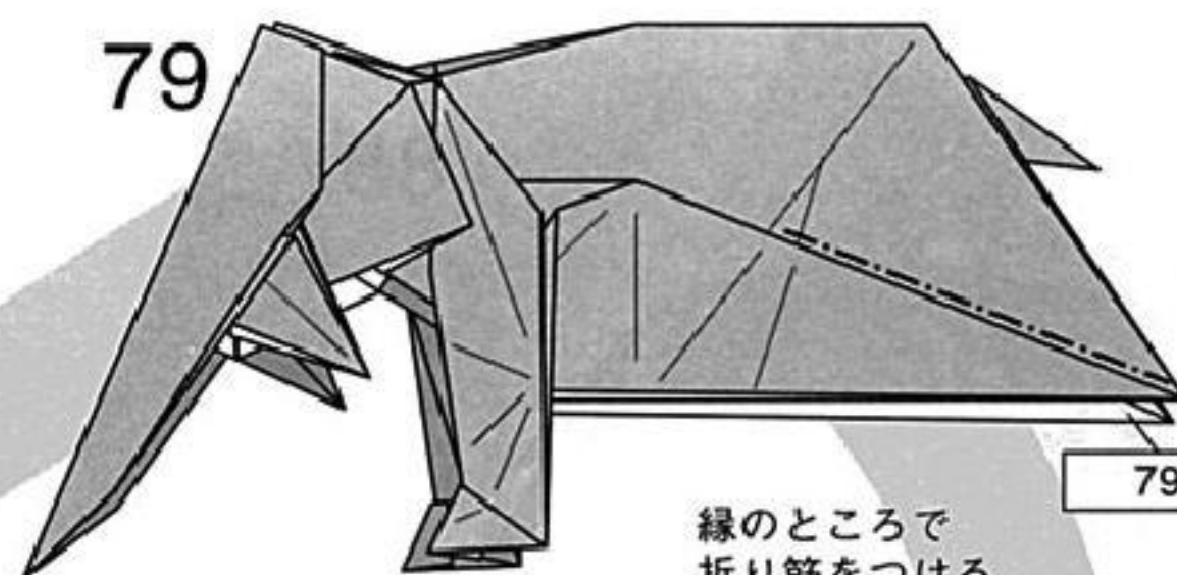
しずめ折り
(Closed Sink)

80

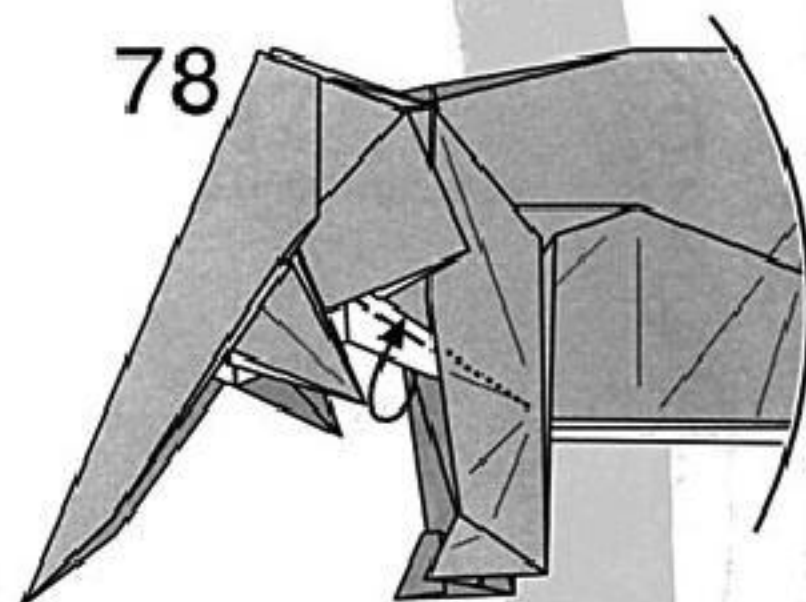


折り筋をつける

79

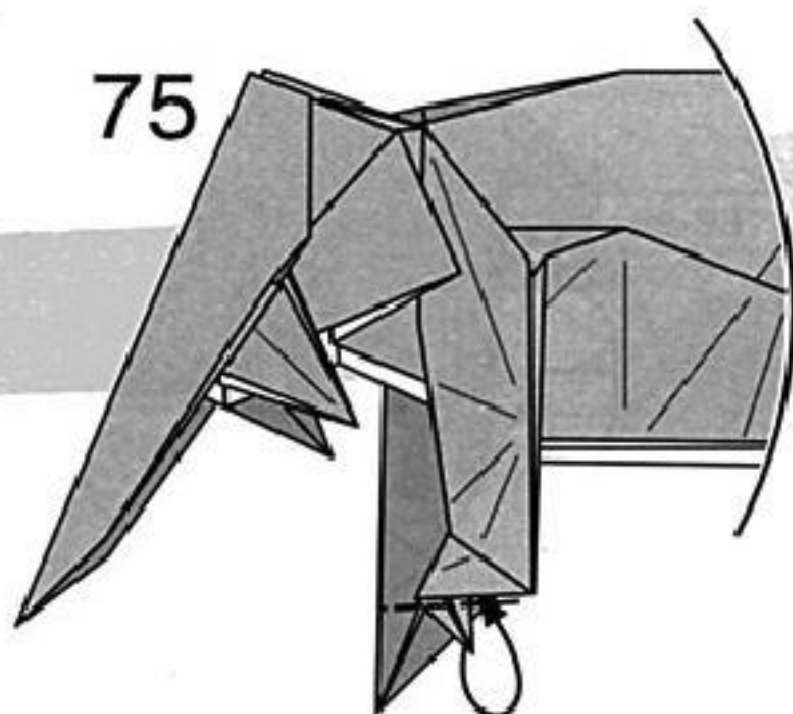
縁のところで
折り筋をつける
反対側も同じ

78



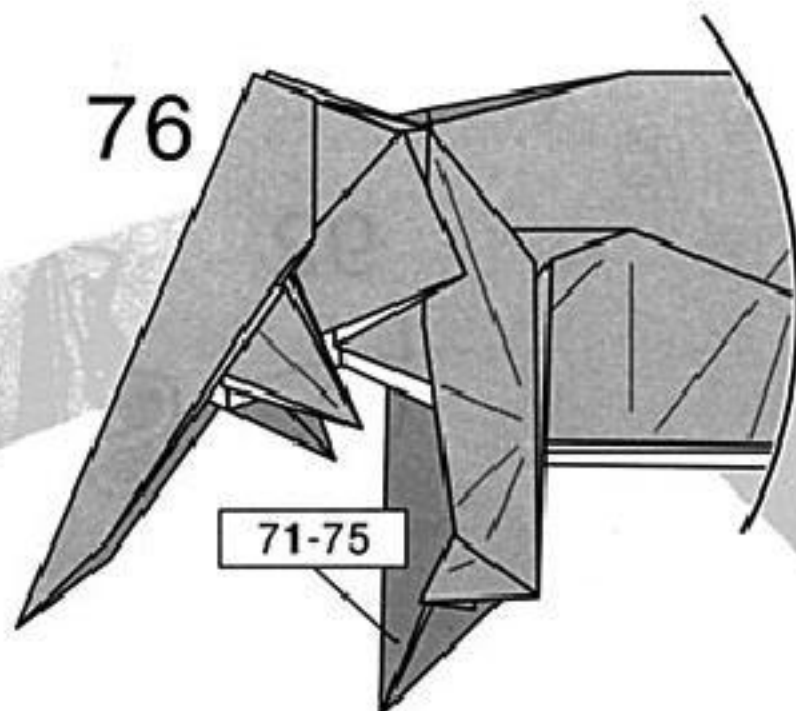
反対側も同じように折る

75

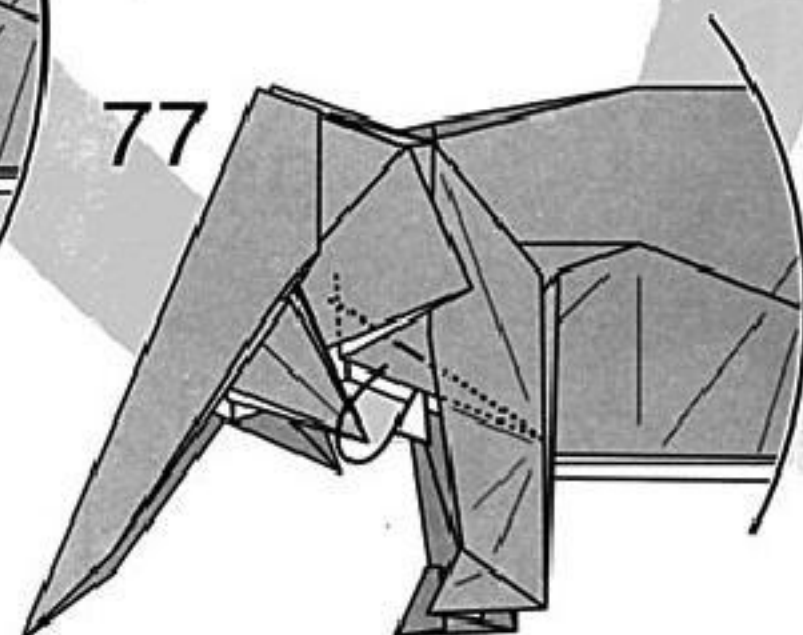


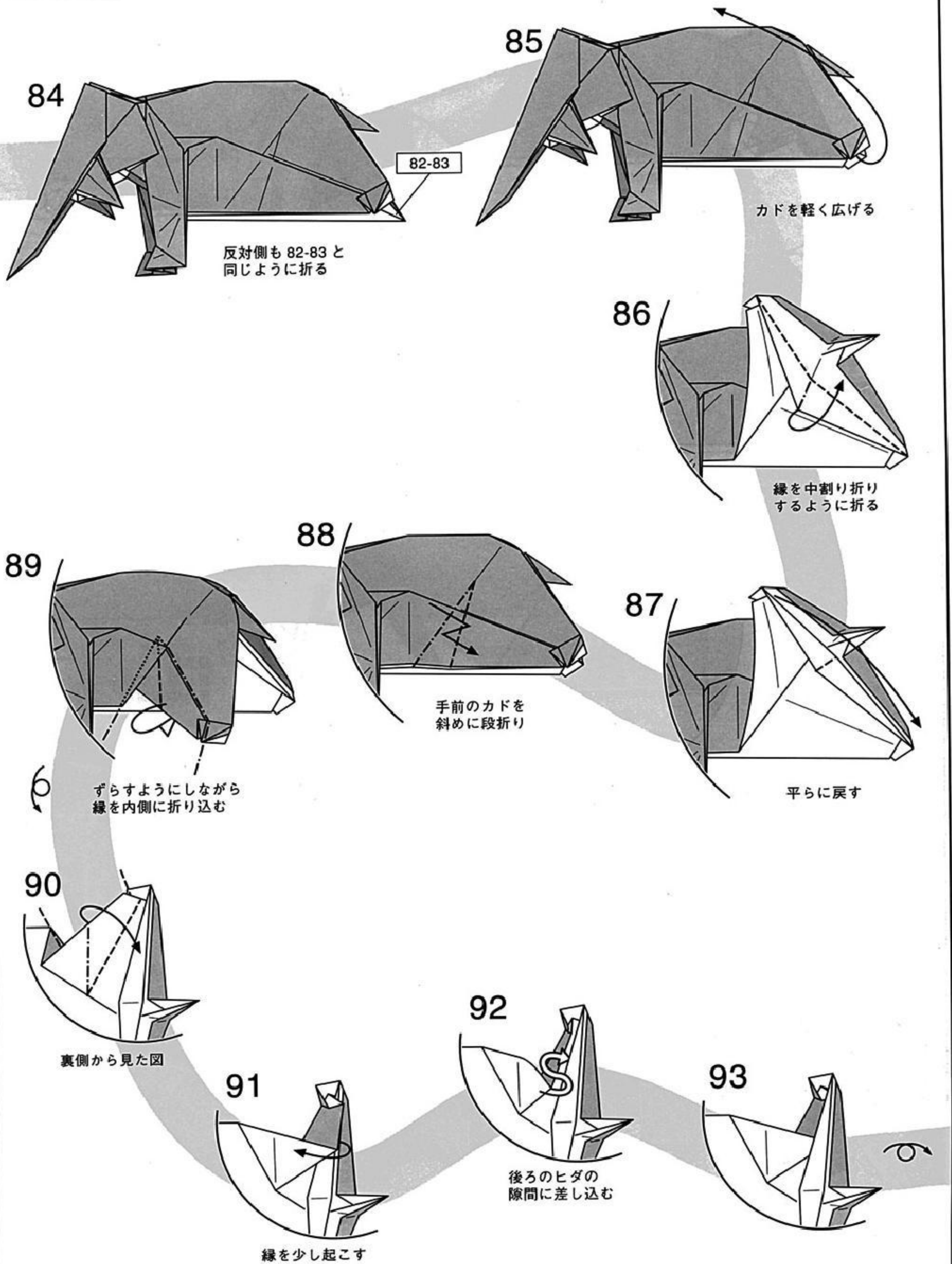
カドを内側に折り込む

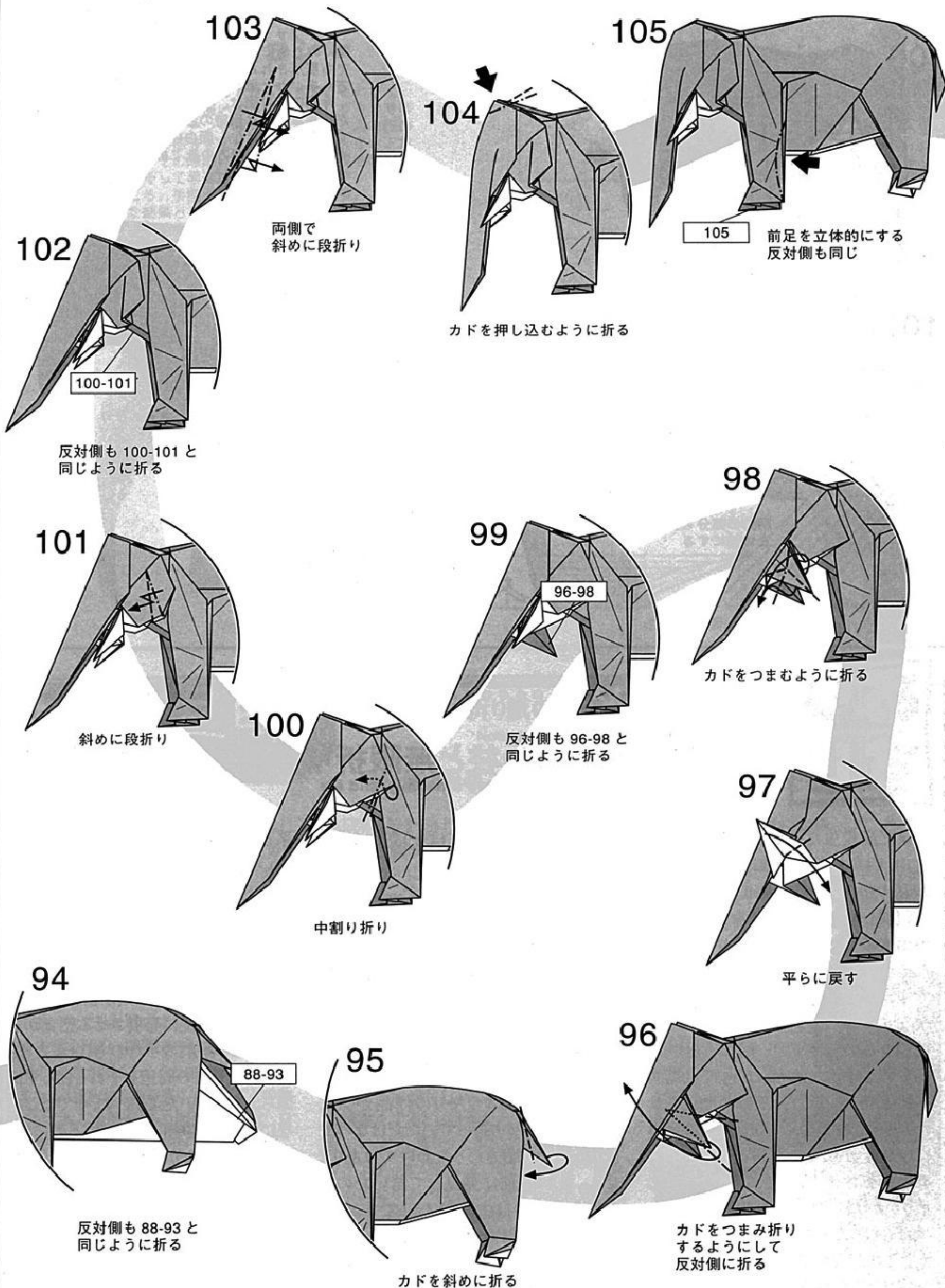
76

反対側も 71-75 と
同じように折る

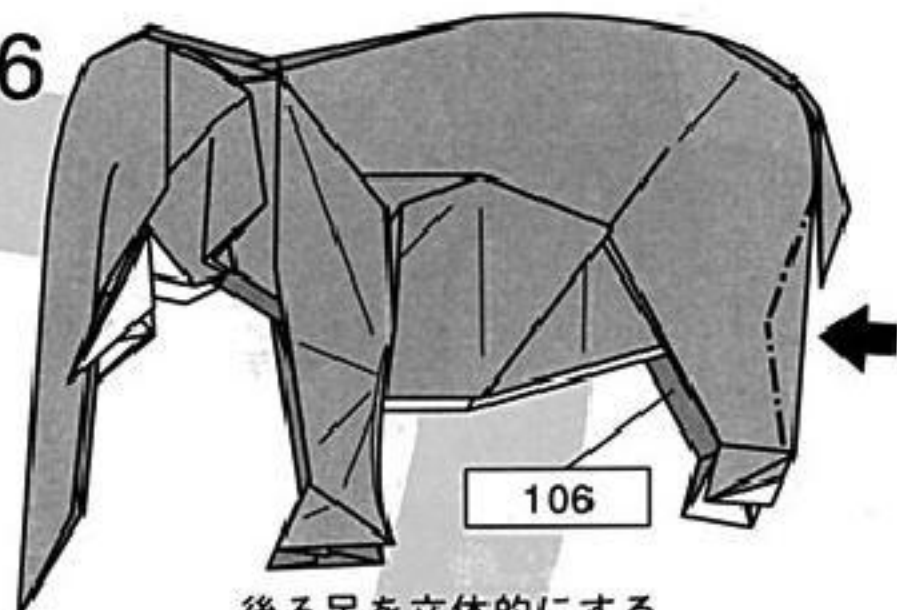
77

首の部分の縁を
内側に折り込む



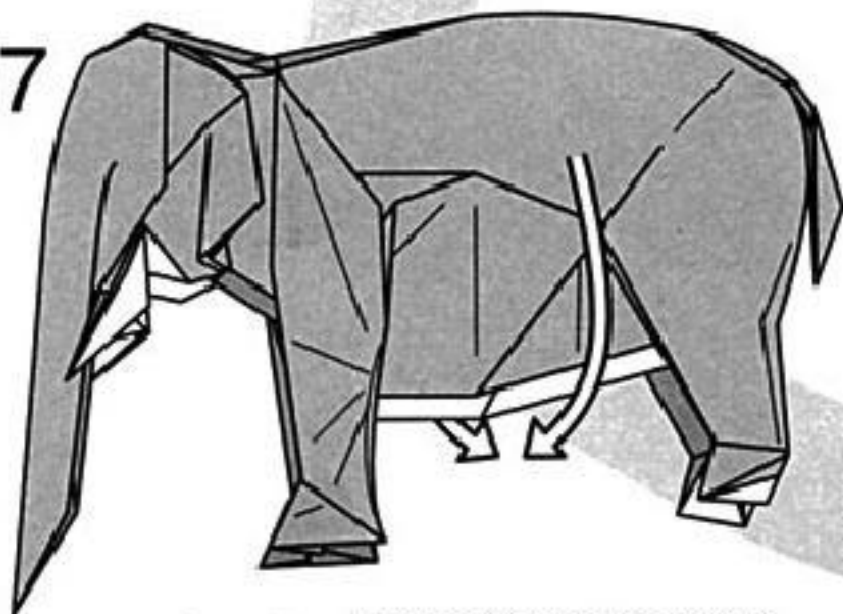


106



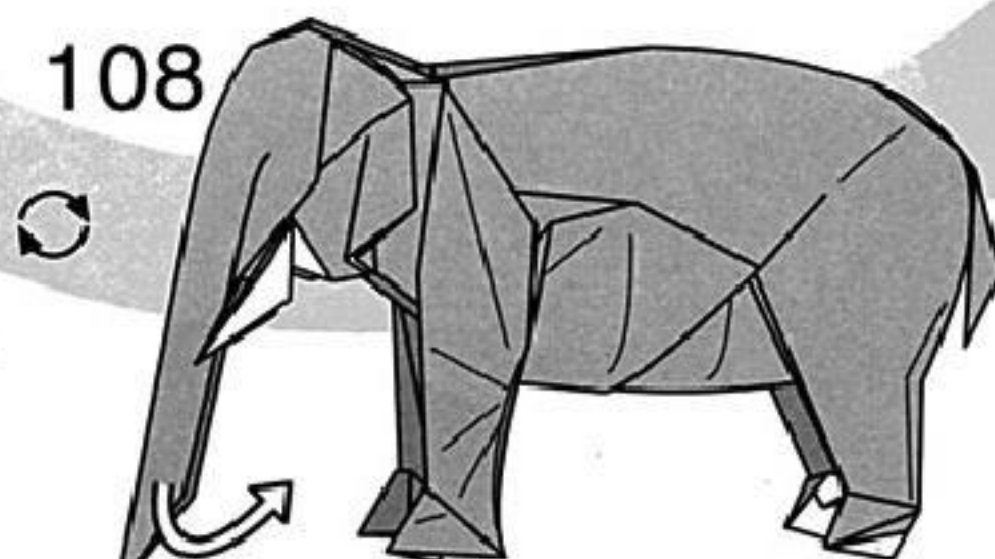
後ろ足を立体的にする
反対側も同じ

107



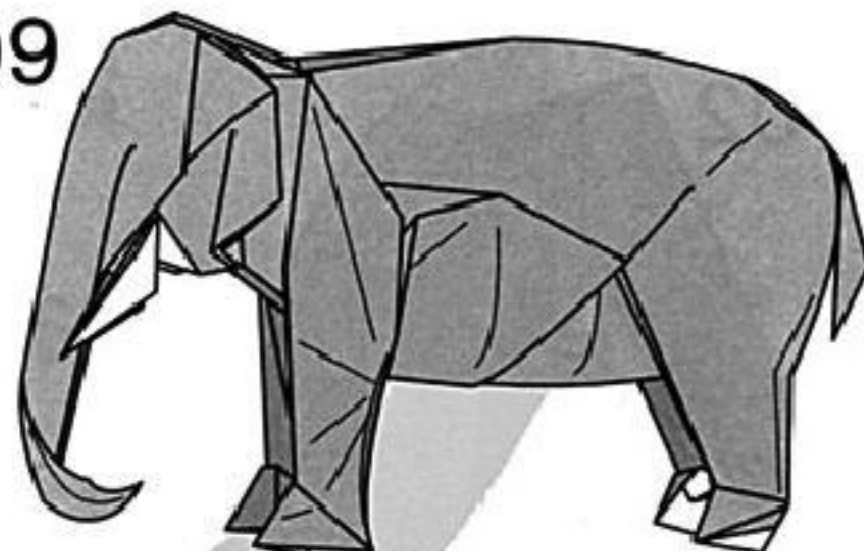
胴体の部分をまとめて
立体的にする

108



鼻の先を曲げる

109



できあがり

ライフサイズのゾウ製作（97号37ページ参照）のために創った作品です。コンベンションでも展示されたので、実物を見たことのある方も多いかと思います。

今回の折り図は、若干整理はされていますが、基本的には当時の巨大紙仕様の折り方です。特に前足は少し面白い折り方になっています。ぜひ7m四方の紙で折る事を想像しながら折ってみてください。



Orisuzi ("Fold-Creases")

私と四角柱と無限折り

A Cuboid, Infinite Foldability, and Me

池上牛雄

Ikegami Ushio

まだ高校生だった頃のある日の夕食中、四角柱を90度曲げたくになったのが私の折り紙創作の始まりです。突然「四角柱って折れるのかな？」などと言い出すので、家族は何だこいつと思ったそうです（弟談）。前後関係は曖昧ですが、この時期「ふしぎ折り紙」という5分のテレビ番組で探偵団を知っています。録画して画面に映った展開図を夢中で折りました。それに触発されたのかもしれませんが、90度曲げは簡単に出来上がり、じゃあ折り曲げ方向を45度回転させようということで2作目に取りかかりました。これもまずまず完成。次はもちろん折り曲げ方向22.5度。しかしこれが大変であることに気付き、コンパスと三角定規で作図する方法で

22.5度を解決した頃にはもう立派な折り紙好きになっていました。

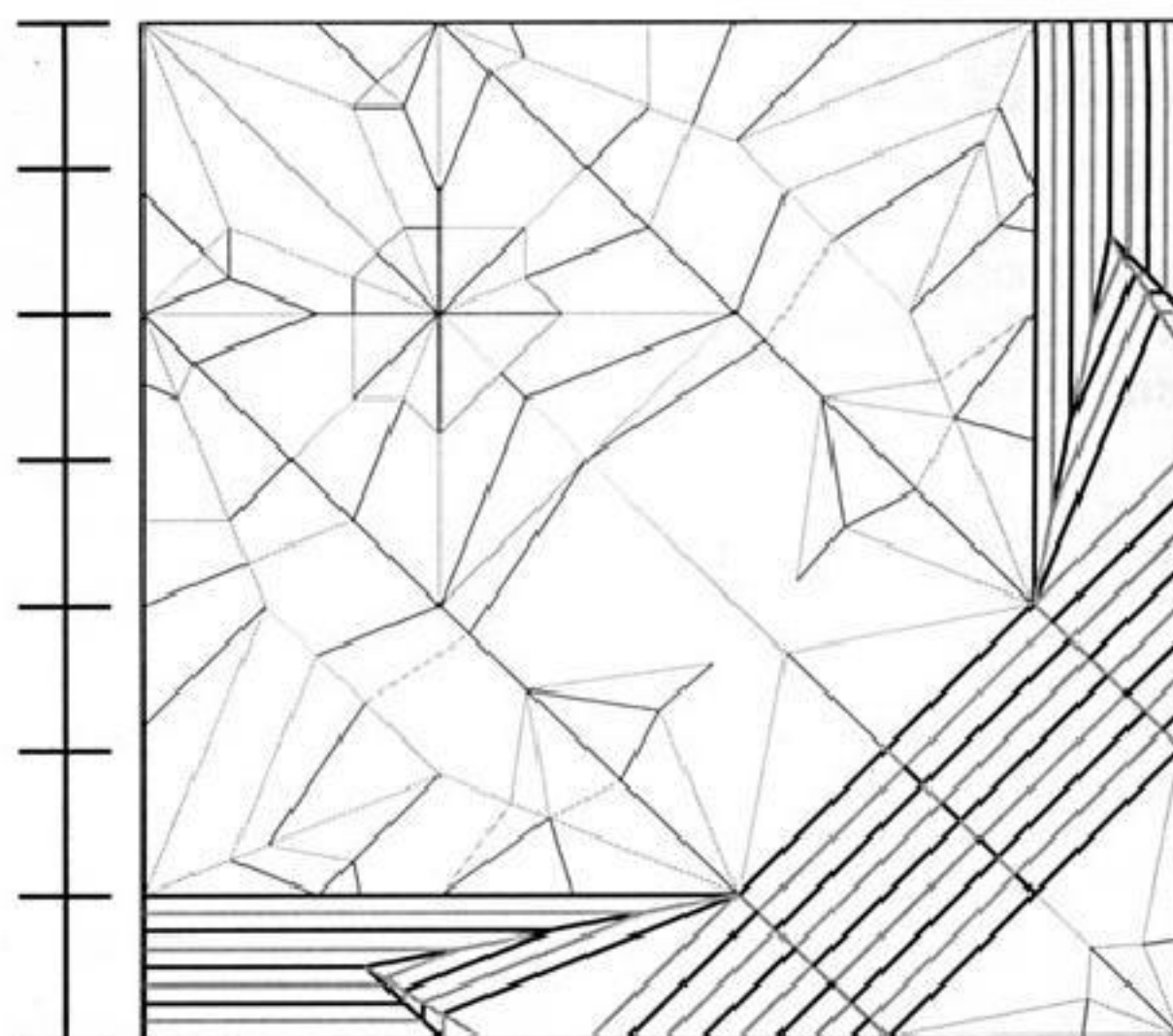
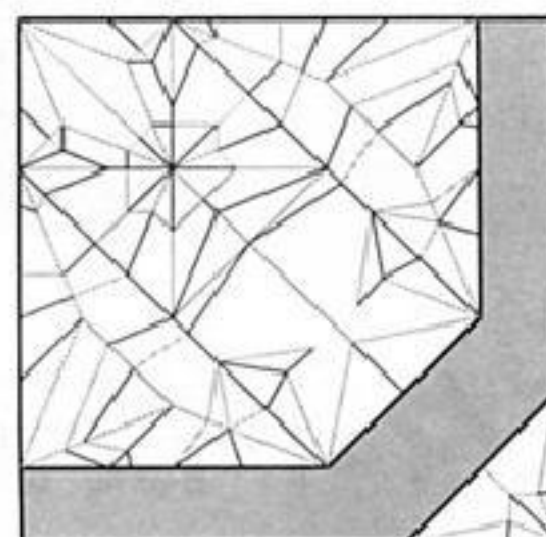
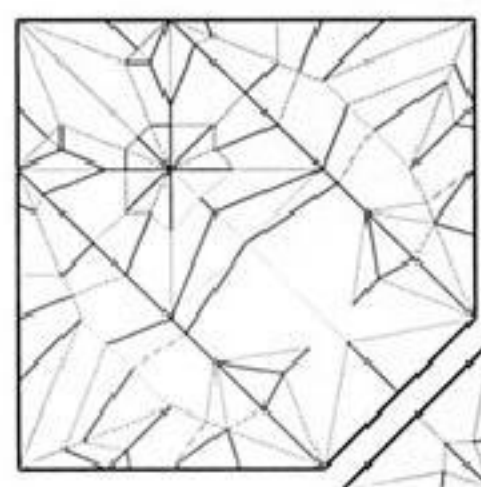
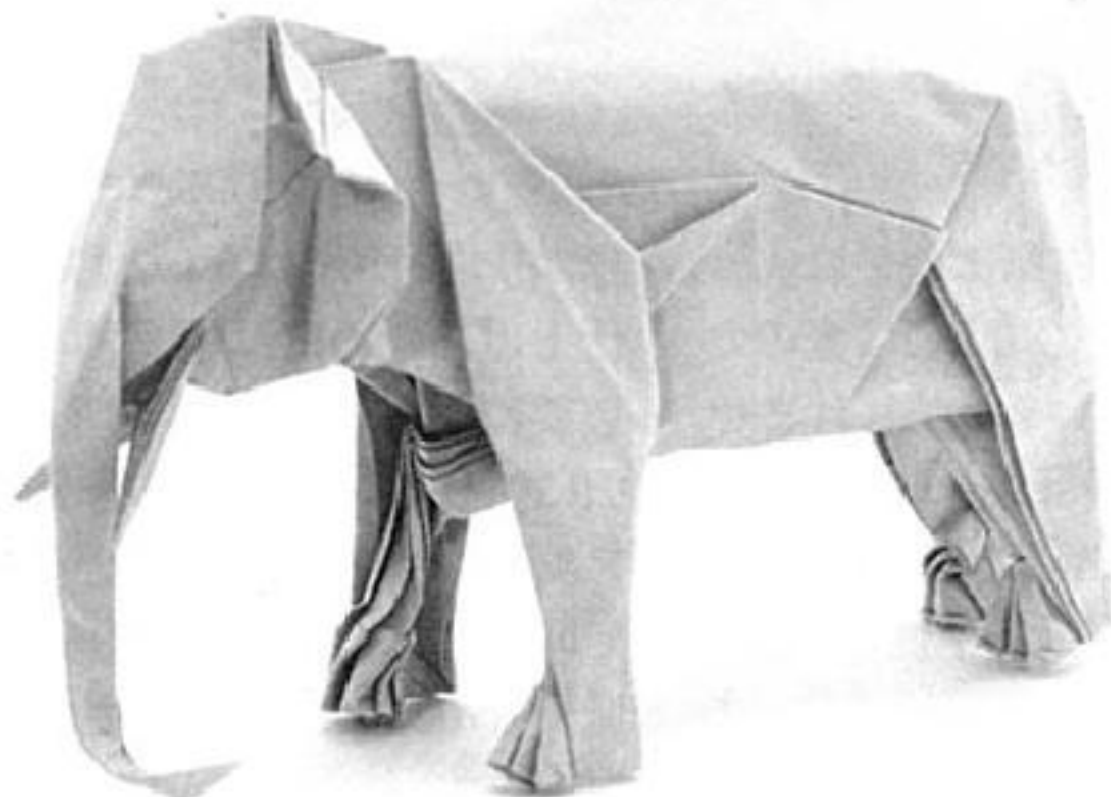
もっと以前に『をる』を見たことはあり、尋常ならざる世界の存在は知っていました。ただ、複雑な作品の折り方（多分ラング氏の鳩時計とか）が載っていなかったもので、「秘密にされちゃつまらないな〜」とのめり込みはしませんでした（折り図を描くのが大変なことをこの時はまだ知らない）。幼稚園の頃はよく折っていましたが、切り込みのあるコウモリの作品が気に入ってそればかり折っていただけなので折り紙一般が好きだったわけではありません。ちょっと前に発見して驚いたのは小学生の時の自由研究ノートです。なんと兜と鳳凰を創作しています。知らなかった！幾何造形じゃないし、しかも鳳凰には切り込みが…。ノートには「折り紙は理

系と文系の両方の能力を使う」とまで書いていますが、そこまで言いつつなんで忘れ去っているのか。この時はまだ『をる』が創刊されていません。何に影響されたんだ？よくよく思い出すと、四角柱曲げも確か小さい頃やってみたことがあったような気がします。ただそのときは45度に発展させる感覚がなくてそれっきりになったのでしょうか。どうも昔から折り紙の周辺をそれと知らずにふらふらしていたようです。今ではこんなに大事な趣味になっているのに、なぜ気がつかなかったのでしょうか。多分のめり込むのに今一つきっかけが足りなかったのでしょうか。結局、四角柱と「ふしぎ折り紙」の相乗効果が折り紙その物に目覚める原点だったと今ではつくづく思うのでした。

蛇足：指付バージョン

さて、この作品では前足をカドから出しているのですが、薄めの紙で折ると若干弱い感じになってしまうのではと考え、指をつけるパターンを考えてみました。右の図のように、展開図の尾の部分を持ち離し、一回り大きい正方形の中に配置して、その隙間にヒダを作る事で指を折り出す事ができます。そして早速試してみたのですが……

試してみたところ、手間がかかるわりには効果があまりないという残念な結果となってしまいました。ただ、指を折り出す方法自体は応用が効きますので、興味のある方はいろいろな作品に指をつけてみると面白いかもしれません(ただし蛇足にならないように気をつけて)。



作例の追加分は1/7です。

折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

第1回「折り紙の科学・数学・教育研究集会」開催

Notice of a Local Meeting: The 1st Symposium on Origami in Science, Math and Education

・折り紙の科学・数学研究の概況と最先端を知るまたとない機会！・

本号の川崎英文さんの報告に詳しいですが、去る9月8日から10日、カリフォルニア工科大学で、第4回折り紙の科学・数学・教育国際会議が開かれました。同会には、日本からも多数の参加者があり、みな、折り紙に関する学術的研究が広く深く発展してきていることを再認識し、さまざまな研究に大いに刺激を受けたことと思います。一方で、研究者や愛好家の情報交換にまだまだ改善の余地が多くあることも痛感しました。また、同報告にもある通り、約5年ごとの集まりである次回会議の開催地として、日本で、という期待が寄せられています。

そうした期待の多くは、日本折紙学会に寄せられるものと言ってもよいでしょう。日本折紙学会は、会の設立目的・理念にも「折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評、評論」と並び「数学研究、教育研究、歴史・書

誌研究」等をあげています。この理念に相応しい活動は、コンベンションや機関誌、研究資料などにより、これまでも微力ながら果たしてきましたが、今回、その活動をさらに発展させる企画のひとつとして、表題の集まりを持つことにしました。これをさきがけにして、随時、研究会やセミナーを開きたいとも考えています。

今回の集会は、さきの国際会議において発表を行った研究者の何人かが、時間の関係で当日触れることができなかった部分も含む発表を行い、参加者とともに自由な議論をするというかたちで進めたいと考えています。カリフォルニアの会議に参加できなかったひとには、その内容の一端を知るまたとない機会となるでしょう。折り紙の科学、数学、教育に興味のあるかたは、奮ってご参加ください。

なお、会場のJOASホールは、折紙探偵団東京友の会の例会や、布施、北條、神谷

各氏の定例教室の会場として、本年春から運用を開始している、キャパシティ約50人の、最新ビジュアル設備を備えた施設です。まさに今回の集会上うってつけの会場と言えるでしょう。

(日本折紙学会代表：前川 淳)

◆第1回折り紙の科学・数学・教育研究集会

日時：2006年 12月17日(日)
13:00-17:00

会場：JOASホール

東京都文京区白山1-33-8-217

主催：日本折紙学会

発表者(予定)：三浦公亮、三谷純、
舘知宏、池上牛雄

参加資格：資格はありません。当日
会場にお越しください。

参加費：500円

展開図折りに **挑戦**

Crease Pattern
Challenge!

第44回

佐々木禎子像

A Statue of Sasaki Sadako

堀口直人

Horiguchi Naoto

Created: 2006.10

Paper Size: 56×56cm

Height: 10cm



折 紙探偵団マガジン、通巻100号
おめでとうございます。

私が本誌の読者になったのは丁度、装丁が雑誌になってからでした。それでも半分近くの号をお付き合いさせていただきました。今回、その記念すべき号に掲載させていただく機会を得ました。この機会に、皆さんもよくご存じで、以前から取り組んでみたいと思っていた佐々木禎子さんを折ってみることにしました。彼女については私が今さらこの場で語ることもないかと思っています。

佐々木さんを折りたかったのは彼女が折紙界にとって重要な人物ということに加えて、折紙を折りあげた瞬間の喜びを最も強く感じていた人物だと思っています。過去を振り返ること、そして紙を折ることの感動を伝えること、それが日本折紙学会の今後の発展のために少しでも役立てばと思います。

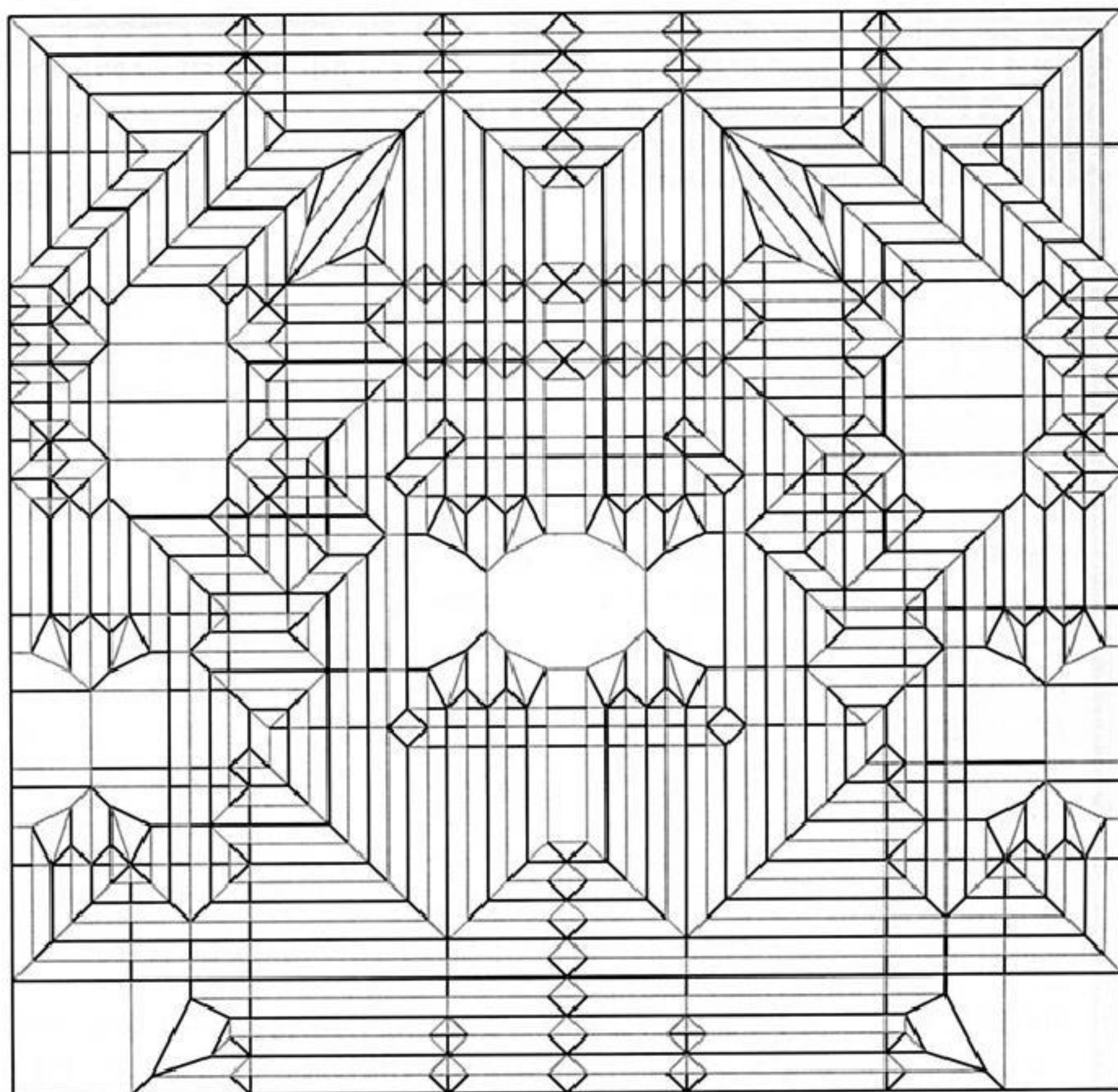
少し前置きが堅苦しくなりました。造形ではカド、ヒダ、面のうち、最近の私の傾向に合わせて面を強調したものになっています。最近意識している高濱利恵さん風の仕上げを目指しましたが百年早いという印象です。

展開図としては56等分を基調としたジャバラで、上部には3:4:5の神谷パターンが混ざっていますが、ヒダの幅を変える部分に慣れればそうひねったところはないかと思っています。展開図を畳めば必要なカドとヒダは全て出てくるので、折るというより曲げるような感じで仕上げていきます。指と髪のカドで沈め折

りが必要となりますが、作例は前髪に尖った印象が出てしまったのでここは素のカドのままずらした方がいいかもしれません。お好みでどうぞ。

上端の紙の角から出したカドは辺から出した幅4マス分のヒダ(背中側にあるものです)と組み合わせて羽織りを作ります。肩周辺でヒダが干渉し合うのでこのカドで上手く隠すようにして下さい。仕上げにおいてここ以外でカドの使い方が

分かりづらい所はないと思います。しかし仕上げるためには相当薄く、丈夫な紙が必要になるでしょう。特に首回りは相当強引に折っています。この作例ではカラベとアルミホイルを貼り合わせたものを使用しています。これより厚い用紙を使う場合、最低でも70cm四方の大きさは必要になると思います。持たせている折鶴は4cm四方の用紙を使っています。



File-20

木村良寿

Kimura Yoshihisa

木村良寿(きむら・よしひさ)=1959年生まれ。
なぜか折紙探偵団の名付け親にして初代団長。
イラスト、漫画の時のペンネームが世間亭キニスキー。



■折紙をはじめたきっかけは?

笠原邦彦さんの『おりがみすいぞくかん』(有紀書房 1970年)を小学校5年の時に本屋で見つけたことです。しばらく熱心に折っていましたが、いつの間にかマンガを描く方に興味が移っていきました。再び始めるのは中学2年の頃でしたが、急に創作が出来るようになったので面白くなって。—その頃はどんなものを。—

マンガのキャラクターや怪獣などです。—普通のものは作らないのですね。—

恐竜や戦闘機などが「普通のもの」でないとするれば、初期の頃はほとんど作っていませんね。マンガなどを描いてたこともあるんでしょうか、自然とキャラクターものが上手く決まるようになって。

—シンバルモンキー(写真1)なんか、広義にはキャラクター的ですね。—

■キャラクター折紙の先魁でもあります。が、どんな思いで作っておられましたか。

折紙としてどうかということよりも、そのキャラクターの十分条件の方が大事だと意識しています。既存のキャラクターだと例えばウルトラホーク1号は3分割されなければならないとか、どうしても外せない性質が何かを見いだす事が大事だと考えています。

—ホーク1号(図1)の話なんかは、ディテールにうるさいマニアと受け取られそうですが、要は対象の大事なところをととても気にしているということですね。怪獣シリーズのカッコよ

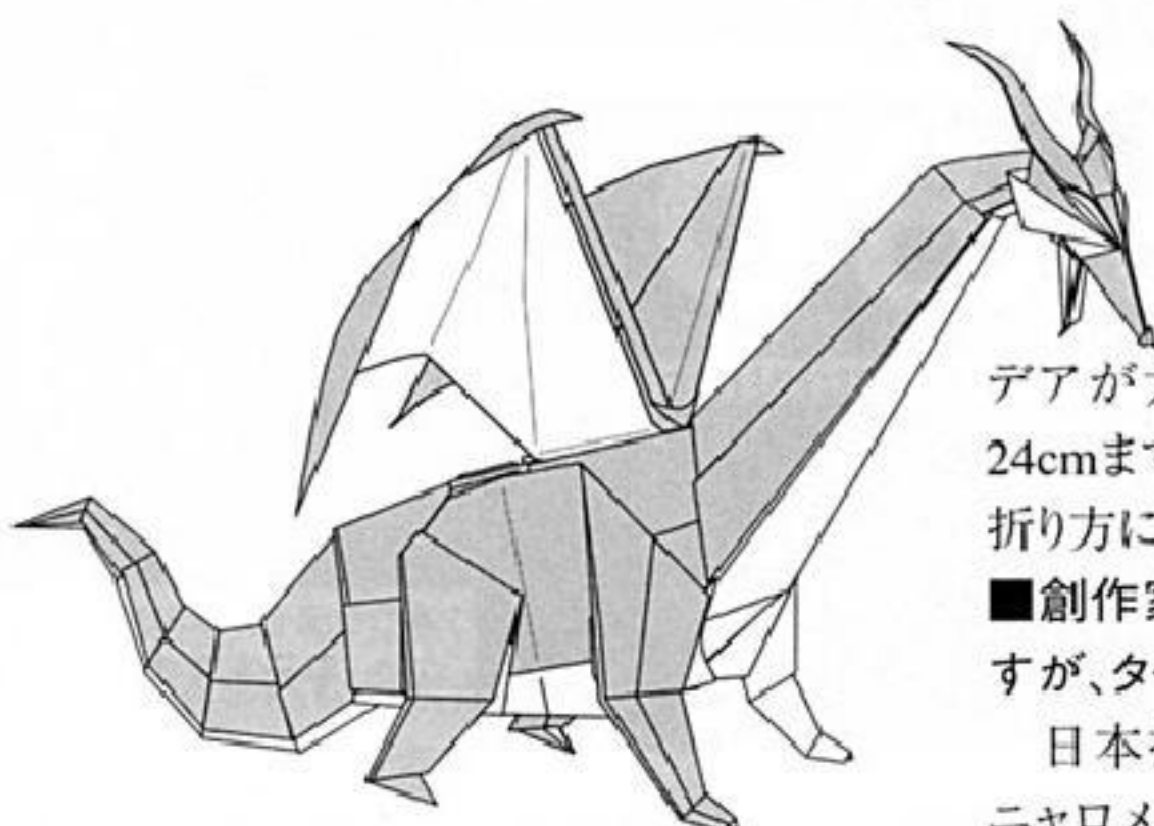


図2) ブラックドラゴン "カッコいい系作品と折って下さい系作品の融合点"

さも木村さんを語る上で外せないと思うのですが。—

いろんな意味で、小さいときから親しんだ怪獣映画が原点ですね。キャラクターの大事なところへのこだわりやその後SFを読むようになったのも、そこが原点だと感じます。

■どのような方法(プロセス)で創作をしますか?

意外に思われるかもしれませんが、事前のデッサンというようなものをほとんどしません。にわか勉強的なものに物足りなさを感じているのかもしれません。

—形が決まるプロセスはどうでしょう。—

きっかけになる形—中間目標みたいなものを見つける、あるいは浮かぶというのが最初です。いわゆる設計的には作りませんね。

—創作する上で心がけていることがあったら教えてください。—

世の中には、ホントにたくさん折紙作品があるのだから、何か個性や新しさを加え

ないと、とは心がけてます。アイデアが大切ですね。最近の作品では、24cmまでのふつうの折紙用紙で折れる折り方にしています。

■作家として長いキャリアをお持ちですが、ターニング・ポイントはありましたか。

日本折紙協会に入会して、寅さんやニャロメがすぐに雑誌に掲載された事。大学生になってからはタヌキやシンバルモンキーなどの「折ってもらうための作品」を作るようになった事。そしてその後、折紙探偵団新聞を発行するようになった事。こういう折紙への関わり方の変化は大事なポイントですね。

■お気に入りのオリジナル作品は?

ブラックドラゴン(図2)、ちびシリーズ(『折紙探偵団コンベンション折り図集』Vol. 11, 12)です。ちびシリーズ(図3)は最近の作品ですが、目新しくない題材で、難しすぎず、新鮮な形で、の方向性が意識の上ではっきりしてきたのはホントに最近のことなんです。

■今後の抱負あるいは作品作りの方向を教えてください。

誰も作ったことがない新しい題材であっても、表現法が平凡だと単なる既製品のバリエーションになってしまう。題材が新しいだけのものは、どうしても説明的にならざるを得ないので、あまり面白くありません。使い古された題材(動物とかみんなが良く知っているもの)の方が新しい味が加えられる。ある種の自由さがあり魅力があります。世の中で記号的な形として親しまれているものは、実際にはあまりリアルな物は無いんじゃないかなあ。

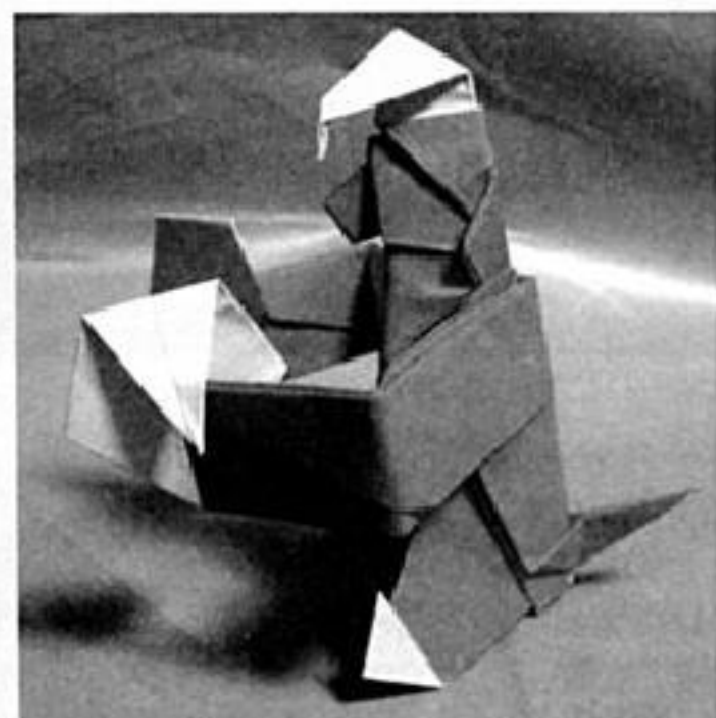


写真1) シンバルモンキー

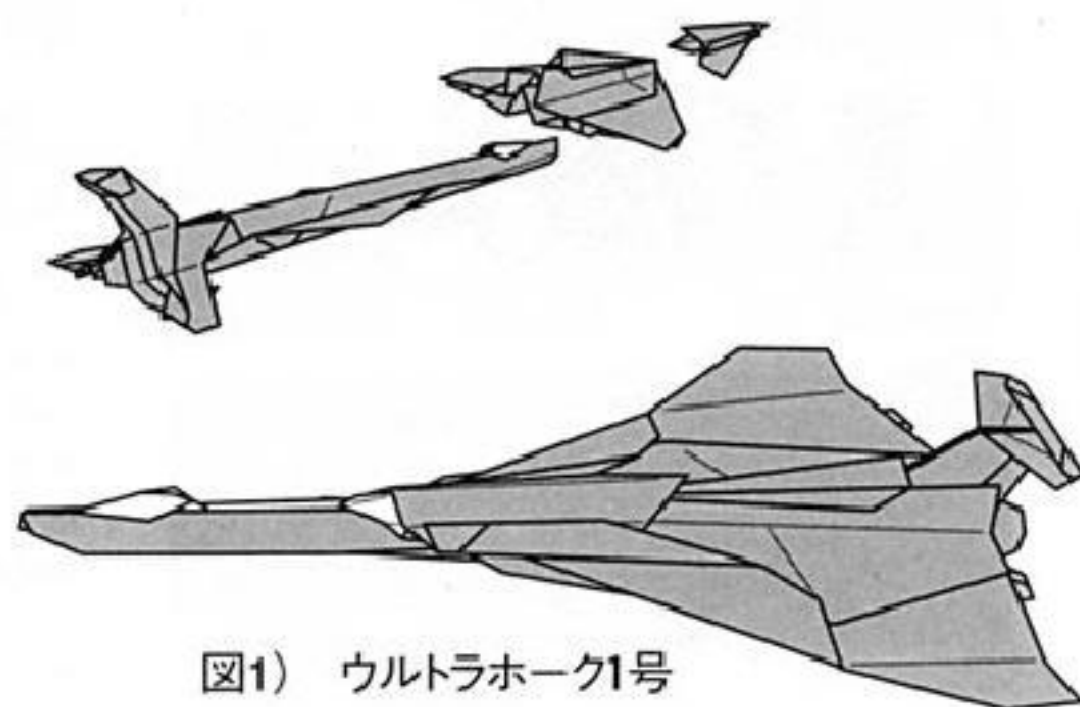


図1) ウルトラホーク1号

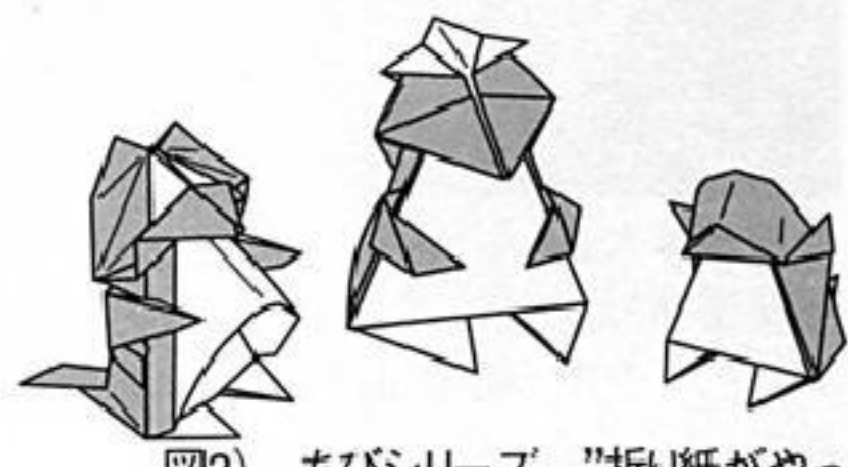


図3) ちびシリーズ "折紙がやっとイラストに追いついた"

Rabbit Ear

つまみおり

Information



▲ウクライナホールでは300人を超える参加者を相手にデモ。さすがの筆者もあわてた。手元を写すカメラと大型モニターによって問題なく進めることができた

国際交流基金派遣レポート やまぐち真

国際交流基金から文化事業の派遣依頼がきた。久しぶりの派遣依頼であった。過去に2度、アルジェリア、モロッコ、チュニジアのマグレブ3国、それとタイに派遣されて折り紙のデモンストレーションを行ってきた。今回は中央アジアのウズベキスタン、カザフスタンそれとウクライナを巡る15日間の長旅であった。

ウズベキスタン

ウズベキスタンではサマルカンドとタシケントでデモンストレーション(以下デモ)をやった。サマルカンドへはタシケントからの列車移動、懐かしいような光景が車窓から映し出されてくる(若い頃ヨーロッパ放浪をしていた)。早朝の出発で昼頃にサマルカンドに着いた。昼食もそこそこにデモが始まる。会場は子ども芸術センターというところであった。ここでは子どもたちが作ったり描いたりしたものを発表している。中に折り紙を展示している子がいた。よく見るとその中におしゃべりカラスを発見!嬉しくなりました。



教室は大きなホールで、中央に15メートルもあろうかという会議用のテーブル。そのテーブルの中心に作品を展示してデモが始まった。イヤー参った。広すぎるというより長すぎる。全員が同じようには進めない。

あっちうろうろ、こっちうろうろ。

2日目は第6孤児院というところの食堂で、デモが始まった。ここでは青年海外協力隊の女性で伊藤さんという方が働いてるところで、近隣から協力隊の仲間がお手伝いに来てくれた。もともと伊藤さんが折り紙をやっていたので、折り紙の知識はあったが、専門家(国際交流基金の文化交流で派遣される人を専門家と呼んでいる)が日本から来るということで楽しみにしていたそう。



▲第6孤児院でのデモ風景

翌日はタシケントに戻り、美術専門学生対象のデモ。ここでは展示作品がガラスのケース内に収められ、良い展示が出来た。ちなみに今回展示するために日本か



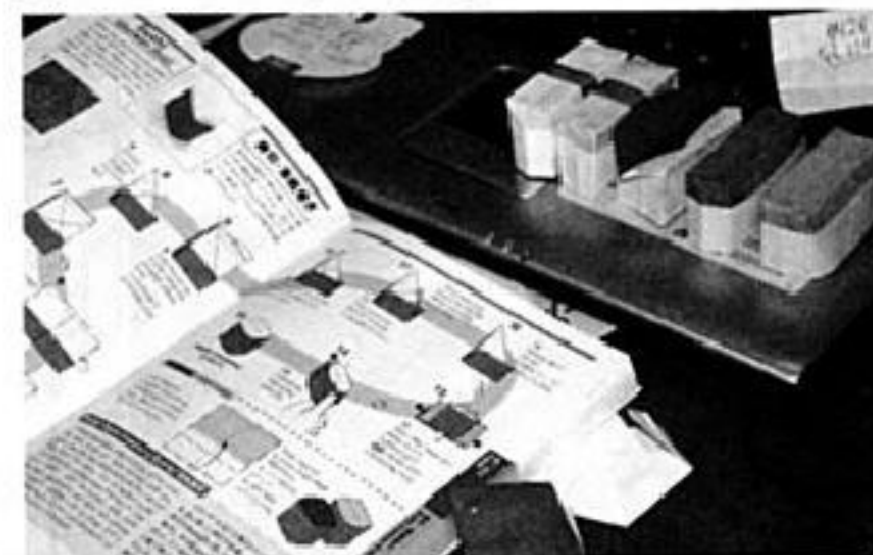
ら運んだものは約100点ほどで、北條、神谷、前川、小松、宮島、勝田各氏と私の作品をマックの空き箱に整理して運んできた。それらを各会場で展示、収納の繰り返しをおこなってきた。

▶美術専門学生達は北條高史氏の作品アルバムを熱心に見ていた



タシケントでは他に小学校などでデモ。ウズベキスタンでの仕上げはUJC(ウズベキスタン・ジャパン・センター)というところで2日間にわたってデモ。そんな中で私を喜ばせてくれた少年がいた。それは折り図を描きながら講習作品を折っていたことだ(素敵な受講者参照)。

またUJCの職員が、手みやげに差し上げた拙著『英語で折り紙』から早速いくつかの作品を折っていた。中でも寿司は気に入っていたようである。



▲仕事(?)に折った寿司がパソコンの上に

▶タシケントで、商店の入り口に風船基本形の折り筋をつけた金属製の板が2枚重なっている看板があった



素敵な受講者達

今回の派遣ではどこでも良い思い出ばかりであったが、特に記憶に残る素敵な受講者に恵まれたことに感動した。



左はウズベキスタンのUJCで少年が描いた折り図と少年。右はカザフスタンのアルマトウイの芸術カレッジの生徒が描いた折り図と本人(写真左)。

カザフスタン

カザフスタンはウズベキスタンに比べると経済状態がいいようで物価が高い。最初に訪れたアルマトウイは車社会で、慢性的な交通渋滞のため、会場間の移動にも影響を与えた。

アルマトウイで最初に訪れた学校ではほとんどの生徒がモンゴル系の子どもたちであった。カザフスタンではモンゴル系が圧倒的に多いそうである。

ウクライナ

ウクライナは首都のキエフを訪問。中央アジアのウズベキスタン、カザフスタンとはがらっと変わって、ここはヨーロッパだという感じ。町並みもヨーロッパそのもの。しかし、ソ連時代の雰囲気がかしこに感じられるのは私だけだろうか。特にホテルのサービスは社会主義国の名残が感じられた。



▲日本大使館でのキエフ折り紙クラブの例会で

ウクライナにはキエフ折り紙クラブというのがあって、毎月1回日本大使館の一室を使って、例会が開かれている。その活動は活発で、例会の他にエキジビション等も開いている。今回の私の派遣に対して皆さん楽しみにしていたということであった。その割には何もしてあげられなかったが、私の書いた本数冊と神谷本をクラブに寄贈した。



▲立ち見が出たアルマトウイの芸術カレッジ

他に、アルマトウイではJC(ジャパンセンター)と芸術カレッジでデモ。芸術カレッジでは一般、学生と2日間デモがあり、会場には入りきれないほどの参加者があった。参加者が多いということで、テレビカメラで手元を写し、壁に投影する方法でデモをおこなった。作品展示も人気があり、夢中で携帯で写真を撮る姿が目についた。

アスタナは遷都で首都になった町。地平線が見られる箱庭のように作られた町という感じがした。アスタナでは人文法律大学において、子ども、一般、学生と2日間で3回のデモ。結構ハードなスケジュールのカザフスタンであった。



◀アルマトウイの学校で



壁に投影された画像を見ながら進められた(右上)。画像を見ながら折る受講生(右、下)



▲アスタナでは一度に大勢が展示作品に押し寄せ、ちょっとしたパニックに



◀携帯を使って作品を写す姿は万国共通?



◀キエフ折り紙紙クラブ会員の作品

▶ Drygalo君(14)のぶたの貯金箱。なんとなくほのぼのと何か温かさを感じさせてくれる作品だ



キエフではちょうど日本月間ということで、折り紙が日本月間のプログラムの1つに組み込まれていて、他の訪問国より盛り上がりを感じた。

キエフでの初日は午前中に小中学校でデモ。午後は大使館でキエフ折り紙クラブのメンバーにデモをした。

翌日はウクライナホールという大きな会場でのデモ。来場者は300人を超え、どうな

ることかと心配したが、手元を写すTVカメラと大型モニター2台のお陰で何とか乗り切ることができた。私も長い間いろいろな状況でのデモを経験しているが、さすがに一度に300人を超えるというのは初体験である。

ここではデモの他にロビーに作品の展示があった。日本から持参した作品群はガラスのケースの中に収められ、格調高く展示することができた。見学者も多く、質問も多かった。

ここではデモの他にロビーに作品の展示があった。日本から持参した作品群はガラスのケースの中に収められ、格調高く展示することができた。見学者も多く、質問も多かった。



▲ガラスのケースに収められた作品展示が好評であった



▲くす玉の飾りを付けた女の子。見学者の目を引いていた

折り紙発展途上の国に行くことは、私のような者にとってとても幸せなことである。それは多くの笑顔をはじめ、思いがけない折り紙ファン、マニアとの出会いがあるからだ。その出会いを通じて、小さな足跡を残すことができる喜びは例えようがない。

先達の方達がいて、今の国際的なORIGAMIの世界がある。今回の派遣を通じて、少しでもORIGAMIのお手伝いができていたらよいのであるが……。

この旅でも多くの人との出会いがあった。中でもコンプレックス作品の展開図折りを中心に楽しんでいるという若者Igor Stovschaty氏(24)との出会いは格別であった。彼は探偵団系の他にロバート・ラング氏、エリック・ジョワゼル氏などの作品が好きだというオリガミマニアだ。また、折紙探偵

団マガジンの購読者ではなく、ネットを中心に展開図を手に入れて楽しんでいるということである。できれば購読者になってもらいたい若者である。



素敵な折笑顔



◀コンプレックス青年のStovschaty氏。(編注:本文カラーページp.21に制作作品紹介)

「現代折り紙」北條教室に参加して 寺田和広

9月24日JOASホールで開催された、北條高史さんの教室に参加してきました。

4回目となる北條さんの教室ですが、「弥勒菩薩」「イカロス」「イカロス糊付け」に続き、今回の作品は「仏像」。11時から16時までたっぷりと時間をかけて取り組むというスタイルで、昼食もさっさと済ませ僕らの折りは止まりません。あ、少年が既に折り終えている…のを横目にマイペースで折ります。

作者本人の作品を見ながら仕上げを詰めていくのがこの教室の醍醐味。基本形状が折りあがった頃から作品の周りには怪しい人垣ができ始めます。前から後ろから上から、そして下からも……全方位から見つめます。最近、メンバが固定化してきたという噂もある北條教室ですが、そんな私も遠路3時間かけて毎回参加しているリピー

タの1人です。北條さんのネタが尽きるまで参加させていただきたいと思います。(編注:寺田氏製作の仏像は本文カラーページ(P.21)に紹介。)

第8回折紙探偵団関西コンベンション日程決定

2007年5月3日(木)・5月4日(金)
場所:神戸女学院大学文学館2階
講演・講師・懇親会・宿など詳細は未定
申込用紙等は、次号配布時までにはWebに掲載予定(追ってお知らせします)、また関西友の会からのお知らせをすでに受け取っている方には郵便にて出来次第送付されます。講習受付順位は全面的に抽選ですので、早く申し込み用紙を受け取っても有利になるということはありません。

ます。/G205教室/「いのしし」講師:各務均。「おすし、おはし」講師:岡島正彦
●07年1月20日(土)(予定)会場=名古屋芸術大学西キャンパスG棟204・205(予定)

関西友の会 ※折り紙は各自持参

●12月17日(日)/会場=長岡京市産業文化会館/14:00~17:00/参加費=高校生以上500円/講師:立石浩一(予定)/作品:ダイヤモンドブリッジ=川村みゆき・作(予定)

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

●1月14日(日)会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F/参加費=500円/時間=10:30~12:00/問い合わせ:054-254-4541(増武内 山口16~20時)

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=500円(中学生以下300円)/講習会=14:00~/研究会=16:00~

●12月2日(土)/JOASホール/講師:小宮はじめ/作品:桔梗箱

●1月6日(土)/JOASホール/講師:未定/作品:未定

東海友の会 ※折り紙は各自持参

●12月16日(土)会場=名古屋芸術大学西キャンパスG棟204・205/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=13:00~16:30/G204/フリースペースとして教室や折紙交流ができる場所になってい

JOASホール今後の予定

◆12月16日(土)「知子の部屋」布施知子。

参加費=2,500円。12:30-15:00

◆07年1月28日(日)「ある折紙作家の教室」神谷哲史。

参加費=3,000円。11:00-16:00

講習作品「ヤドカリ」

◆07年1月20日(土)「知子の部屋」布施知子。

参加費=2,500円。12:30-15:00

◆07年2月25日(日)「現代折り紙」北條高史。

参加費=3,500円が予定されています。

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。これをできない場合は電話でも受けます。上記の予定は講師の都合により変更される場合があります。事前にお問い合わせください(03-5684-6040)。

編集後記

■ここ5ヶ月で海外出張が5回、歳のわりにはずいぶん頑張っていると思う。■これだけ動けばまだまだもう少し頑張れるかも。■今回の旅ではたくさんの人にお世話になった。■発展途上国の社会で働くJACAでの女性達のたくましさ感動、みんな頑張っている。■サマルカンドについてくれた通訳の女性は小泉前首相がサマルカンド訪問した際に通訳をした女性だった。■折り紙をやっていたからこそその出会いの旅であった。

ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>
団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)

折紙探偵団

2006年11月25日発行 第17巻4号通巻100号
発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/前川 淳

編集人/山口 真

編集スタッフ/神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

広告のコーナー



おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第12回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.12

日本折紙学会 編/2,000円/送料420円
B5判/全256頁 **好評発売中!**

セントバーナード:霞 誠志、吉本キューブ:川島英明、
15'ショウリョウバッタ:西川誠司、メタリフェルホソ
アカクワガタ:神谷哲史、カタツムリ:目黒俊幸、決戦!!
カブト対クワガタ:北條高史、1枚折りのバラ:ブライ
アン・チャン、ミウラ・ケン・ビューティー・ローズ:ロ
バート・J・ラング、ワシ:ニコラス・テリー、スズメ:ロ
マン・ディアス等、国内外の52作品収録。

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込)※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
折り紙色紙百花 田中具子 著 山口 真 編	2,500円		B5判/全120頁/カラー口絵8頁/31作品収録 色紙に貼り込んで飾る花の折り紙作品集
一生 スーパーコンプレックス おりがみ 吉野一生 著 完売御礼	—		B5判/全200頁/カラー口絵8頁 トリケラトプス全身骨格を含む14作品収録
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判/全180頁/カラー口絵4頁/18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録
第9回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.9 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作45作品を収録
第8回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.8 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外の作家の秀作51作品を収録

※第1回~第7回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「冊子小包」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

書籍2冊の送料は530円/書籍3冊の送料は670円(例外を除く・下記参照)
例外:「折り図集」又は「色紙百花」だけを3冊の場合(例:折り図集8、9と色紙百花各1冊)のみ 530円

上記以外の場合はお問い合わせください/書籍と紙製品は別発送となりますのでご了承ください

商品名	価格(税込)	送料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	国内一律 1~2セット 440円	35×35cm/10枚入/70kgの 洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 3種類から 折り図つきセット 選べます	1,200円	3~5セット 630円※	1. ドラゴン(北條高史作) 2. ティラノサウルス(神谷哲史作) 3. カルノタウルス(神谷哲史作)

※紙製品は定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送になります)。
送料には梱包材代が含まれています

只今制作中 発行日は未定です。気長に待っていて下さい

折紙図鑑「犬」/佐野康博・著 犬の折り紙第一人者の作品集
北條高史作品集/北條高史・著 あの名作の折り図も掲載予定

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216

TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080

E-mail: info@origamihouse.jp 10時~18時 日・祝休

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に**郵便振替**か**現金書留**で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

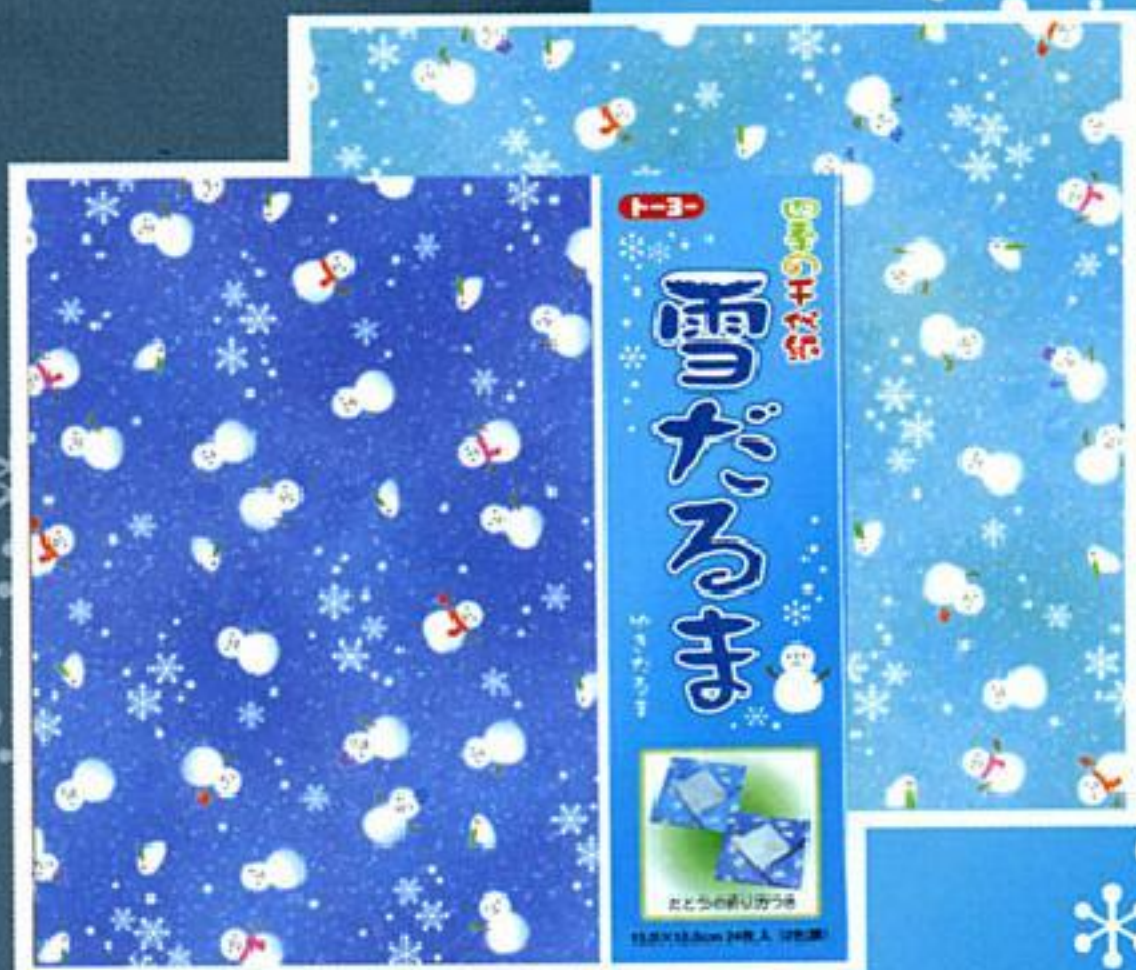
四季の 千代紙

秋冬柄

¥200
(税抜き)



秋桜



雪だるま



赤とんぼ



雪の舞



株式会社トヨー

ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡営業所 / 札幌出張所 / 松山出張所

日本折紙学会発行 定価 635円 (本体605円)

